

Nikon

FM2

使用説明書

各部の名称

① レリーズガード

② 吊り金具

③ 絞り込みレバー

④ セルフタイマーレバー

スクリーン交換レバー⑫

絞り値窓⑬

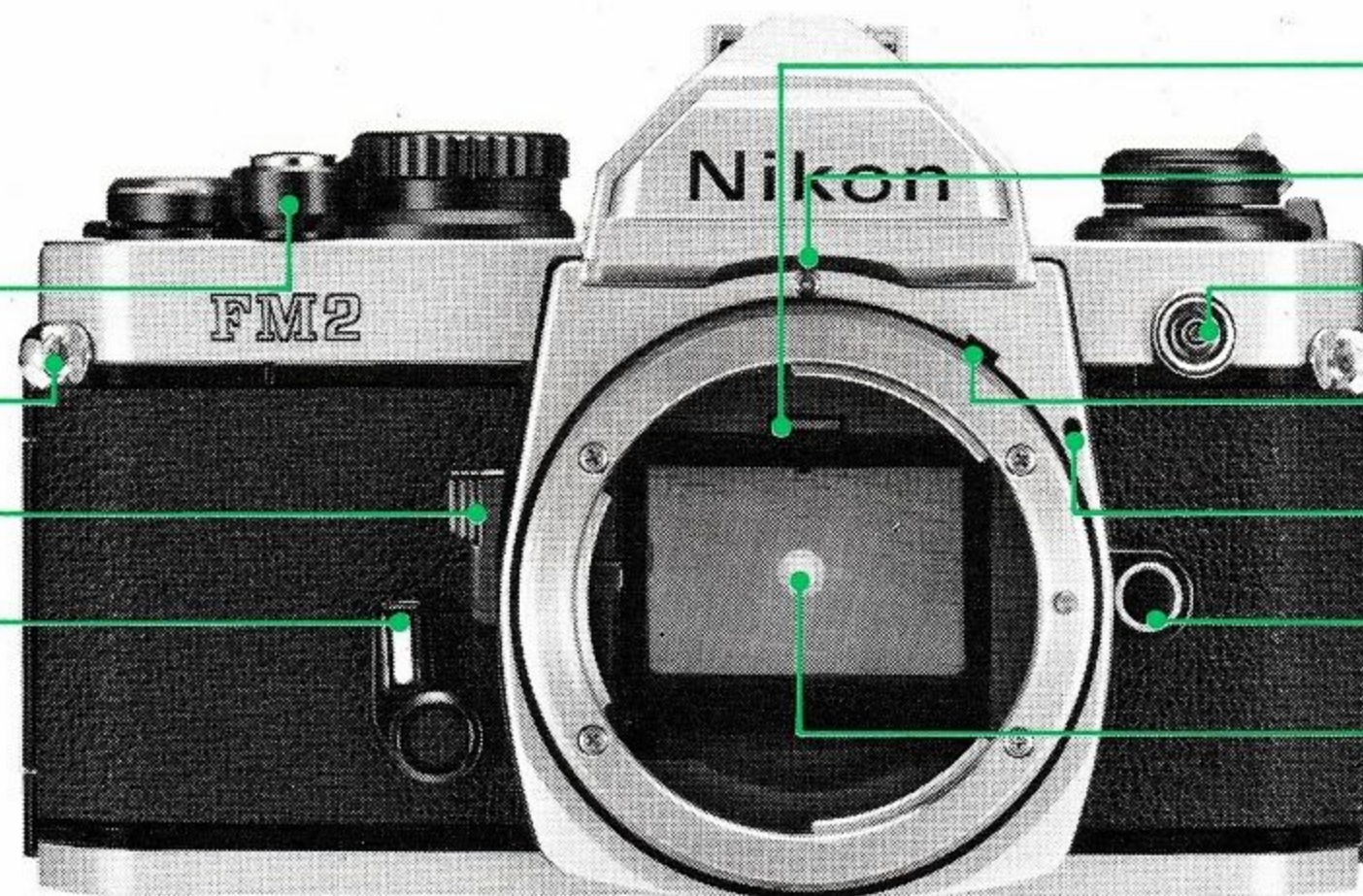
シンクロソケット⑭

露出計連動レバー⑮

レンズ着脱指標⑯

レンズ着脱ボタン⑰

ミラー⑱



⑤ フィルムガイドレール

⑥ シャッター幕

⑦ レディライト

⑧ ファインダー接眼窓

⑨ パトローネ受軸

⑩ パトローネ室

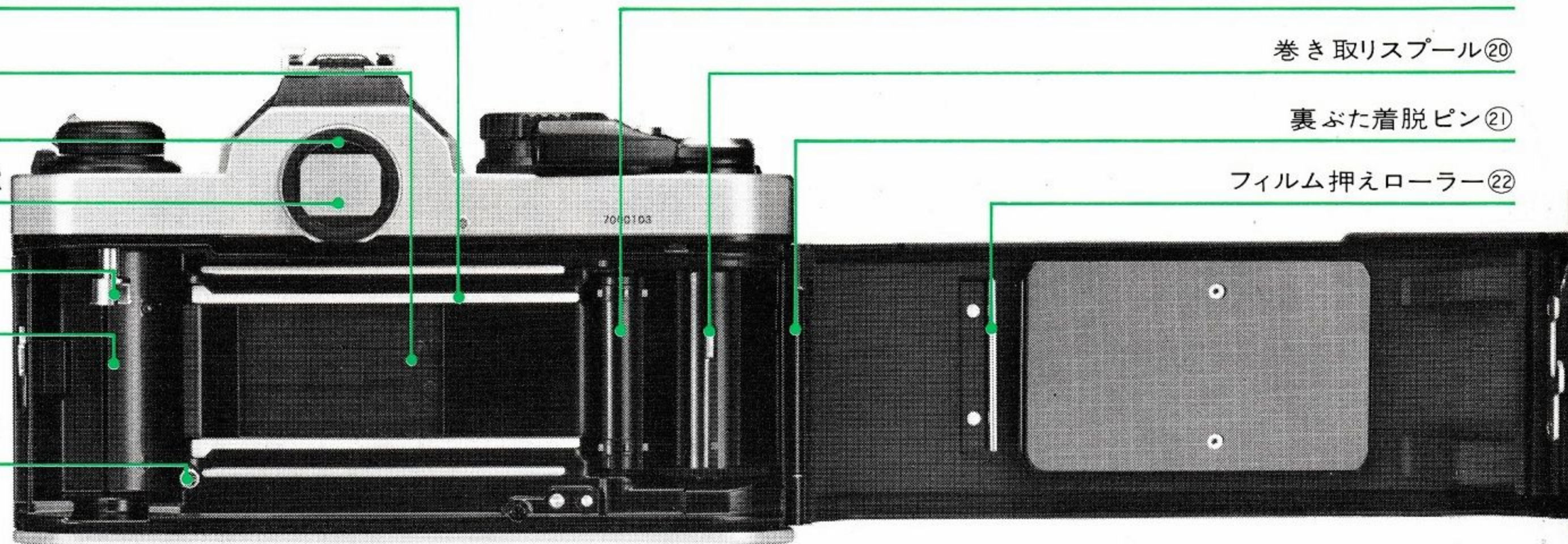
⑪ フィルムガイドピン

スプロケット⑲

巻き取りスプール⑳

裏ぶた着脱ピン㉑

フィルム押えローラー㉒



②③赤外マーク

露出計連動爪④①

②④被写界深度目盛

距離リング④②

②⑤距離目盛

絞りリング④③

②⑥絞り目盛

ファインダー内表示用絞り目盛④④

②⑦露出計連動ガイド

シャッター指標④⑤

②⑧フラッシュ接点

シャッタースピードダイヤル④⑥

②⑨レディライト用接点

フィルム感度(ASA/ISO)目盛④⑦

③⑩アクセサリシュー

多重露出レバー④⑧

③⑪裏ぶたロックレバー

フィルムカウンター④⑨

③⑫巻き戻しクランク

シャッターボタン⑤⑩

③⑬巻き戻しノブ

巻き上げレバー⑤⑪

③⑭距離基準マーク

電池室⑤②

③⑮モータードライブ用連結軸

モータードライブ連動接点⑤③

③⑯モータードライブ用シャッター連動軸

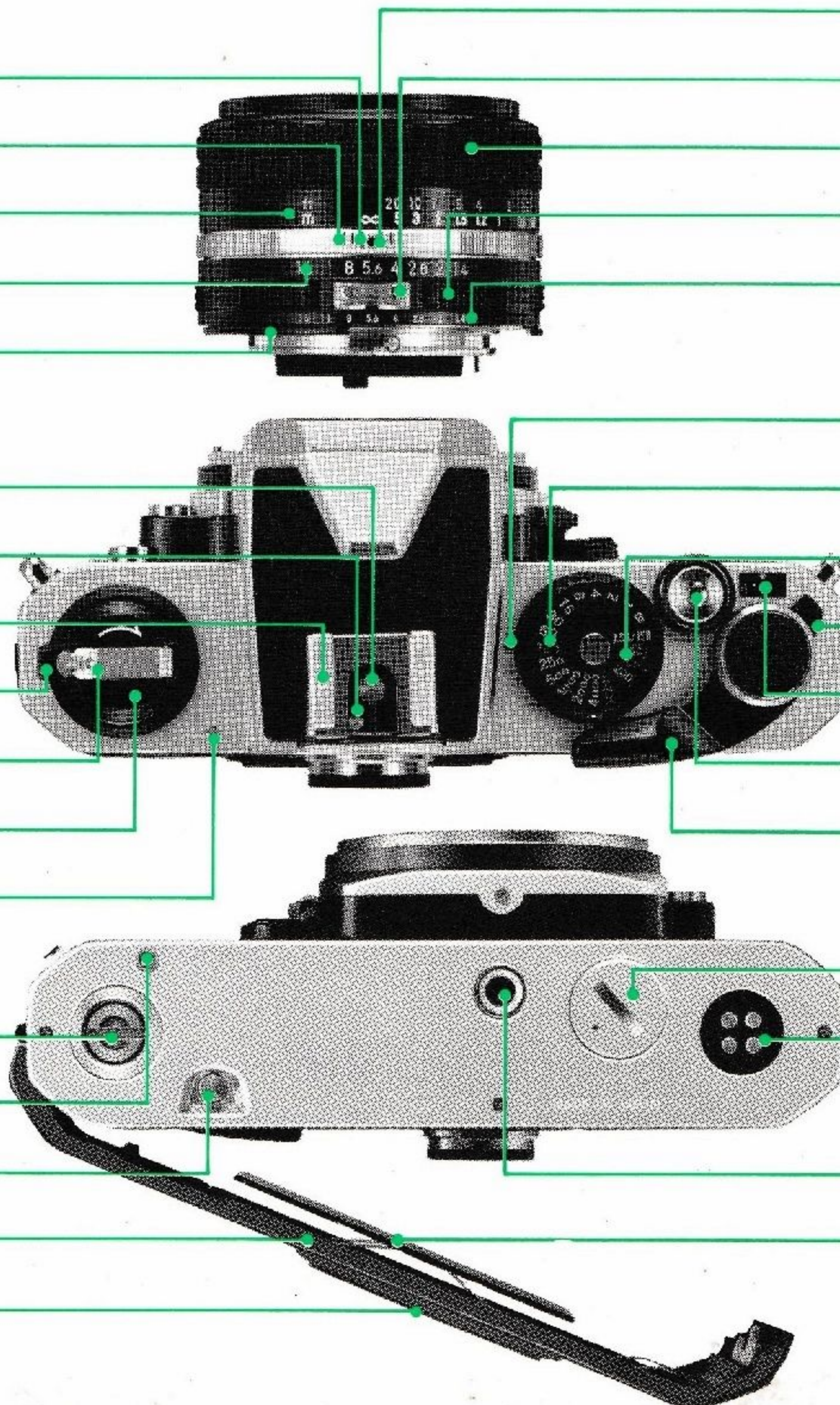
三脚ねじ穴／
モータードライブ取り付けねじ穴⑤④

③⑰巻き戻し用ボタン

圧板⑤⑤

③⑱裏ぶた

③⑲メモホルダー



各部の名称	2
はじめに	5
基本操作	6-17
各部の詳細と応用	18-40
巻き上げレバー	18
フィルムカウンター	18
シャッターボタン	19
フィルム感度(ASA/ISO)目盛	20
シャッタースピードダイヤル—露出の決定	20
• シャッタースピードのセット	20
• 絞りのセット	22
• 露出の決定	23
• 露出の表示	23
• 露出計の測光範囲	24
• 絞り込み測光	25
• 特殊な場合の測光	26
• 複写および顕微鏡撮影	27
ファインダー	28
絞り込みレバー	31
• 被写界深度とは	31
セルフタイマー	34
多重露出レバー	35
メモホルダー	36
赤外マーク	36

フラッシュ撮影	37
アクセサリ	41-50
• 接写	41
• ファインダースクリーンおよび交換方法	42
• モータードライブMD-12	44
• スピードライト	45
• データーバックMF-12	46
• フィルター	47
• レンズフード	48
• 接眼目当て	48
• 接眼補助レンズ	48
• アングルファインダーDR-3	49
• マグニファイヤーDG-2	49
• 防寒バッテリーホルダーDB-2	49
• ケーブルリリースAR-3	49
• カメラケース	50
• ネックストラップ	50
• ガゼットケース	50
仕様	51
カメラの手入れと保存	52
アフターサービスについて	54
電池の取扱いについて	54
お知らせ	55

はじめに

このたびは、ニコンFM2をお買い上げいただきありがとうございました。

このカメラはTTL露出計を内蔵したメカニカルシャッターの一眼レフレックスカメラです。

シャッター幕にチタンを使用し、特殊な加工方法により幕速を高め、最高1/4000秒のシャッタースピードがまた、スピードライトを使用した時シャッタースピードダイヤルを×200に合わせれば1/200秒での同調が可能です。この他に多重露出撮影機能、ファインダースクリーンの交換、レディライト内蔵など数多くの特色を備えています。

カメラには「保証書」と「ご愛用者カード」が添付してありますのでご確認ください。

1. 「保証書」は、お買い上げの際ご購入店からお客様に直接お渡しすることになっております。「ご愛用者氏名および住所」「ご購入年月日」「ご購入店名」がすべて記入された「保証書」を必ずお受け取りください。

「保証書」をお受け取りになりませんと、ご購入後1年以内の保証修理が受けられないこととなります。もし、お受け取りにならなかった場合は、ただちにご購入店にご請求ください。

2. 「ご愛用者カード」は、ご氏名、ご住所等をご記入の上ご投函ください。折り返し弊社発行の「ニコンの世界」をお送りいたします。各種交換レンズの特

長、フィルターの使い方、接写などの詳細につきましては「ニコンの世界」により、さらにご研究ください。

また、ご希望により「ニコンの世界」にかえて、「EMイメージ」をお届けすることもできます。詳しくは「ご愛用者カード」をご参照ください。(なお「ニコンの世界」、「EMイメージ」の発送は国内に限らせていただきます)

この「使用説明書」は、大きくわけて「基本操作」、「各部の詳細と応用」、「アクセサリ」の3つの項目にわかれています。まず「基本操作」の項目をお読みになり、基本的な撮影操作をご理解ください。

また各部の詳細につきましては「各部の詳細と応用」をご参照ください。

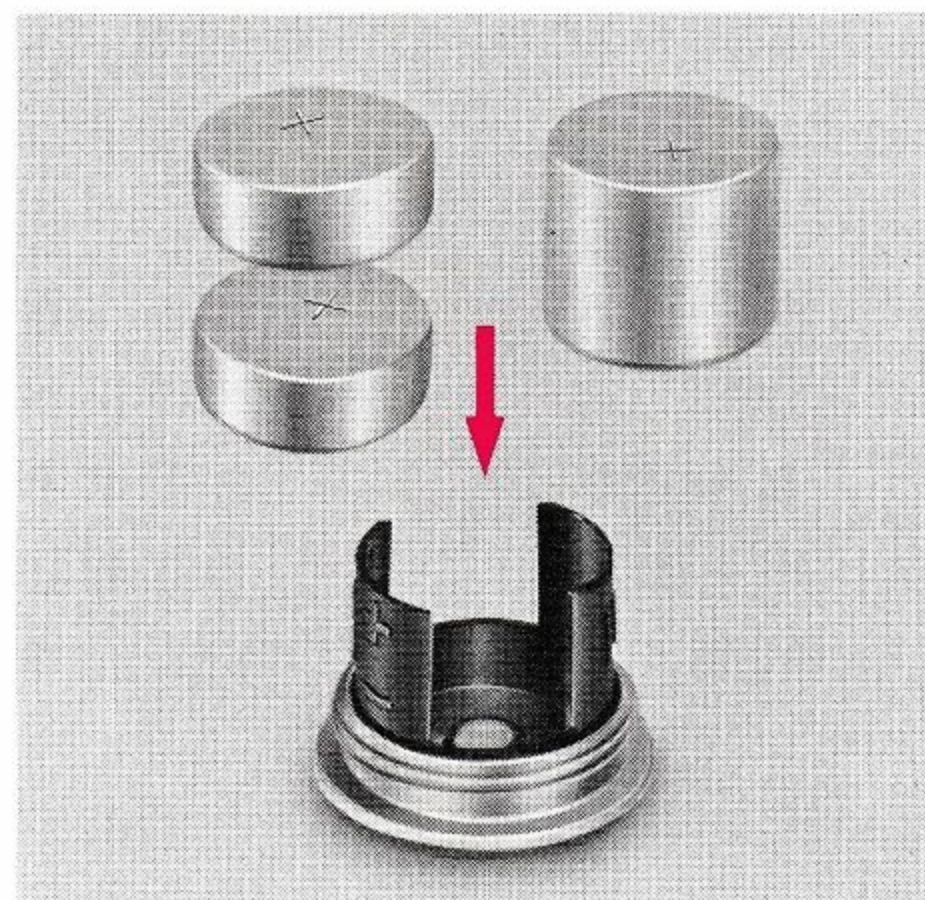
本文中、名称の後に書いてあります番号は「各部の名称」(P.2～P.3) についている番号ですので、各部の位置を合わせてご確認ください。

基本操作



1. カメラボディ底部の電池室 ⑤2のふたをはずします。

電池室のふたは硬貨などを利用して反時計方向(写真矢印方向)へ回せばはずれます。



2. 電池を入れます。

電池は両面を柔らかい紙か布でよく拭き、電池の極に手が触れないように持ちます。電池室のふたの外側に表示されている指示どおり+極が上向きになるようにして入れます(銀電池、アルカリマンガン電池は2個重ねて入れます)。

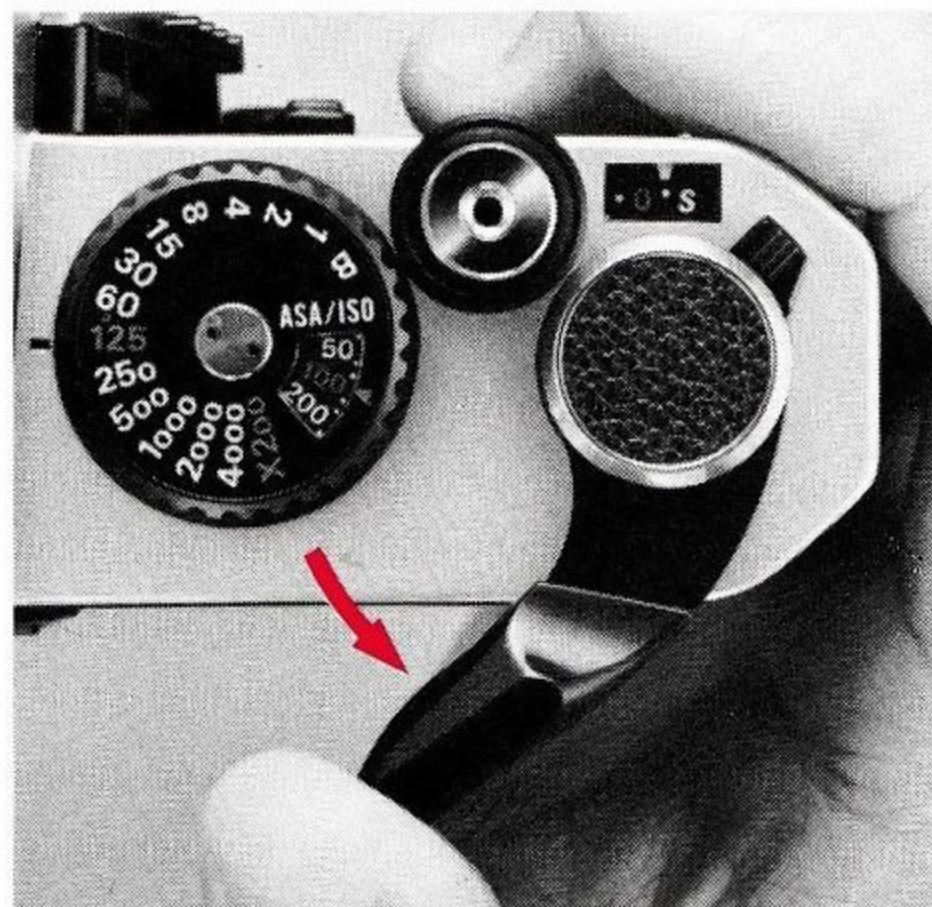
- 使用可能な電池は次の3種類です。
- 3Vのリチウム-二酸化マンガン電池(CR-I/3Nタイプ) - 1個(3V)
- 1.55Vの銀電池(SR44タイプ) - 2個(3.1V)
- 1.5Vアルカリマンガン電池(LR44タイプ) - 2個(3V)



3. 電池室のふたをもと通りに閉じます。

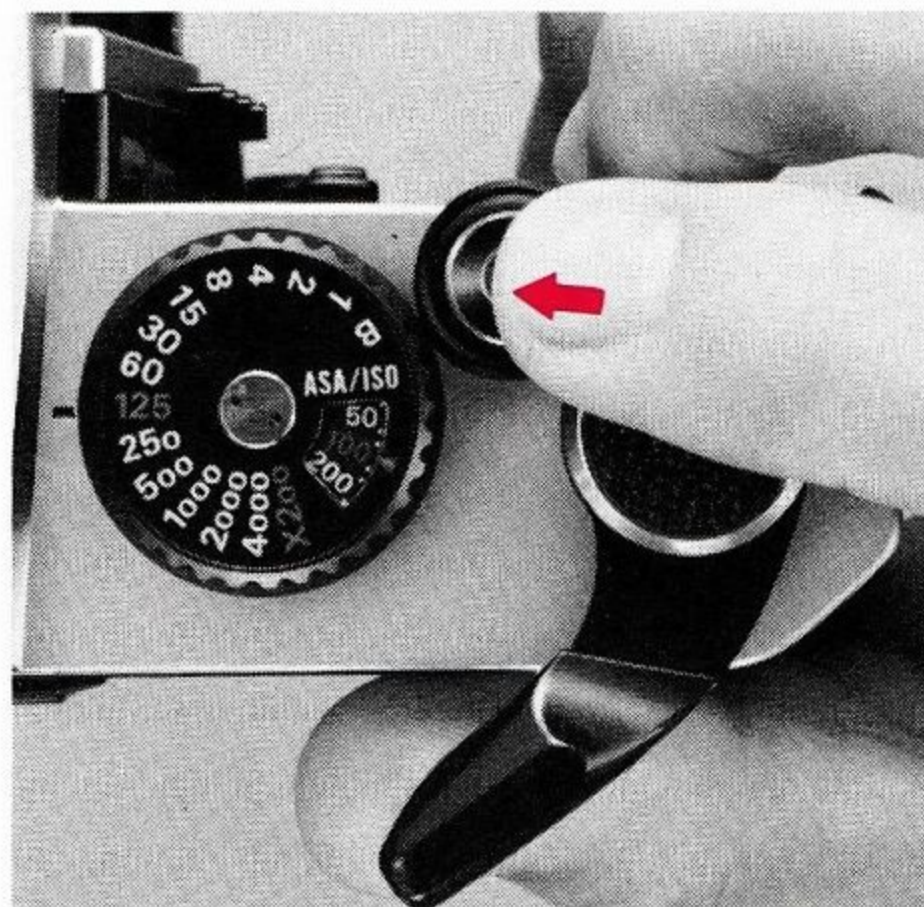
ふたを閉じる時は、開くときと逆に時計方向(写真矢印方向)へ止まるまで回します。

- 電池の取り扱いについてはP.54の注意をご覧ください。



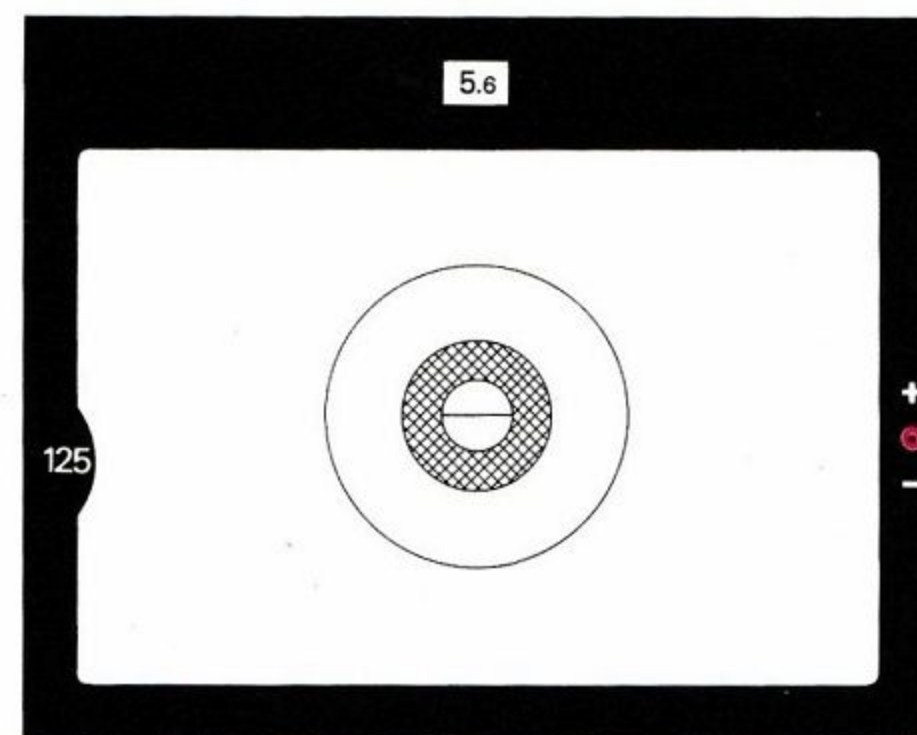
4. 巻き上げレバー⑤①を軽く引き出し、シャッターボタン⑤②のロックを解除します。

ニコンFM2は、巻き上げレバーがシャッターボタンのロック機能を兼ねています。巻き上げレバーを軽く引き出すことにより、シャッターボタンのロックは解除されます。



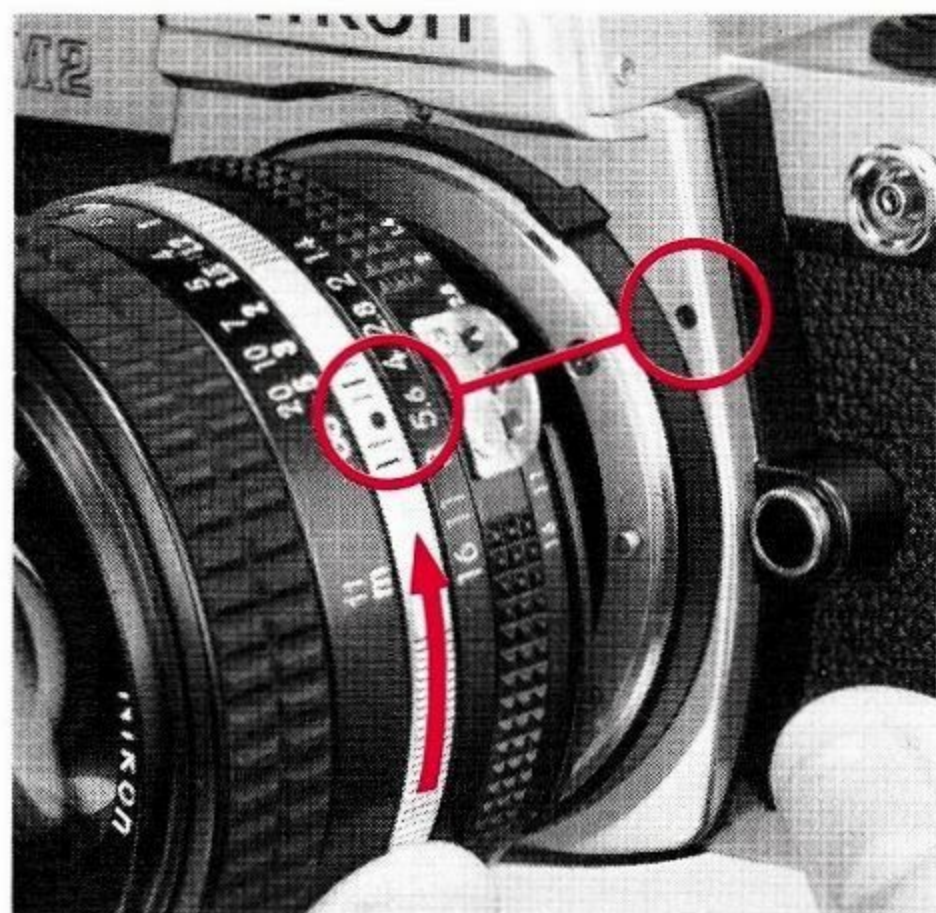
5. シャッターボタンを軽く押して露出計のスイッチをONにします。

ニコンFM2のシャッターボタンは、露出計のスイッチを兼ねています。シャッターボタンを軽く押しますと露出計のスイッチが入ります。露出計のスイッチが入った状態から、シャッターボタンより指を離しましても約30秒間は露出計のスイッチが入ったままとなり、測光状態を保ちます。



6. バッテリーのチェックをします。 露出計のスイッチを入れた状態でファインダー⑧をのぞきます。ファインダー内の露出指示ランプのどれか1ヶ所または2ヶ所が赤く点灯すれば正常です。

- シャッターダイヤル④⑥がB(バルブ)、×200(1/200秒)の位置にセットしている場合は、露出指示ランプは点灯しませんので他の位置にセットしてください。それでも点灯しない場合は、電池の入れ方が間違っているとき、または電池が消耗している場合です。電池が消耗している場合は、新しい電池と交換してください。



7. レンズを取りつけます。

レンズの絞り指標④とボディのレンズ着脱指標⑬とを合わせてレンズをはめます。そしてレンズの絞り指標リングを持って、反時計方向（写真矢印方向）へカチリと音がして止まるまで回します。

このとき、絞り指標が真上にきます。

• ニコンFM2に使用できるレンズについてはP.55の「お知らせ」をご参照ください。

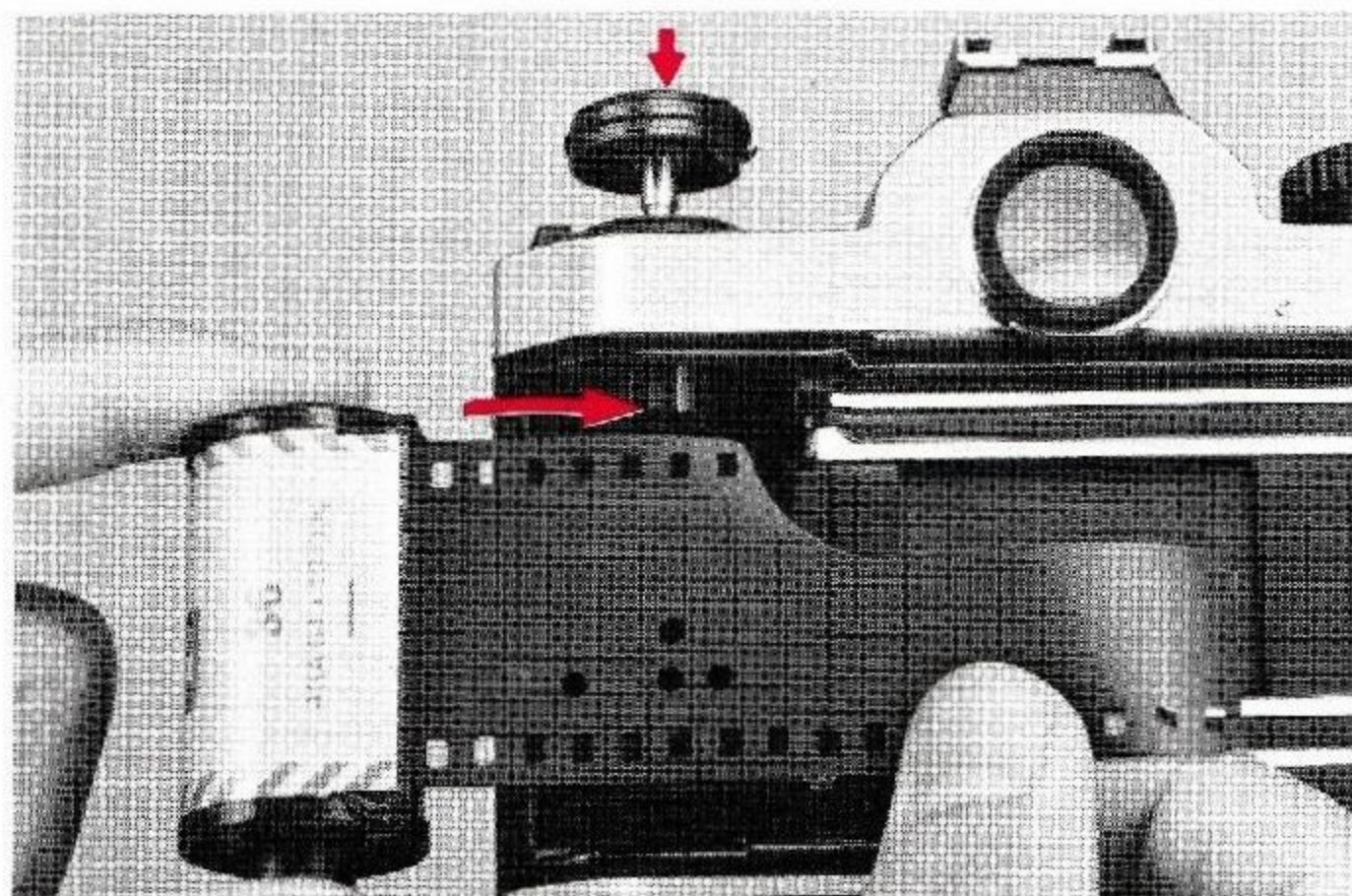
レンズの取りはずし

レンズ着脱ボタン⑭を押したまま、レンズの絞り指標リングを持ってレンズを時計方向（装着時と逆方向）へ止まるまで回し、静かにはずしてください。

- 大型レンズやベローズアタッチメントなどへの着脱はカメラの方を回します。
- レンズを着脱の際は直射光をさけて行ってください。また、カメラボディにレンズを装着しないで長時間おいておく場合は、カメラボディのレンズマウント部にボディキャップをつけてください。
- シャッターがリリースされている時（P.15、基本操作19参照）およびセルフタイマー作動中（P.34参照）は、レンズ交換をしないでください。

8. カメラの裏ぶた⑳を開きます。

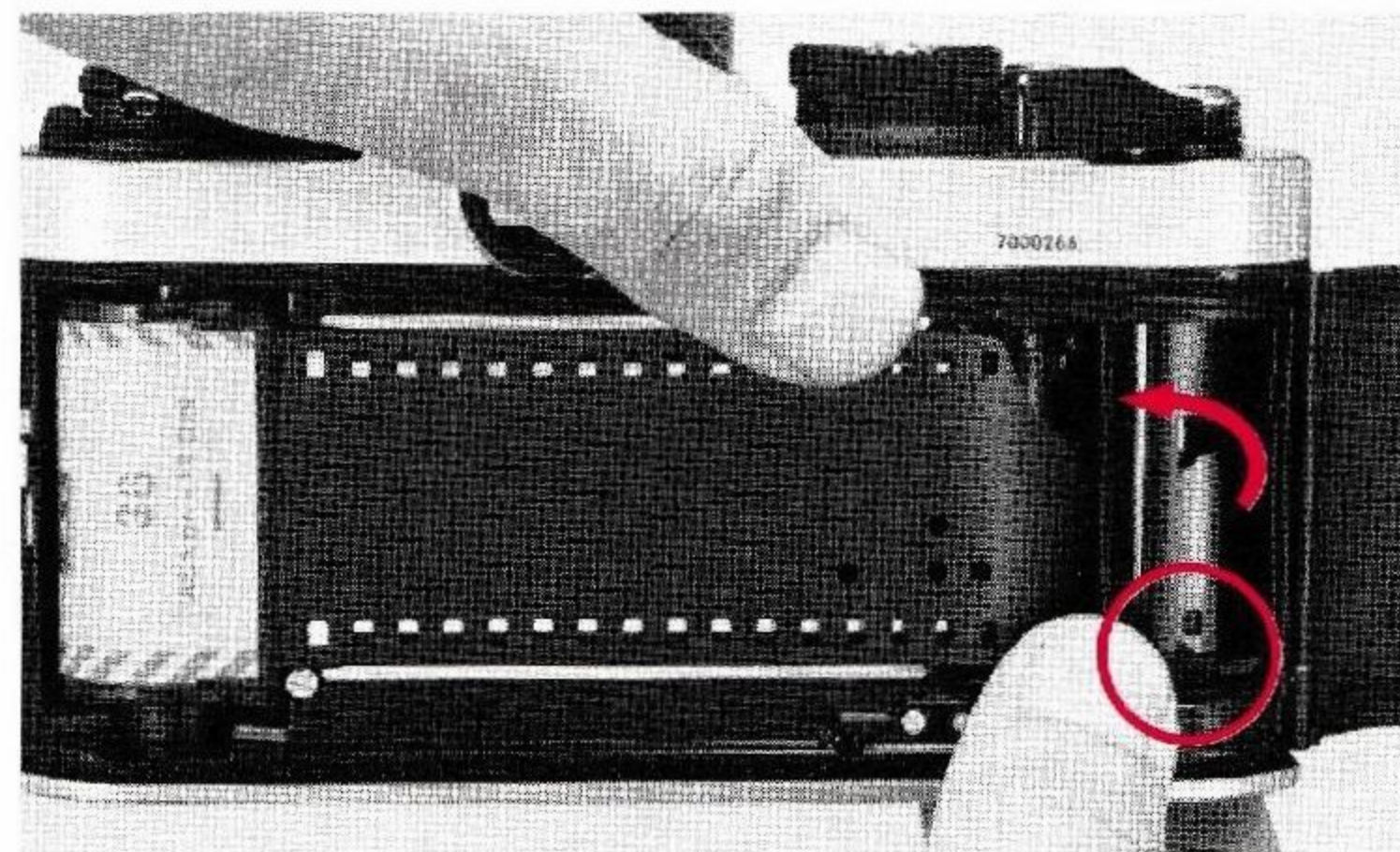
裏ぶたは、裏ぶたロックレバー㉑を反時計方向（写真矢印方向）へ少し回しながら巻き戻しノブ㉒を引き上げれば、開きます。



9. パトローネを入れます。

巻き戻しノブが引き上げられている状態でパトローネを入れ、ノブを下げます。フィルムの出し入れは、直射光をさけて物陰で行ってください。

- フィルムは一般市販の35mmサイズパトローネ入りのものがすべて使えます。(ニコンマガジンAM-1は、使えません)



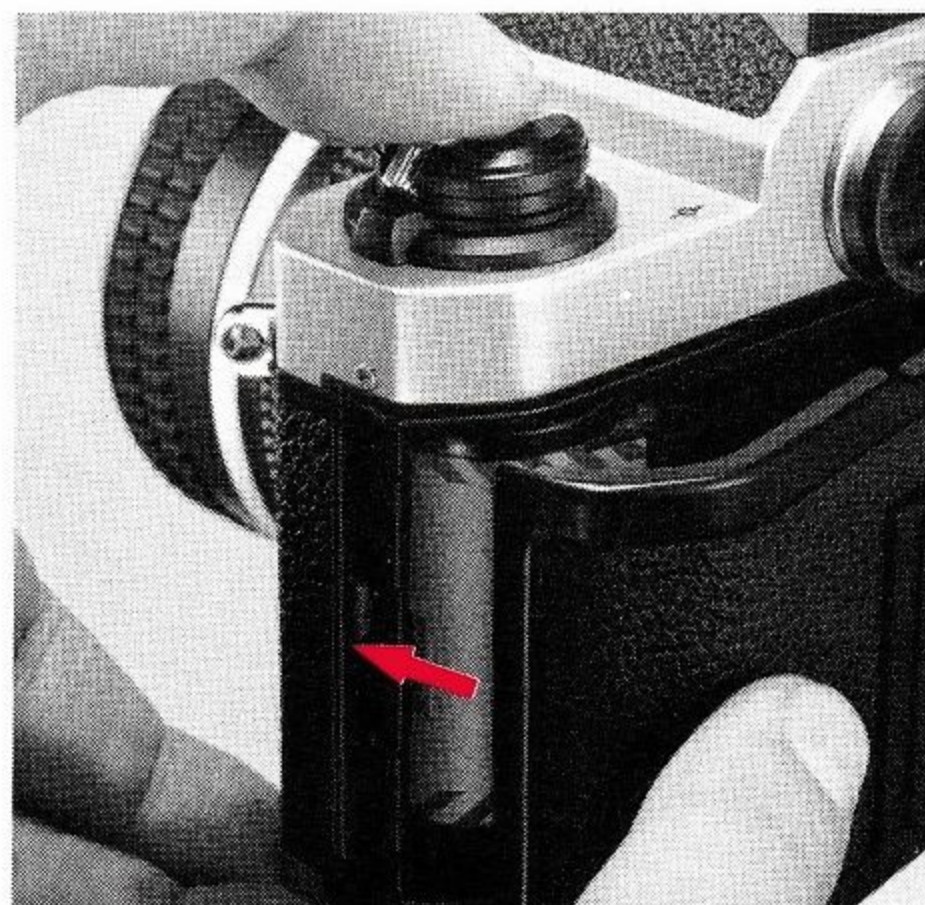
10. フィルムの先端を巻き取りスプール⑳にさしこみます。

フィルムの先端を巻き取りスピールの溝に十分にさしこみ、フィルムの穴に溝の穴起がかかるように指先でスピールを少し回します(写真矢印方向)。



11. フィルムを送り、フィルムの穴(パーフォレーション)をスプロケット⑱にかみ合わせます。

フィルムを送るには、巻き上げレバーを右へ止まるまでまわしてフィルムを巻き上げ、シャッターをきる操作を行ってください。

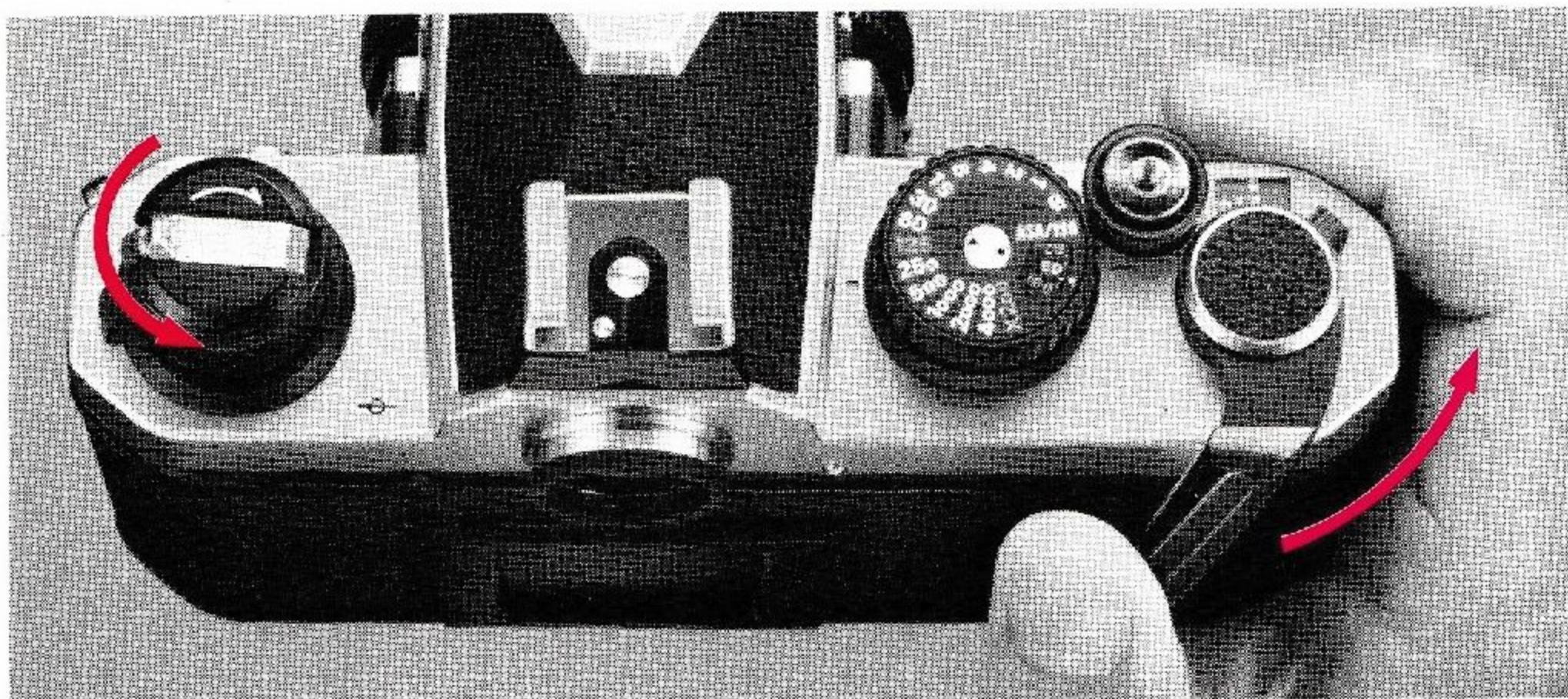


12. 裏ぶたを閉じます。
フィルムの穴(パーフォレーション)がスプロケットにかみ合っているか、上下のガイドレール⑤の間にフィルムが正しくおかれているかよく確認してから裏ぶたを閉じてください。



13. パトローネ内のフィルムのたるみをとります。

たるみをとるには、巻き戻しノブを矢印の方向へ止まるまで静かに回してください。

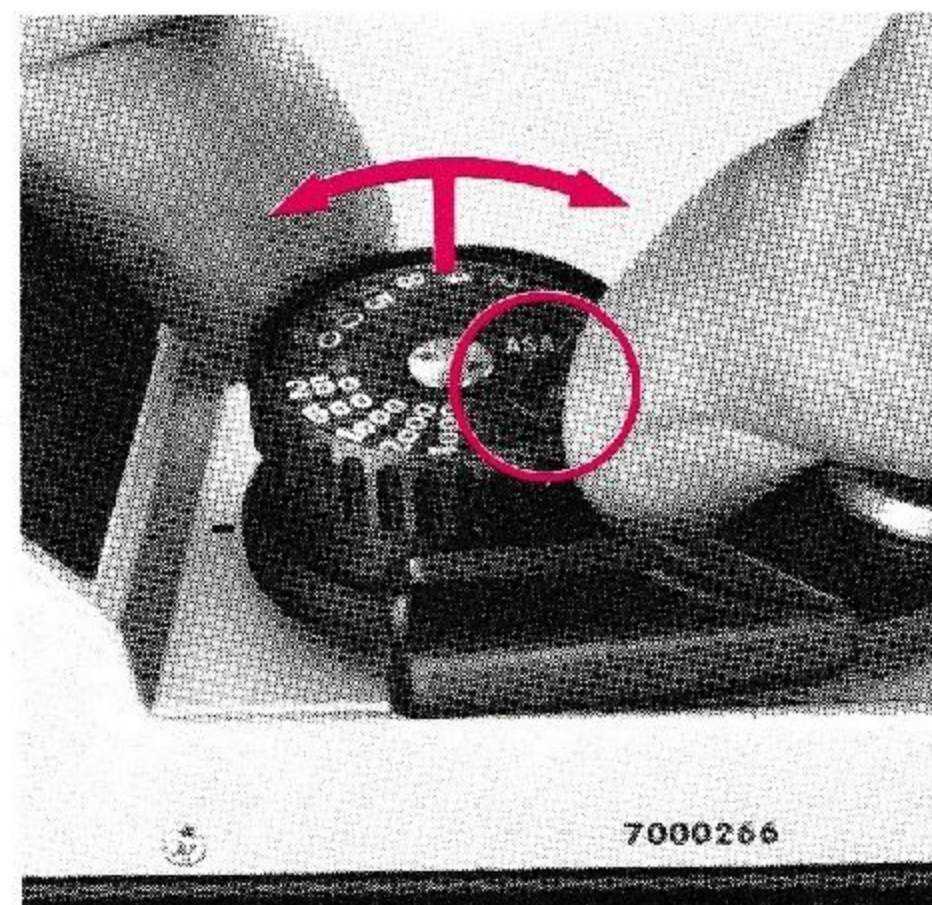


14. フィルムカウンター目盛④⑨が1を指すまでから写し(フィルムを巻き上げてシャッターをきる)をします。

これは、フィルムを入れるときに感光した部分を送っておくためにです。このとき、巻き戻しノブが回転していればフィルムは正常に巻き上げられています。

尚、巻き戻しノブが回らない場合は、フィルムが送られていませんから、もう一度フィルムを入れ直してください。

- フィルムカウンター目盛につきましてはP.18をご参照ください。

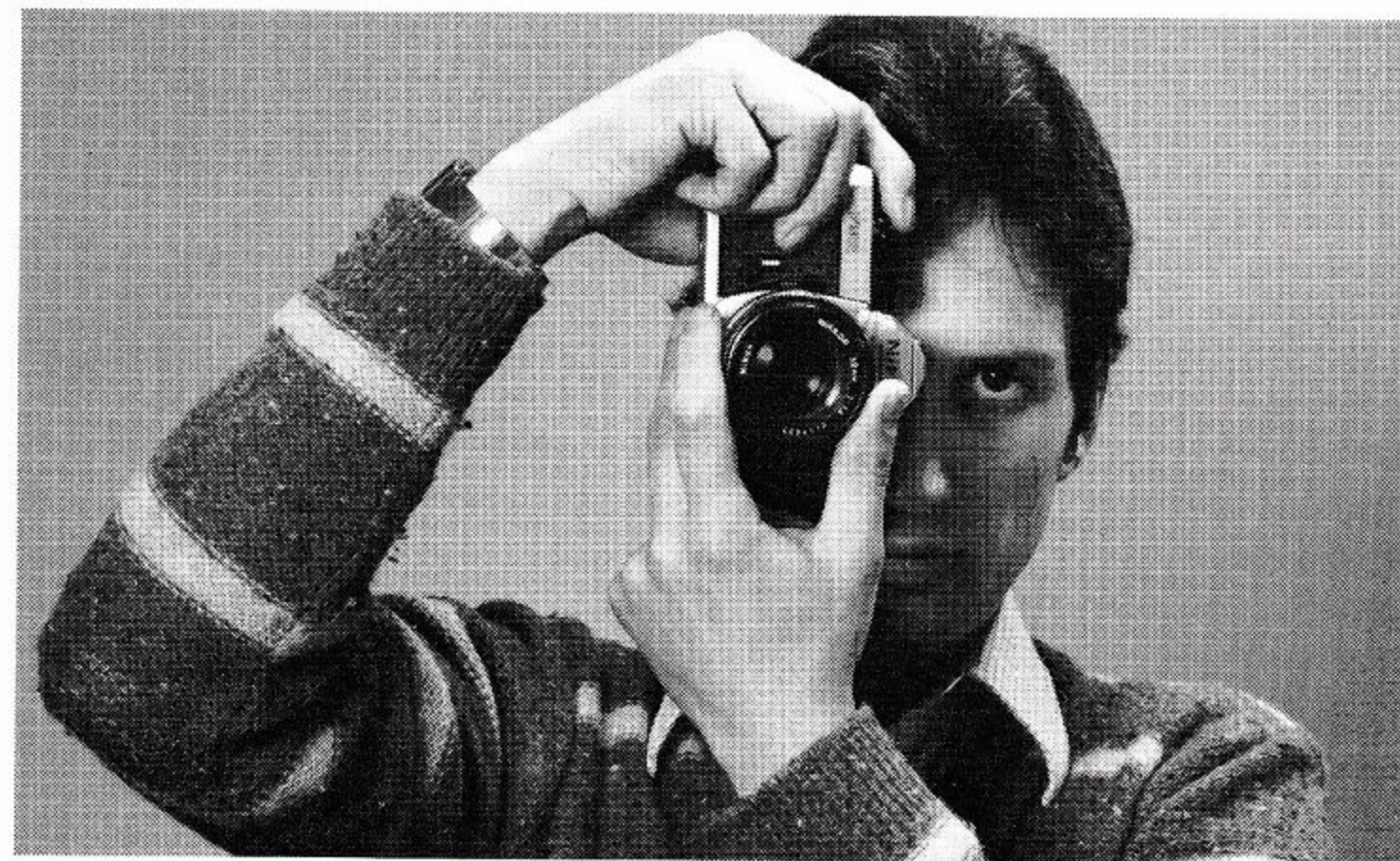
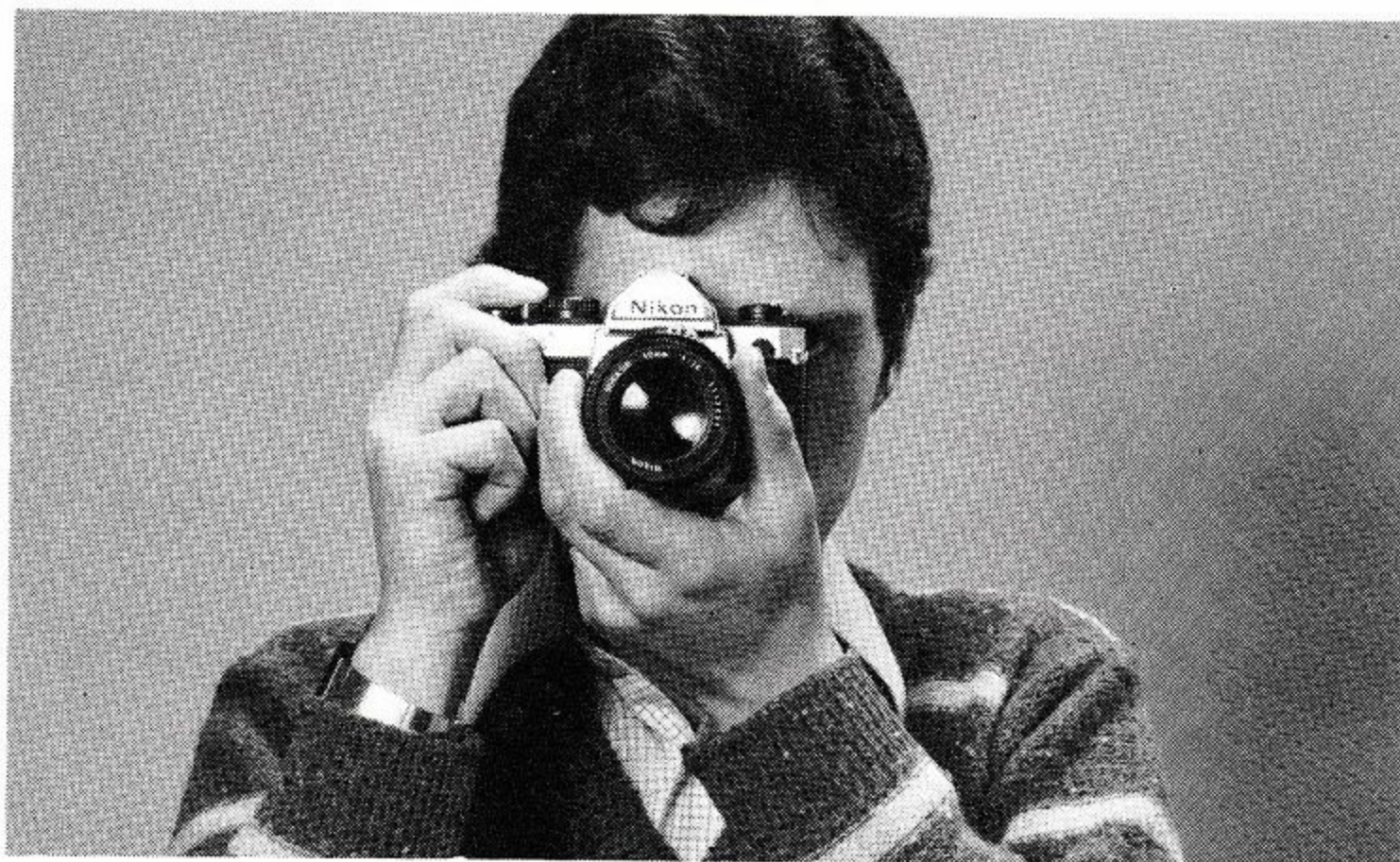


15. フィルム感度(ASA/ISO)をセットします。

シャッタースピードダイヤルの外周リングをつまみ上げて回し、フィルム感度(ASA/ISO)指標(▼)④⑦に使用フィルムのASA/ISO値を合わせます。フィルム感度は正しくセットしないと正しい測光ができません。

なお、数字のない点のASA/ISO感度数値につきましては、P.20をご覧ください。

- フィルムを入れたら、必ずそのフィルムの感度(ASA/ISO)をセットしてください。

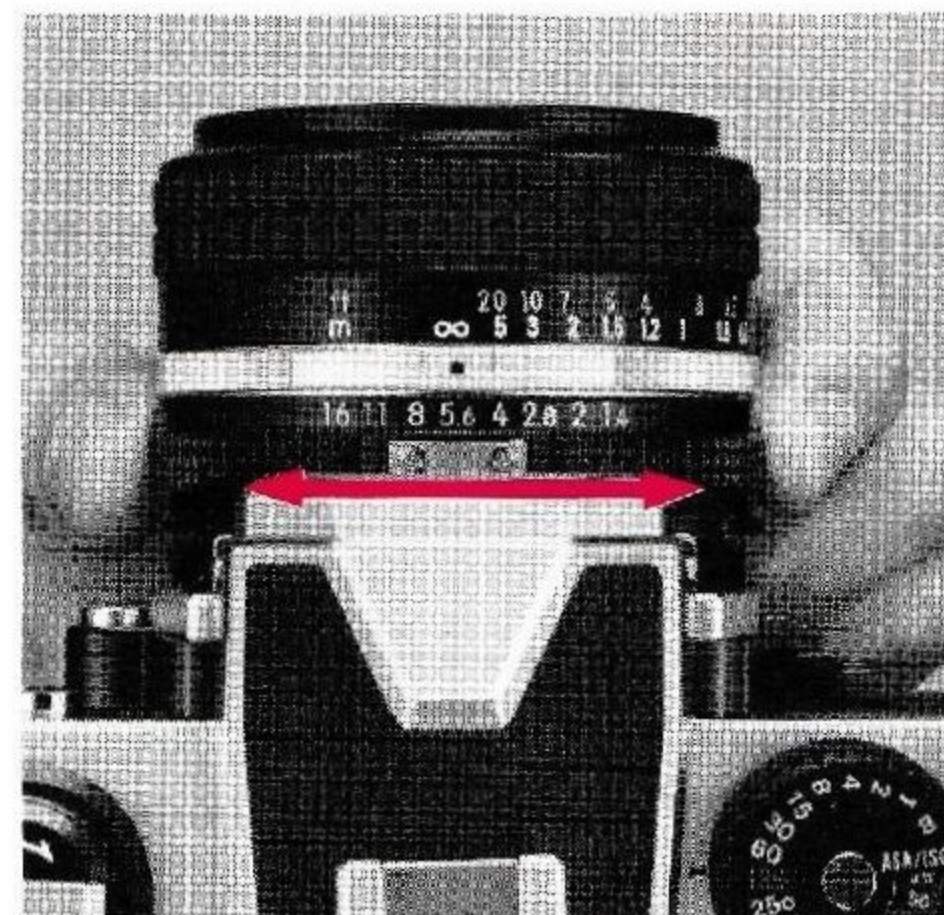
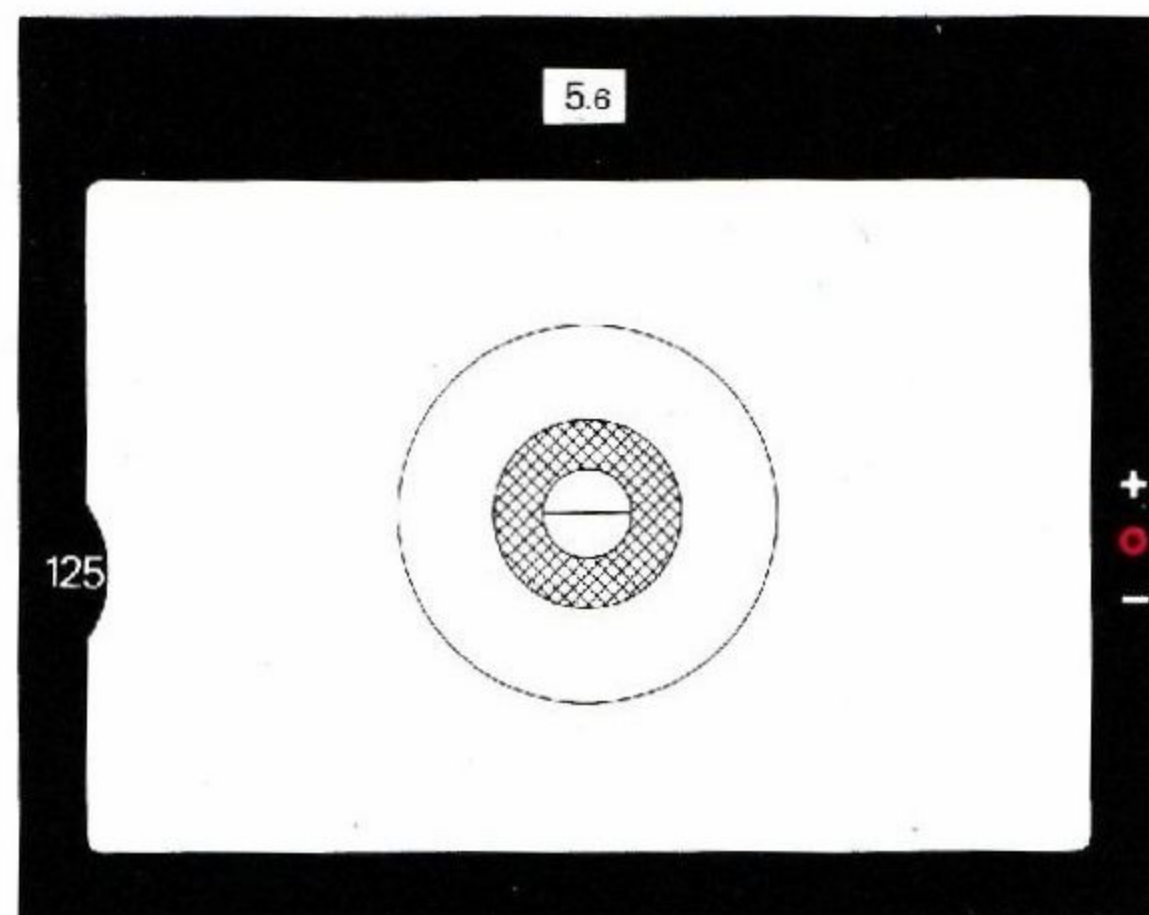


16. カメラを被写体に向けます。

カメラの基本的な構え方

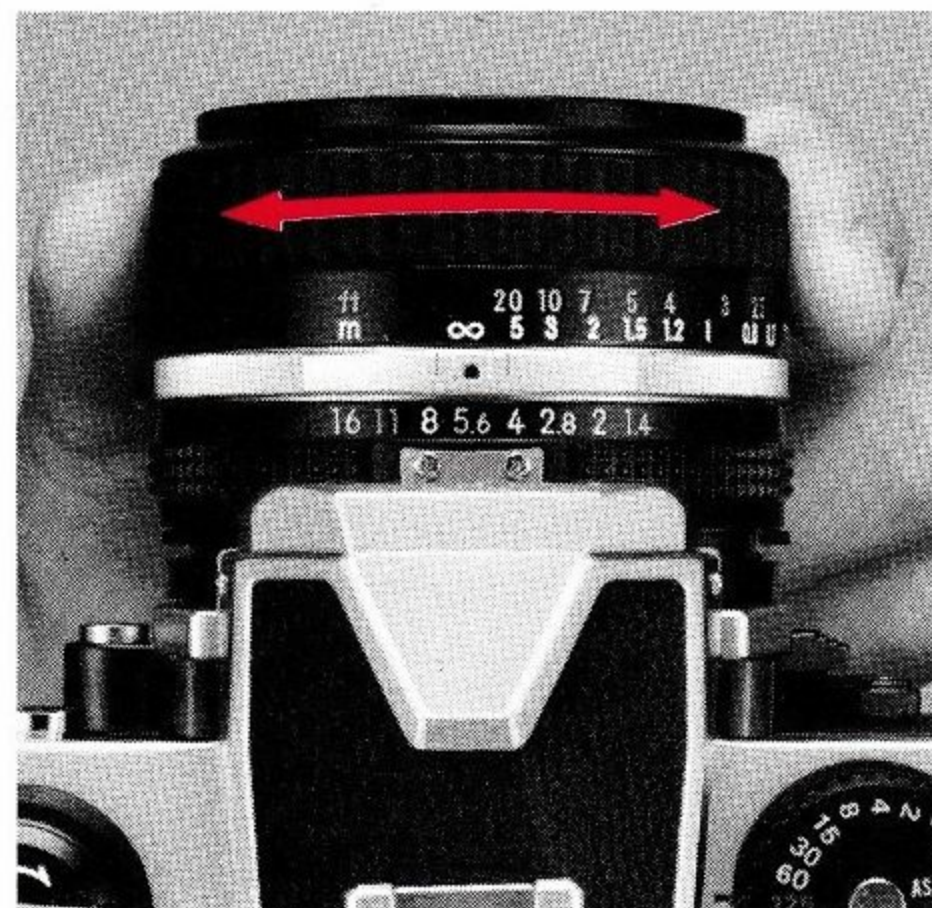
一般には主としてカメラを支える方のひじを体につけ、カメラを軽く顔に押しつけるようにしてファインダーをのぞきます。左手の指はピント合わせのためにレンズの距離リング④②に、右手の人さし指はシャッターボタンの上に軽く置きます。横位置、縦位置いずれにしてもご自分に合った姿勢を研究してください。

建物や立木を利用して腕やカメラを支えることも良い方法です。ファインダーをどちらの眼でのぞくか、また使わない方の眼は開いたままか閉じるかは、ご自分のやりやすい方法によってください。



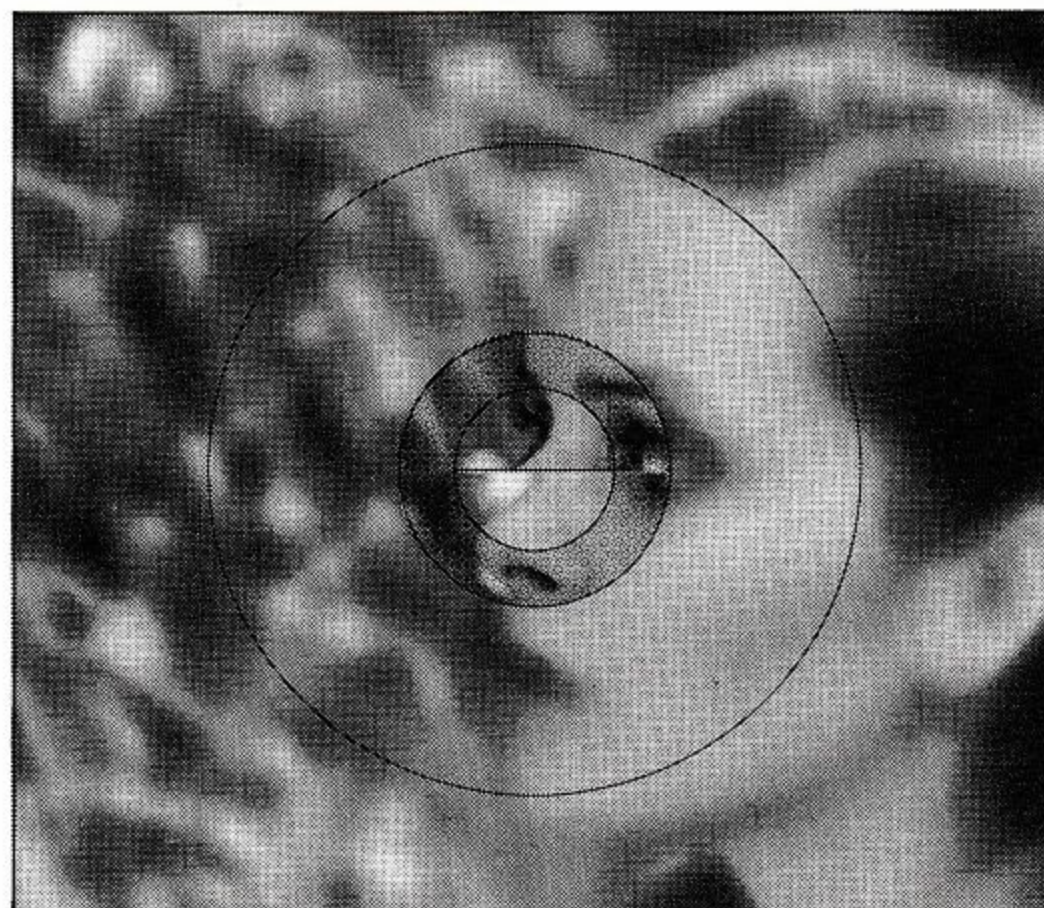
17. 適正露出を決めます。

主要被写体をファインダー視野の中央部(12mmの円内)に入れます。次にファインダー内の3個の露出指示ランプのうち中央のランプ(○)だけが点灯するように、シャッタースピードまたは絞りを変えて適正露出を決めます。尚、中間絞りは使用出来ますが、中間シャッタースピードは使えません。



18. レンズの距離リングを回して ピントを合わせます。

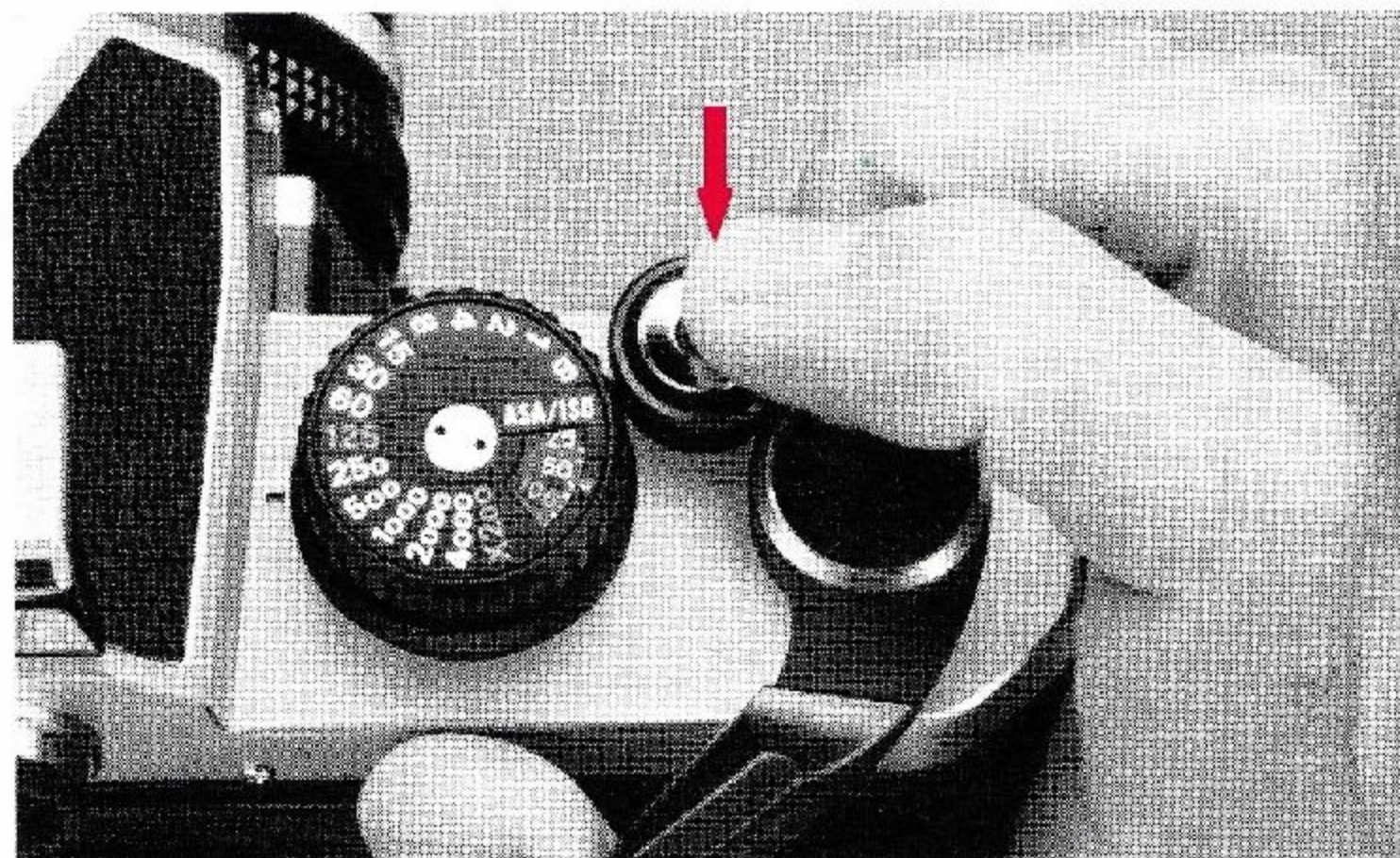
ファインダースクリーン(焦点板)は、スプリットマイクロ式(K型スクリーン)が内蔵されています。ファインダーをのぞきながらスプリット部の上下に分割された像が一つになるまで距離リングを回します。この時、マイクロプリズム部とマット面もはっきりします。



ピントが合っていない時

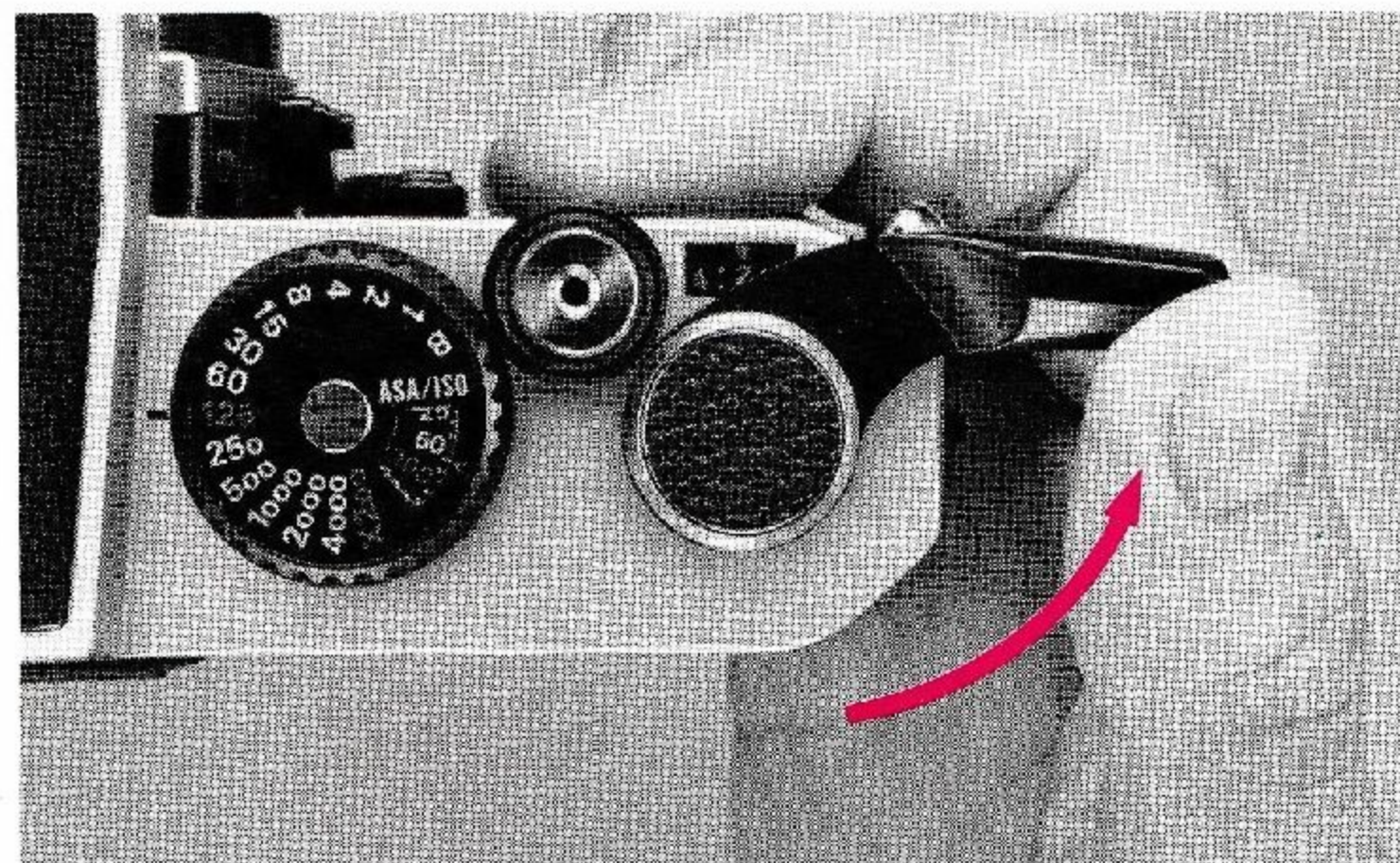


ピントが合っている時



19. シャッターをきります。

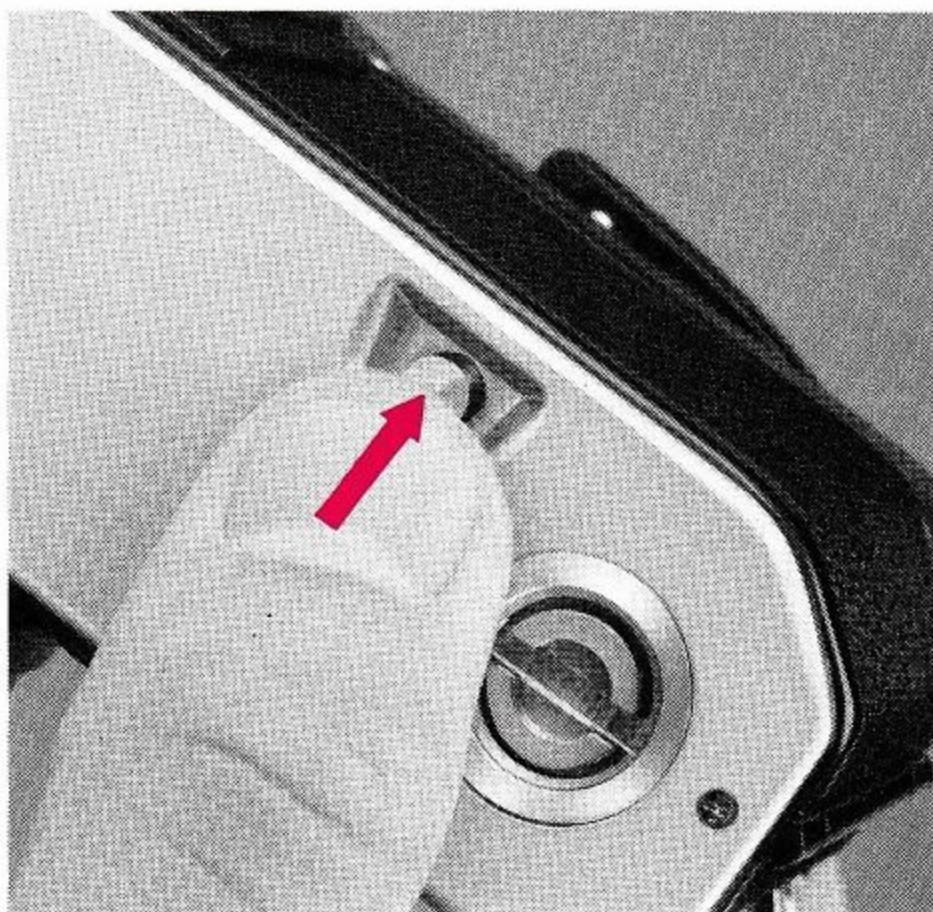
シャッターボタンを押すと、シャッターは解放(リリース)されてフィルムに露光を与えます。この操作を一般にシャッターをきるといいます。シャッターボタンは、カメラぶれを起こさないように指先の腹で静かに押してください。



20. フィルムを巻き上げます。

巻き上げを行い順次撮影します。

- 装填されているフィルムが終わりになると、レバーが途中で巻き上げられなくなることがあります。無理に巻き上げないで、レバーから指をはなして巻き戻しの操作を行ってください。
- フィルムの巻き上げ操作中に巻き戻し用ボタン③⑦を押しますと、フィルムは送られなくなり撮影画面が重なったりしますのでご注意ください。
- 何コマか巻き上げていくうちに巻き上げが極端に重くなる場合は、フィルムが片寄って巻き上げられているためですから、無理に巻き上げないでフィルムを巻き戻してください。

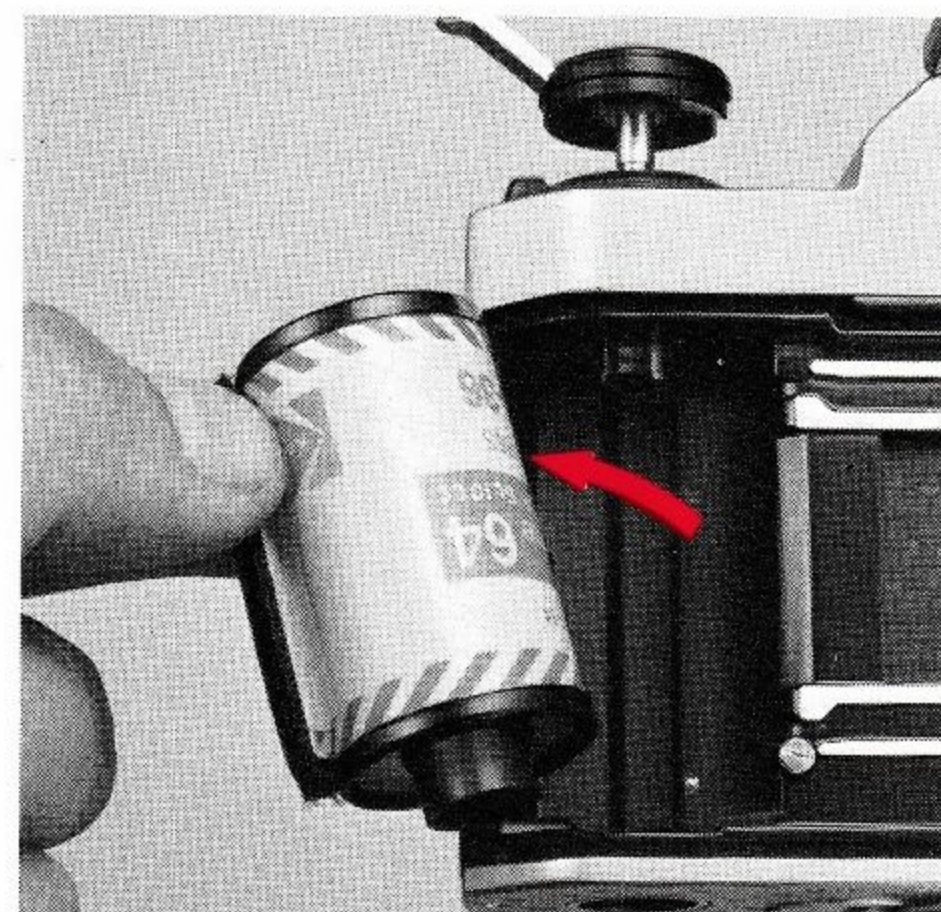


21. 巻き戻しボタンを押します。

フィルムを全部撮影し終わりましたら、パトローネにフィルムを巻き戻すため、カメラ底部の巻き戻しボタンを押してください。巻き戻しボタンは、押し続ける必要はありません。

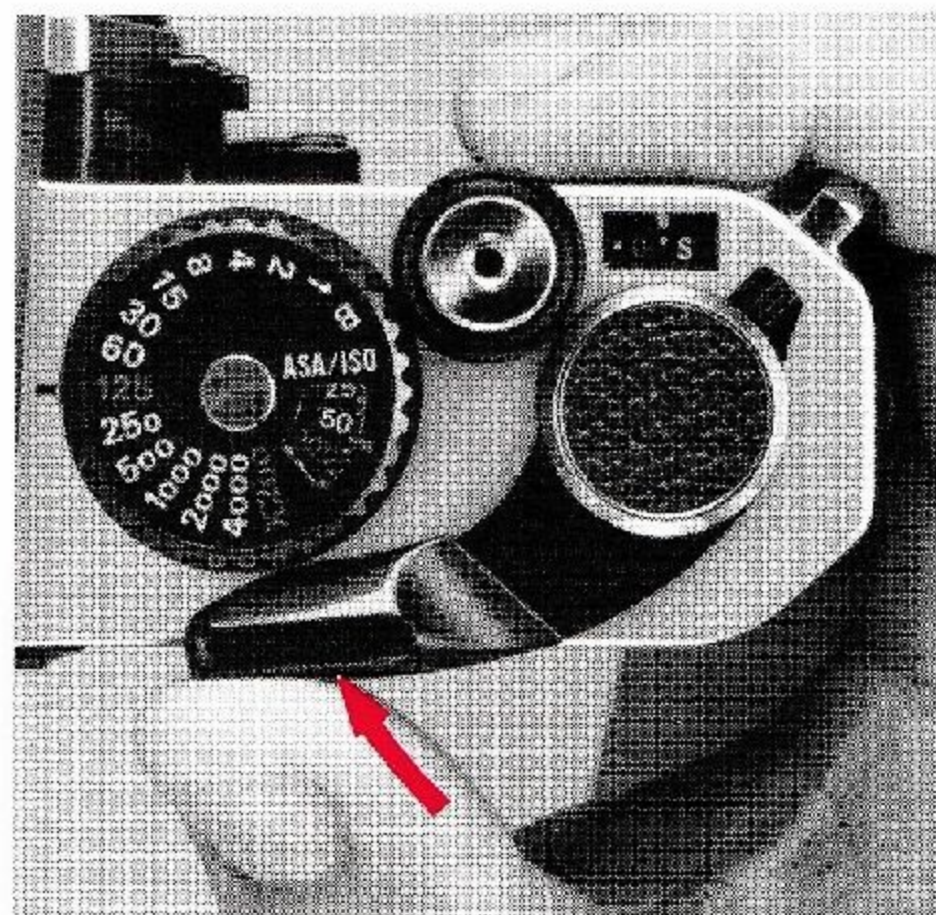


22. フィルムを巻き戻します。
巻き戻しクランク③②を起こして矢印の方向へ回します。巻き戻しが終わりに近づくとクランクに少し抵抗を感じます。これはフィルムがスプール溝から離れるときです。さらに少し回してクランクが軽くなったところで止めます。



23. パトローネを取り出します。
裏ぶたロックレバーを少し回しながら巻き戻しノブを引き上げて、裏ぶたを開きパトローネを取り出します。
パトローネは、明るいところへ放置しておかないようにしてください。

- 巻き戻しが完了するまでは、裏ぶたをあけないでください。

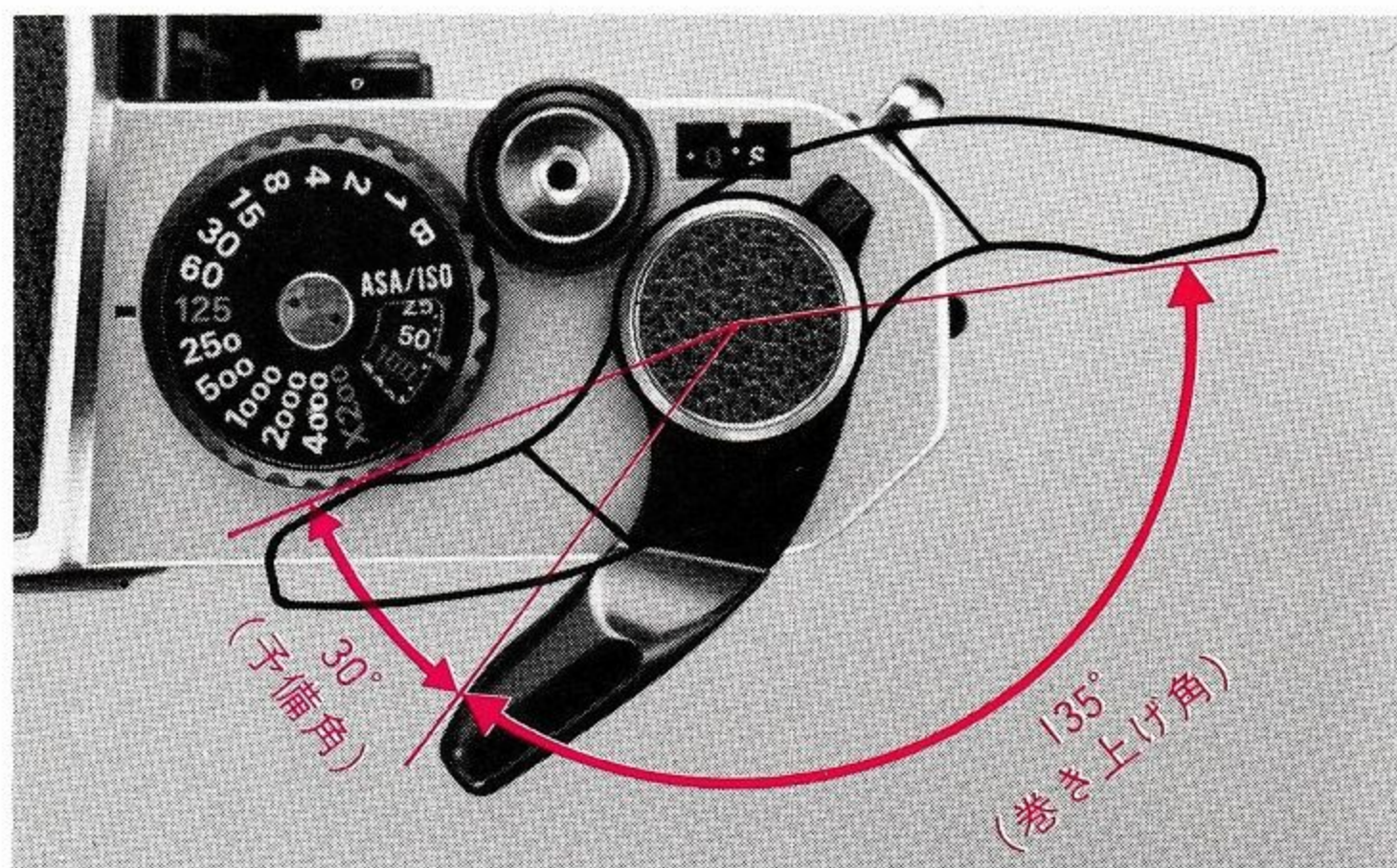


24. 巻き上げレバーを格納します。

カメラを使用しないときは、巻き上げレバーを格納してください。このことにより、シャッターボタンはロックされてレリーズが不可能となりまた、シャッターボタンに触れても露出計のスイッチは、OFFの状態を保ちます。

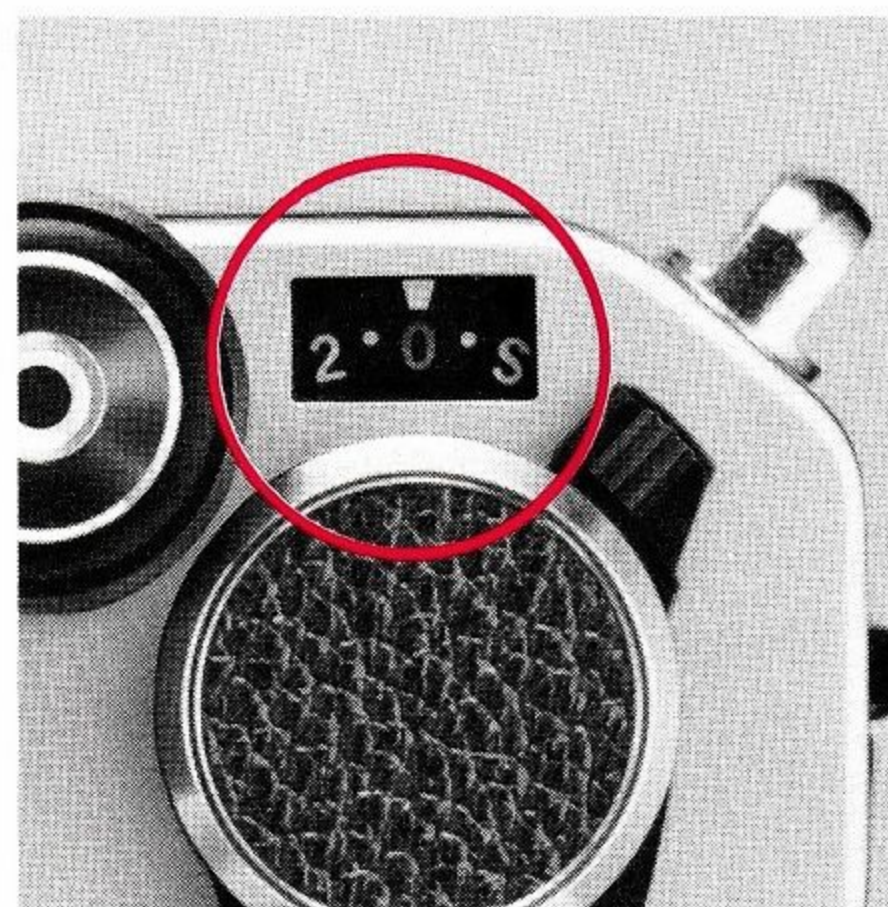
- 露出指示ランプが点灯している場合でも約30秒内には消え測光回路のスイッチもきれます。

各部の詳細と応用



巻き上げレバー ⑤1

巻き上げレバーは、シャッターリリースのロック機能を兼ています。軽く引き出しますとシャッターリリースロックが解除されます。フィルムを巻き上げるときは、巻き上げレバーを右へ止まるまで回します。巻き上げレバーは指をはなすと自動的にもとの位置に戻ります。フィルムはこの操作で1コマ分送られ同時にシャッターチャージが行われます。

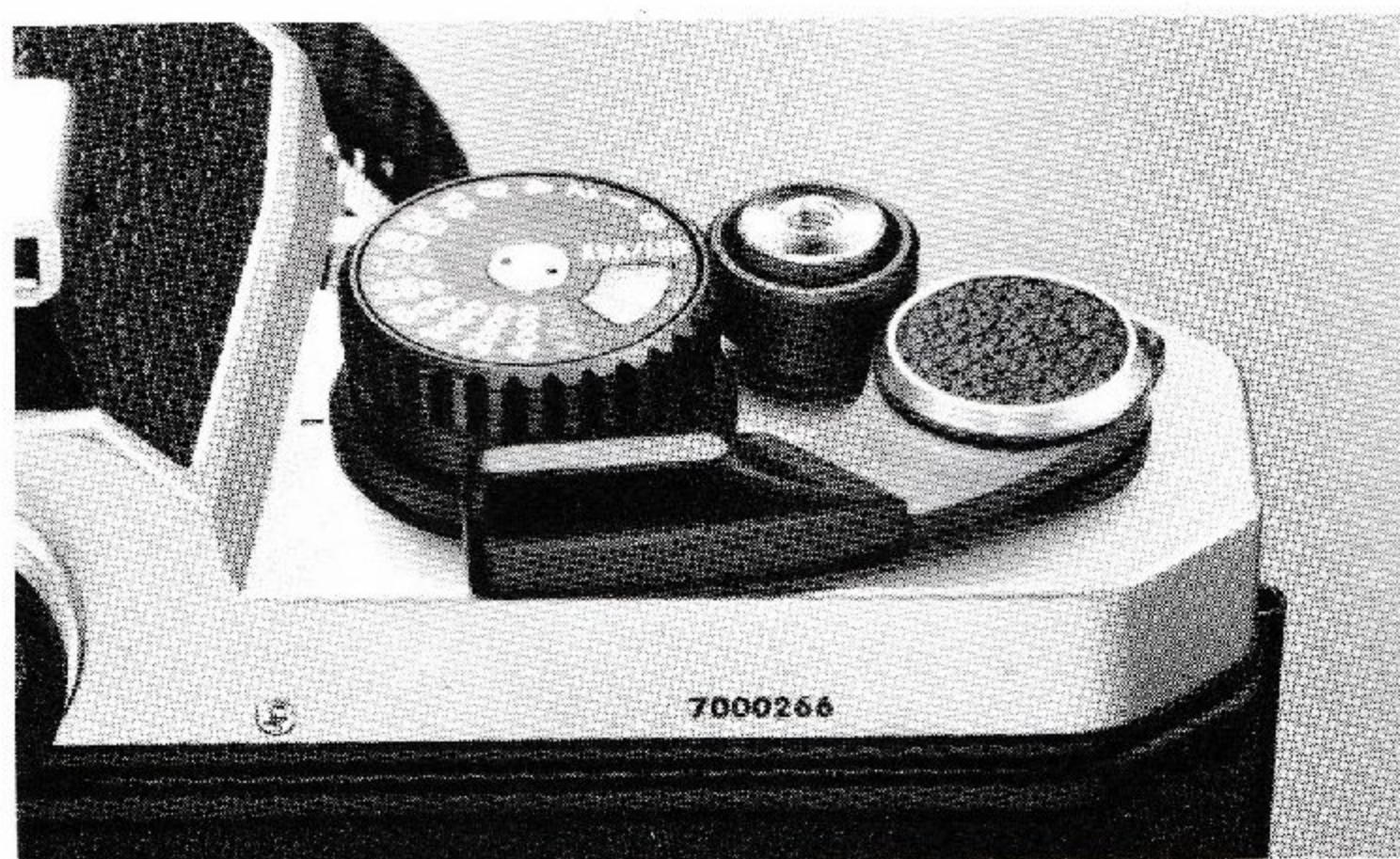


裏ぶたを 閉じたとき	
から写し 2回目	
撮影1枚目	
撮影20枚目	
裏ぶたを 開いたとき	

フィルムカウンター ④9

フィルムカウンターは順算式で、Sからはじまり0、2、4……36まで偶数値で表示され奇数値はその中間に・点で示されています。フィルムカウンターはフィルムの有無に関係なく作動し、巻き上げ操作が完了したときに1目盛ずつ進みます。36の目盛より先は巻き上げ操作を行ってもカウンターは進みませんが、フィルムの巻き上げおよびシャッターチャージはされます。

裏ぶたを開くとフィルムカウンターは自動的にSに戻ります。

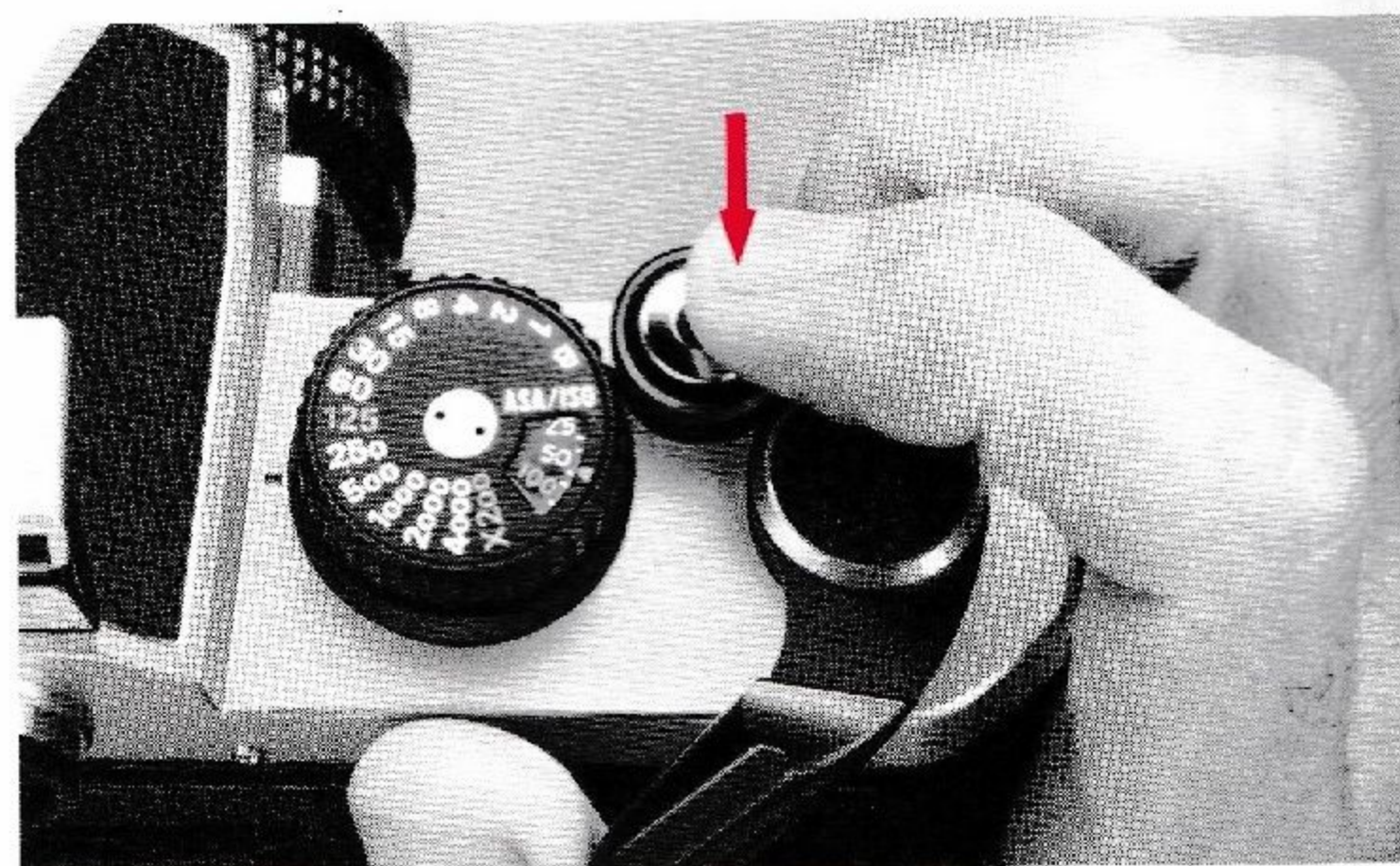


シャッターボタン ⑤⑩

シャッターボタンはシャッターのリリースと露出計のスイッチを兼ねています。巻き上げレバーが格納位置にある場合、シャッターボタンはロックされていて作動しません。ロックの解除は巻き上げレバーを軽く引き出す事により行います。

シャッターボタンを軽く押しますと内蔵されている露出計のスイッチが入り、ファインダー内のLEDが点灯します。露出計のスイッチはバッテリーの無駄な消耗を防ぐため、1度スイッチを入れた状態にすれば、シャッターボタンから指を離しても約30秒間はその状態を保ち、その後自動的にOFFになります。

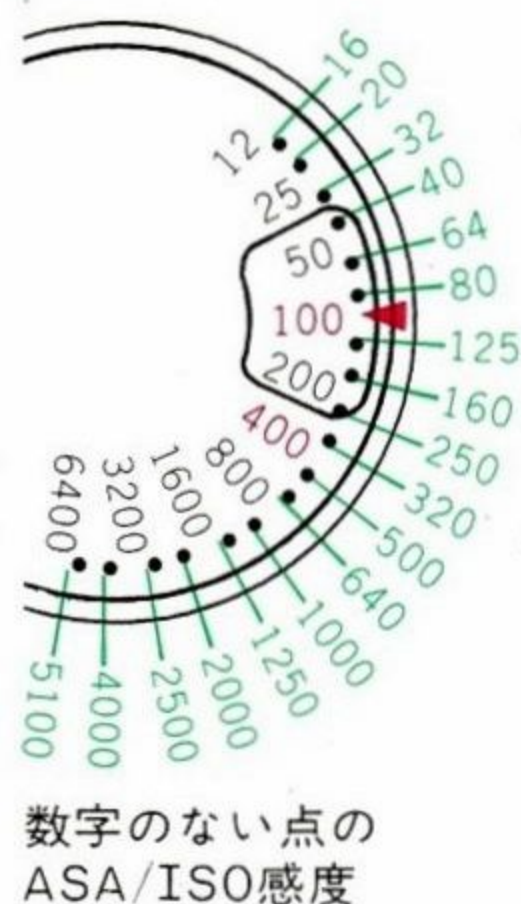
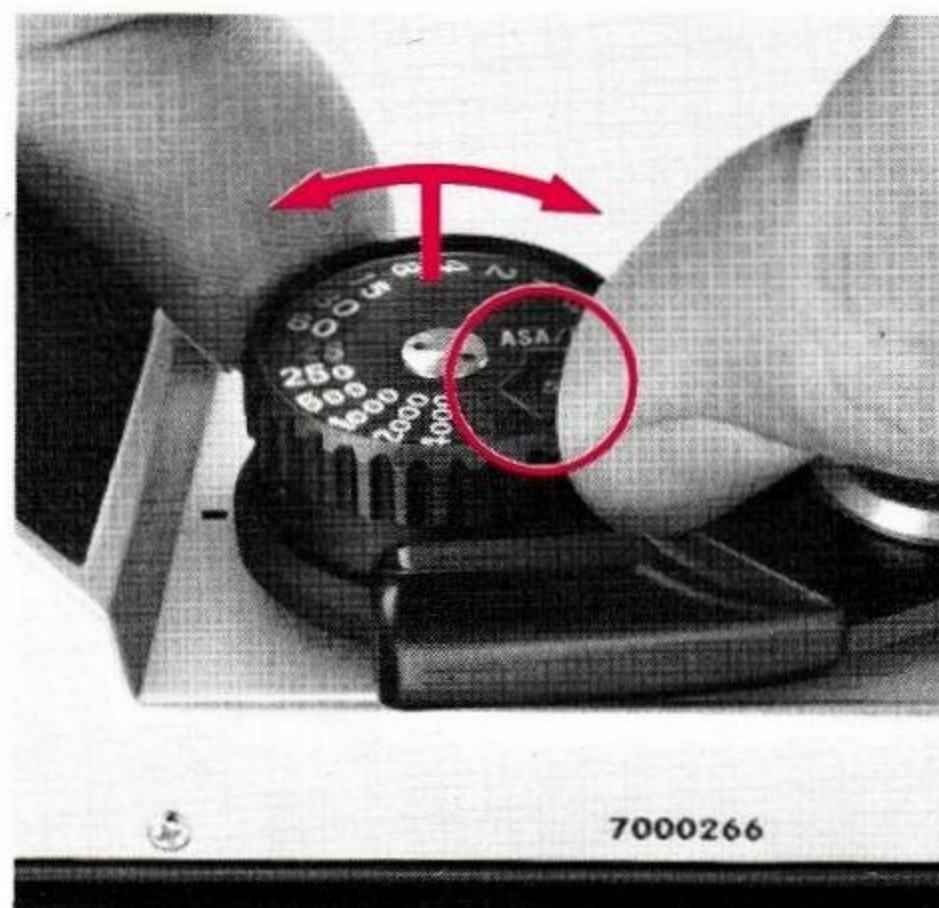
シャッターをリリースするには、シャッターボタンをさらに深く押して行いますが、この際、指先の腹の部分をシャッターボタンにあてがい、リリースガードの



上から軽く押し込むようにしますと安定したシャッターリリースが行えます。

1/30秒より低速のシャッタースピードでは、カメラぶれが起きやすいのでなるべく三脚などに固定し、ケーブルリリースを使ってシャッターをきることをおすすめします。ケーブルリリースは、シャッターボタン中央部のねじ穴に取り付けます。

- つぎのようなときはシャッターはきれません。
 1. 巻き上げをしていないか、あるいは巻き上げが不十分なとき。
 2. 巻き上げレバーが格納位置にあるとき。
- 台座の広い三脚に取り付けますと、絞りリングが回せなくなることがありますので付属の三脚マットをカメラボディと三脚の台座の間にはさんでご使用ください。
- カメラボディの三脚ねじ穴に、三脚のねじを無理にねじ込むと、カメラ内部をいためるおそれがありますからご注意ください。



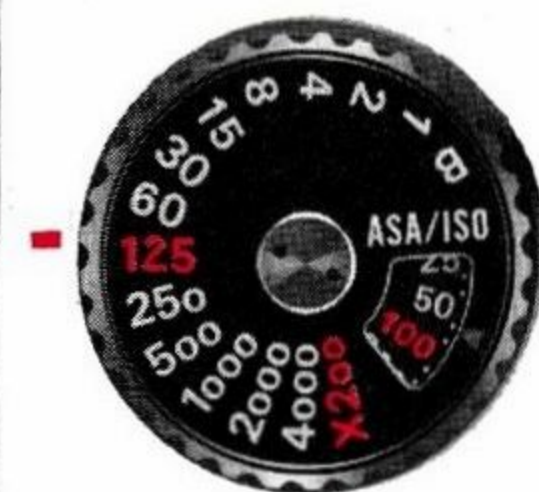
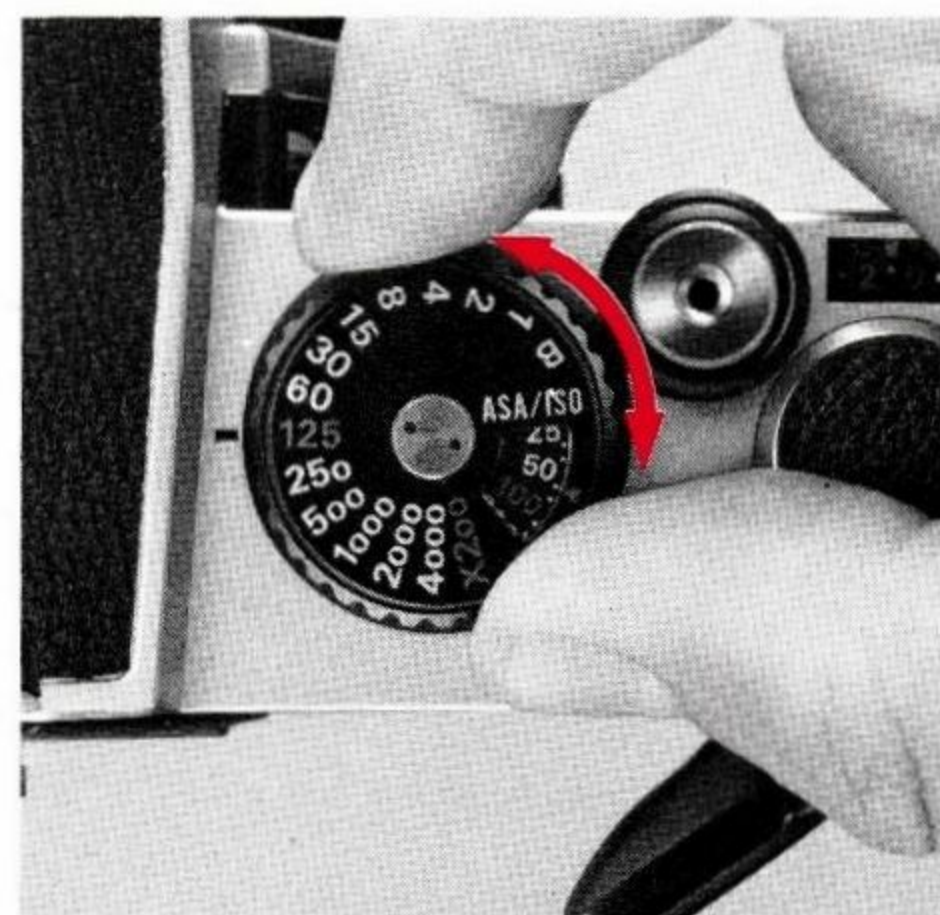
フィルム感度(ASA/ISO)目盛④⑦

ニコンFM2のフィルム感度目盛は、12からはじまり6400まで表示されています。

数字のない点のASA/ISO感度数値は上図のようになっています。

尚、よく使用されられると思われるASA/ISO感度数値の100と400は赤色で表示されています。

- ASA/ISO 数値は、一定の光量におけるフィルム感度の表示です。数値が大きくなれば感度は増し、小さくなれば感度も減少します。使用フィルムのASA/ISO感度はパトローネに表示されています。またフィルムの箱やデータシートにも表示されています。

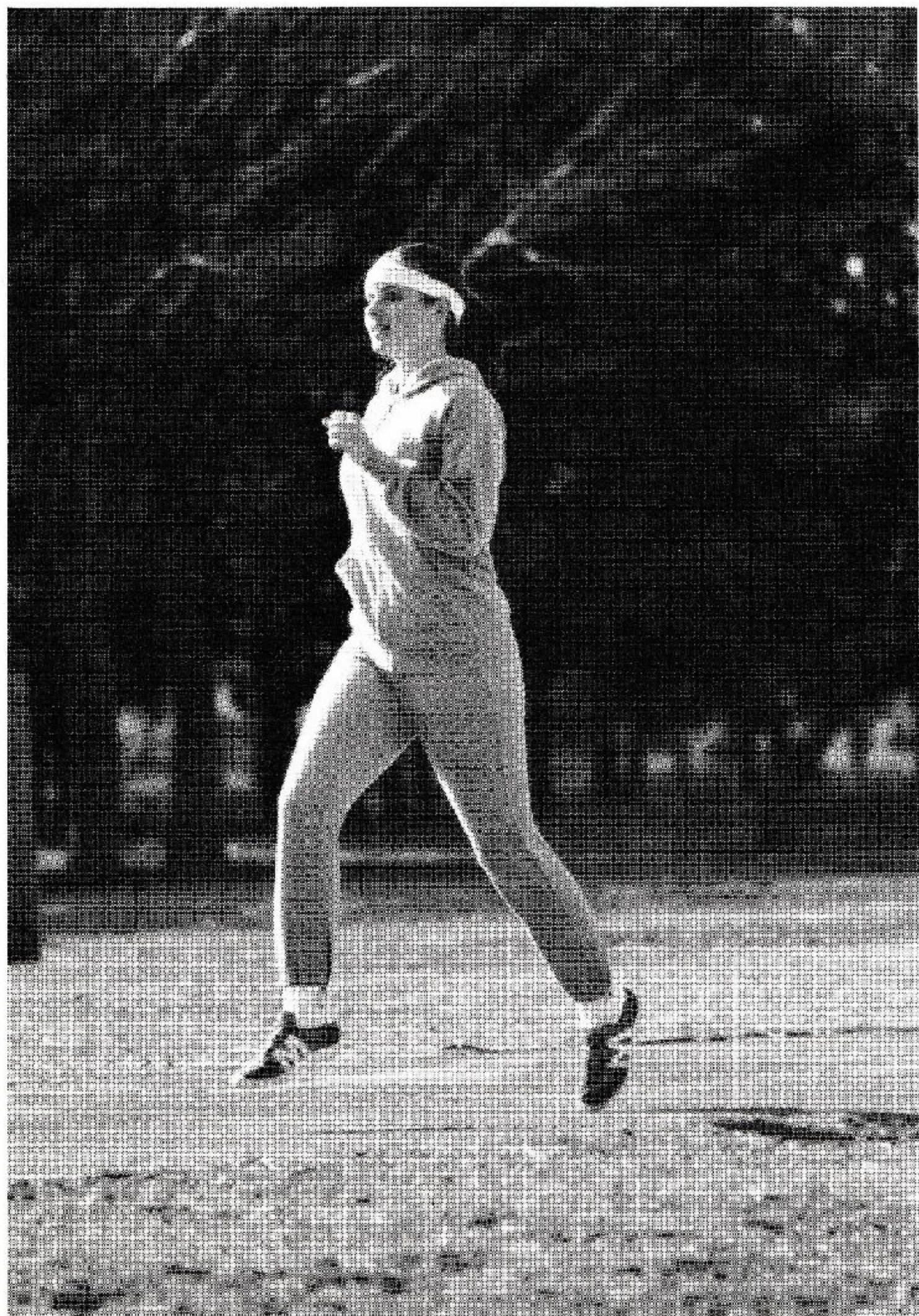


シャッタースピードダイヤル④⑥—露出の決定

シャッタースピードのセット

シャッタースピードのセットは、シャッタースピードダイヤルを右または左に回して指標に数字をクリックの位置で合わせます。

シャッタースピード目盛はB、1～4000、×200まであり、B(バルブ)はシャッターボタンを押している間シャッター幕が開いています。1は1秒、2は1/2秒、……60は1/60秒……4000は1/4000秒、×200は1/200秒を示します。またB、×200を除き隣り合う目盛はお互いに露光量が2倍(または1/2倍)の関係になっています。尚数字の間の中間スピードは使えません。シャッタースピードの数字は、ファインダー内部でも見られますので、ファインダーから眼を離すことなく、その時のシャッタースピードが確認できます。



シャッタースピードが速い場合



シャッタースピードが遅い場合



露出の決定

露出はシャッタースピードとレンズの絞り値の組み合わせにより変化します。

たとえば1/500秒のシャッタースピードに対して1/1000秒は半分の光量となり、1/250秒は倍の光量となります。また絞り値も同様にf/11に対してf/16は半分の光量となり、f/8は倍の光量となります。つまり1/500秒f/11で適正露出が得られた場合、1/250秒f/16でも1/1000秒f/8でも同じ光量となり適正露出が得られることとなります。この組み合わせを理解しておく、被写界深度を考える場合などに大変便利です。

次の表は、その組合わせの一例です。

シャッター スピード (秒)	1/4000	1/2000	1/1000	1/500	1/250
絞 り (f)	4	5.6	8	11	16

露出の表示

露出指示ランプの点灯は、ファインダー視野枠の右側で確認できます。またセットしたシャッタースピードと絞り値もファインダー内で同時に確認できます。露出表示は露出条件により図のような5段階の点灯状態で示されます。

1段以上 露出過度	1段以内 露出過度	適正露出	1段以内 露出不足	1段以上 露出不足

適正露出付近では、わずかな範囲で露出指示ランプの点灯状態が変わりますから、絞りリングやシャッタースピードダイヤルは静かに回してください。またシャッタースピードは中間スピードが使えませんが、絞りは中間絞りが使えますので細かな調節は絞りリングで行ってください。

- B(バルブ)、×200(1/200秒)にシャッターダイヤルをセットしますと、ファインダー内の露出指示ランプは、点灯しません。

露出計の測光範囲

絞りおよびシャッタースピードが、使用するフィルムに適正な露光を与えるような組み合わせの時に露出計は適正の位置(○)に点灯します。

そしてこの絞りとシャッタースピードの組み合わせが適正でないと、適正位置の点灯はしません。

さらに絞りとシャッタースピードの組み合わせが被写体の明るさに対して極端に不適當なときは、この組み合わせをその近くでいくら変化させても適正露出の指示はしませんので、絞りとシャッタースピードの組み合わせをやり直してください。

どうしても適正露出の指示をしないときは、被写体の明るさが露出計の連動範囲外である場合です。

このときは照明をするかNDフィルター等を使うかして明るさを加減する必要があります。

露出計で測光可能な明るさの範囲は、開放測光方式では使用するレンズの開放Fナンバーによって変わります。

たとえばASA/ISO100のフィルムを使ったとき

50mmF1.4レンズでは

EVI~EVI8

(f1.4で1秒~f8で1/4000秒)

135mmF2.8のレンズでは

EV3~EV20

(f2.8で1秒~f16で1/4000秒)

絞り込み測光

(絞り込みレバー③についてはP.31を参照してください)
ニコンFM2は、撮影レンズを通して入ってくる光量を測って露出を決めるTTL開放測光方式のカメラです。AI方式のレンズをつけた場合、開放絞りのまま明るい視野を見ながら露出を決めることができます。

絞り込み測光とはAI方式以外のレンズや接写リングなどをつけたために、レンズの絞りとカメラボディの露出連動レバーが連動しない場合の測光方法です。

測光手順は次のようになります。

- ①フィルム感度(ASA/ISO)をセットします。
- ②レンズを取りつけます。
- ③構図を決めピントを合わせます。
- ④巻き上げレバーを引き出しシャッターボタンを軽く押して測光します。

自動絞りのレンズの場合

絞り込みレバーを押しながらシャッタースピードダイヤルと絞りリングを回して適正露出を決め、絞り込みレバーを離してシャッターをきります。

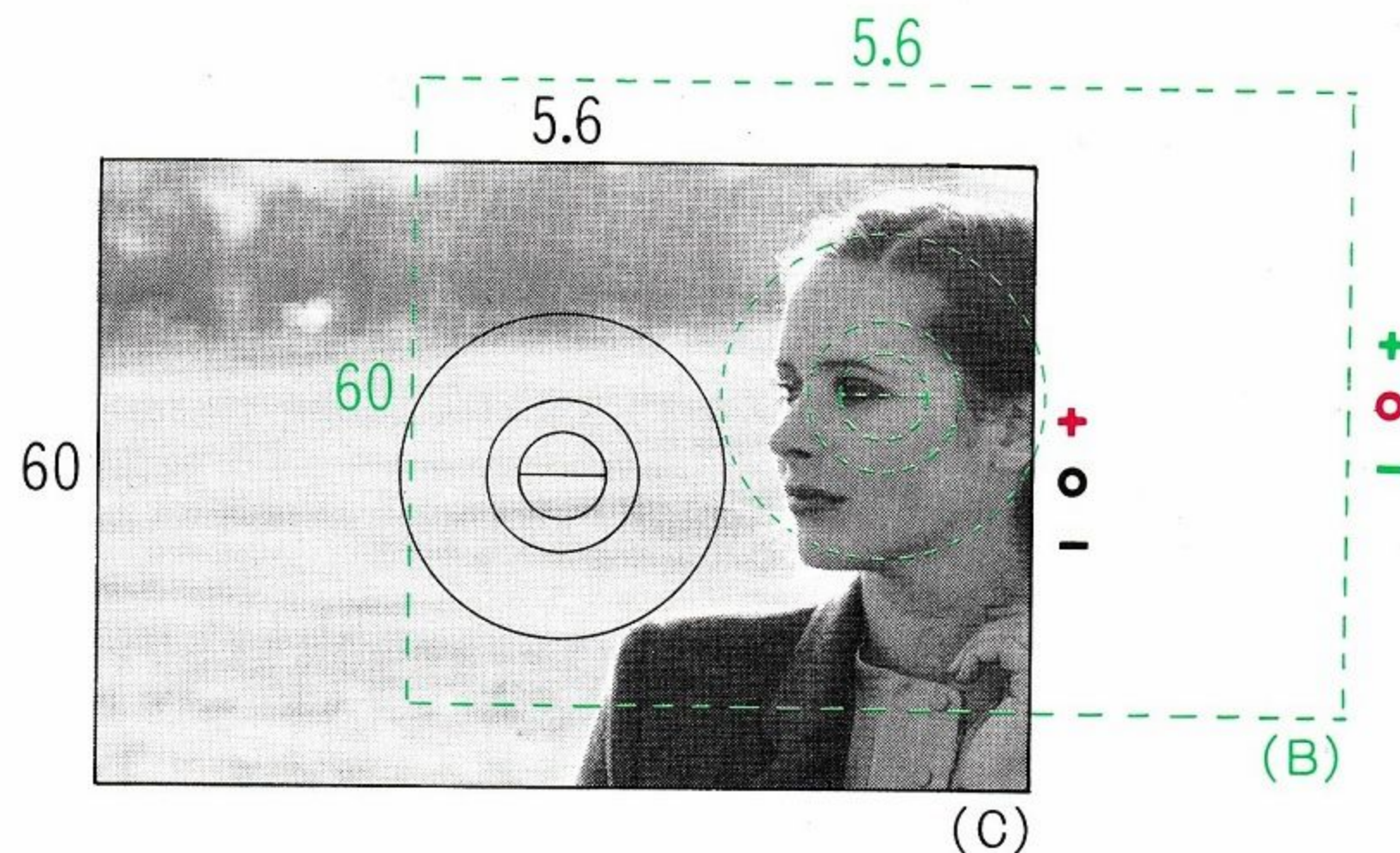
自動絞りでないレンズの場合

プリセット絞りのレンズ(PCニッコールなど)やベローズアタッチメントなどを使用して自動絞りが連動しない時は、ピント合わせは開放絞りでを行い、測光、撮影は絞りリングを回して絞り込んだ状態で行います。

シャッタースピードダイヤルと絞りリングを回して適正露出を決めます。

固定絞りのレンズの場合

レフレックスニッコールを使用する場合や顕微鏡、望遠鏡による撮影の場合は、固定絞りですので絞りによって露出を変えることはできませんのでシャッタースピードダイヤルを回して適正露出を決めます。また、適正露出が得られない場合はNDフィルターをかけるとか照明を加減して露出を調整します。



特殊な場合の測光

ニコンFM2の露出計は中央部重点測光方式を採用しています。

主要被写体の背景が明るく、しかも主要被写体が画面中央部からはずれている場合などは、そのままの状態ですら測光しますと主要被写体部分が露出不足となります（A）。また、これと明暗が逆の場合は露出過度となります。

このような場合は

- ①まず希望の構図でピントを合わせます。
- ②次に主要被写体が画面の中央部に入るようにレンズを向けて測光します（B）。
- ③②で測光した露出のままもとの構図へ戻してシャッターをきります。

このようにすれば、主要被写体は適正な露出となります（C）。

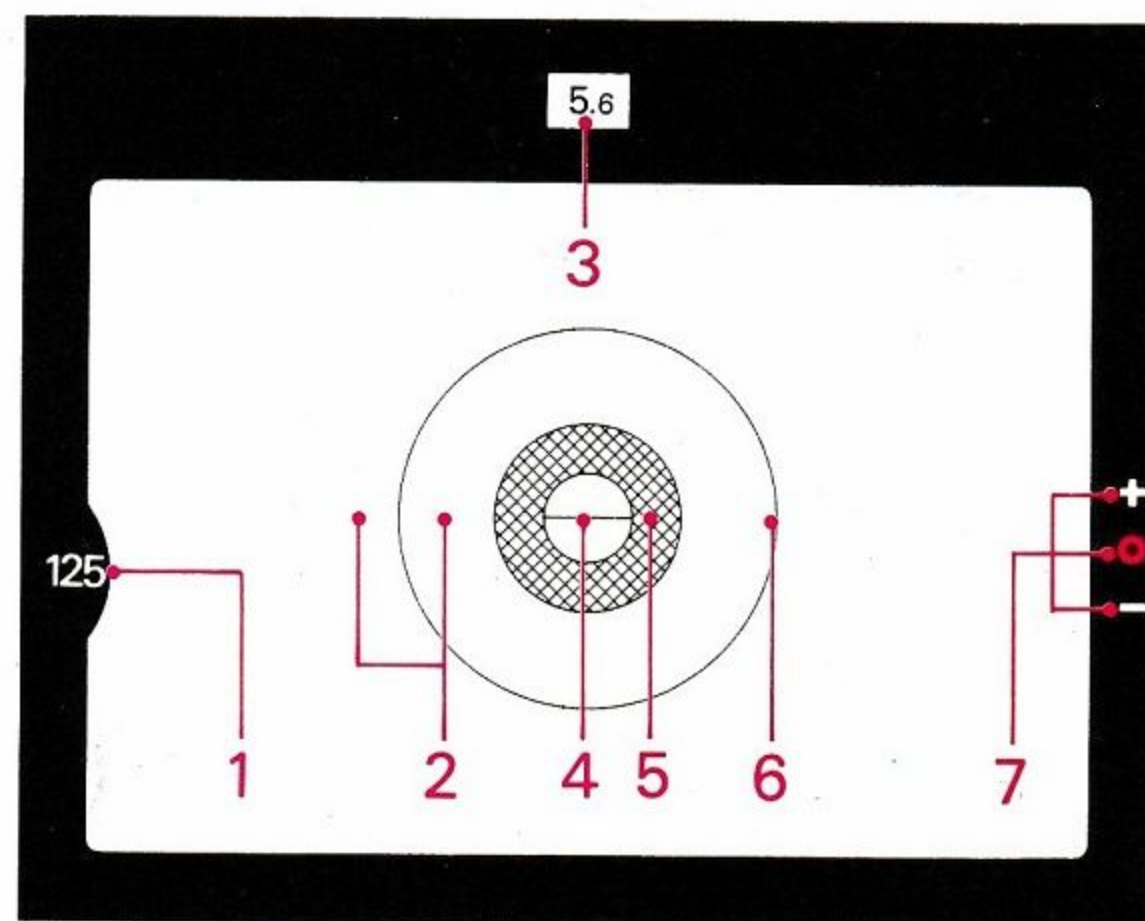
複写および顕微鏡撮影

複写や顕微鏡写真などでは、被写体のコントラストが特殊なことが多いので、露出計の指示通りでは適正露出が得られないことがあります。そのようなときは、露出の補正をしてから撮影してください。撮影の種類と露出の適正との関係を下表に示しましたが、一応の目安ですから、実際には実験によってさらに適正な補正をしてください。

- カラーリバーサルフィルムの場合はラチチュードが小さいので、露出表示どおり撮影する他に
 明るい感じの被写体のとき——露出を1段階多くして1枚
 暗い感じの被写体のとき——露出を1段階少なくして1枚
 撮影しておくことをおすすめします。
- 複写用マイクロフィルムの場合はラチチュードが非常に小さく、現像条件やフィルム乳剤番号によっても結果が変わりますので、試し撮りを行って露出を決めてください。
- 振動やショックを極度に嫌う場合は、照明の点滅で露出を与える方法があります。
- カメラぶれを防ぐために、ケーブルリリースをぜひご使用ください。

	被 写 体	測光方法	露出の補正值	主要アクセサリ	ご 注 意
一般複写	連続階調のある 写真・絵画	開 放 ま た は 絞り込み	補正不要	マイクロニッコール55mmF2.8 ケーブルリリース	コントラストの強いものの場合は白地・ 黒地にかかわらず、18%の標準反射板を 置いて測光して、露出表示を確かめた後、 補正を行ってください。
	コントラストの 強い文書・図面		+約2段		
スライド 複 写	連続階調のある 一般フィルム	絞り込み	補正不要	マイクロニッコール55mmF2.8 ニコンスライド複写装置PS-6 ニコンベローズアタッチメントPB-6 ケーブルリリース	ニコンスライド複写装置を使用の場合は、 フラッドランプをスライド複写装置の乳 白板から約30cmのところに置いてくださ い。
	文書・図面を撮 影したフィルム		-1½段 (白地に黒文字) の場合		
			-½段 (黒地に白文字) の場合		
顕 微 鏡 写 真	プレパラート	絞り込み	+1段	顕微鏡写真アダプター 顕微鏡写真撮影装置PFM	顕微鏡写真では、一般に露出を多くした 方が、良い結果が得られます。左の補正 値は一般例ですので、テスト撮影により 補正值を決めてください。

露出の補正值は、カラーポジフィルム、カラーネガフィルム、一般用パンクロフィルムを使用した場合の参考値です。－：露出を多く ＋：露出を少なく



- 1.シャッタースピード
- 2.マット面
- 3.絞り値
- 4.スプリットプリズム
- 5.マイクロプリズム
- 6.12mmの円
- 7.露出指示ランプ

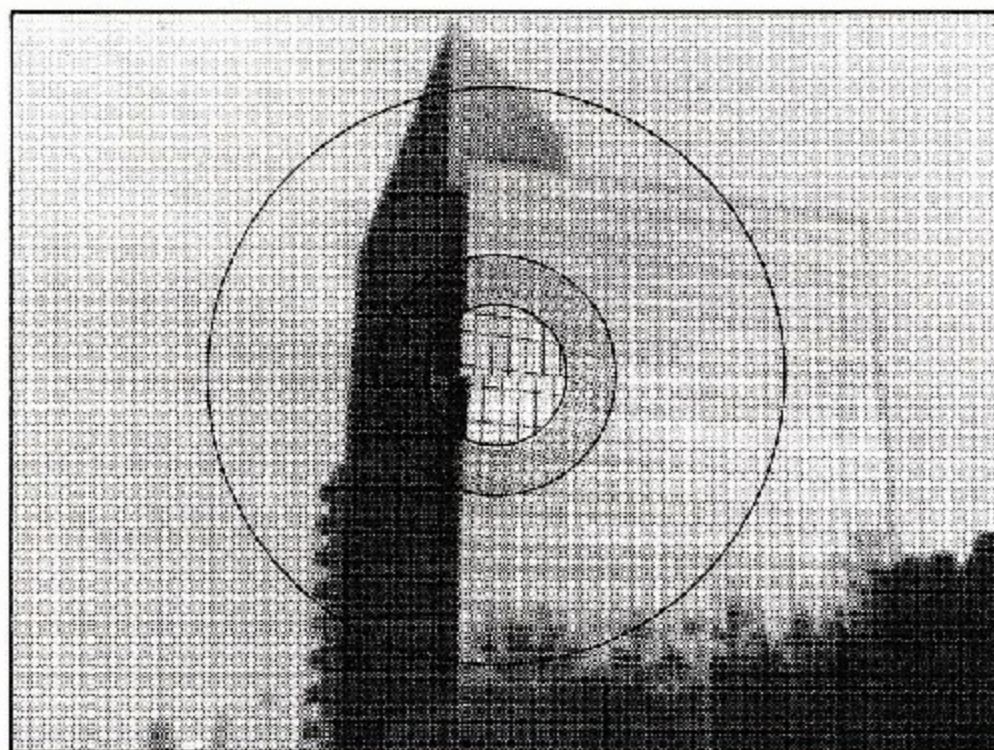
ファインダー⑧

ニコンFM2の露出計は中央部重点測光方式を採用しています。ファインダースクリーン(焦点板)は、スプリットマイクロ式(K型スクリーン)が内蔵されています。ピントを合わせるにはファインダーをのぞきながらスプリット部の上下に分割された像が一つになるまで距離リングをまわします。

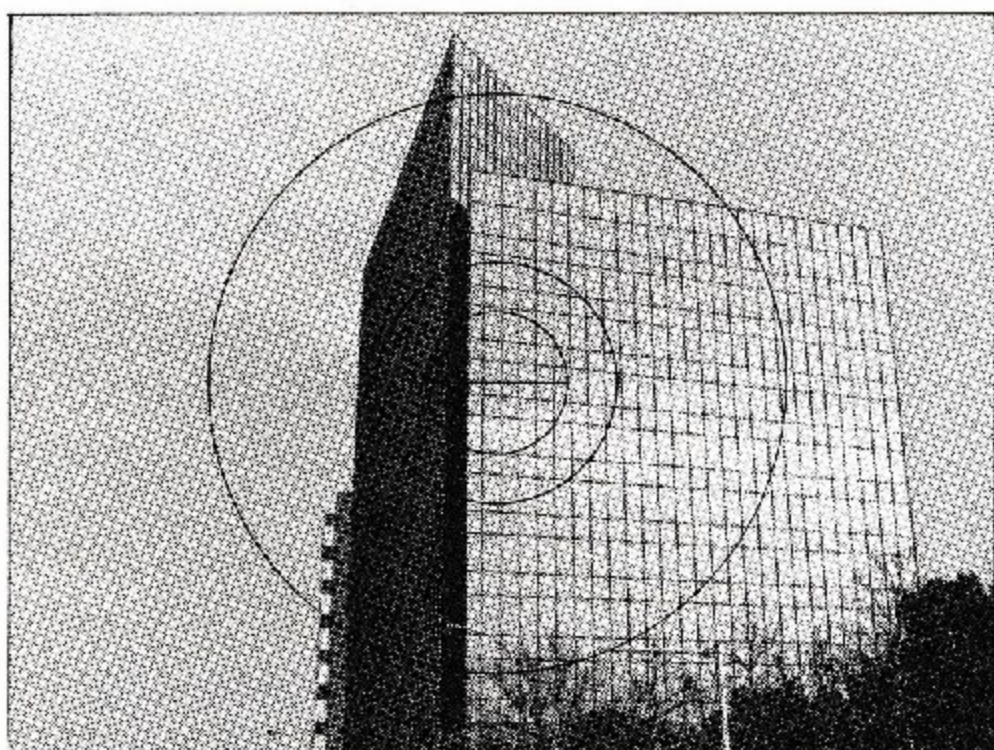
マイクロプリズム部およびマット面でピントを合わせる時は、ぼやけた像がシャープに見えるようになるまで距離リングをまわします。

スプリット部は、はっきりした線や境界をもった被写体にピントを合わせる時などに、マイクロプリズム部は不明瞭な線をもった被写体にピントを合わせる時などに、マット面は接写の場合や開放F値の大きいレンズを使用する時などに適しています。

スプリットプリズムが便利な場合



ピントが合っていない



ピントが合っている

マイクロプリズムが便利な場合

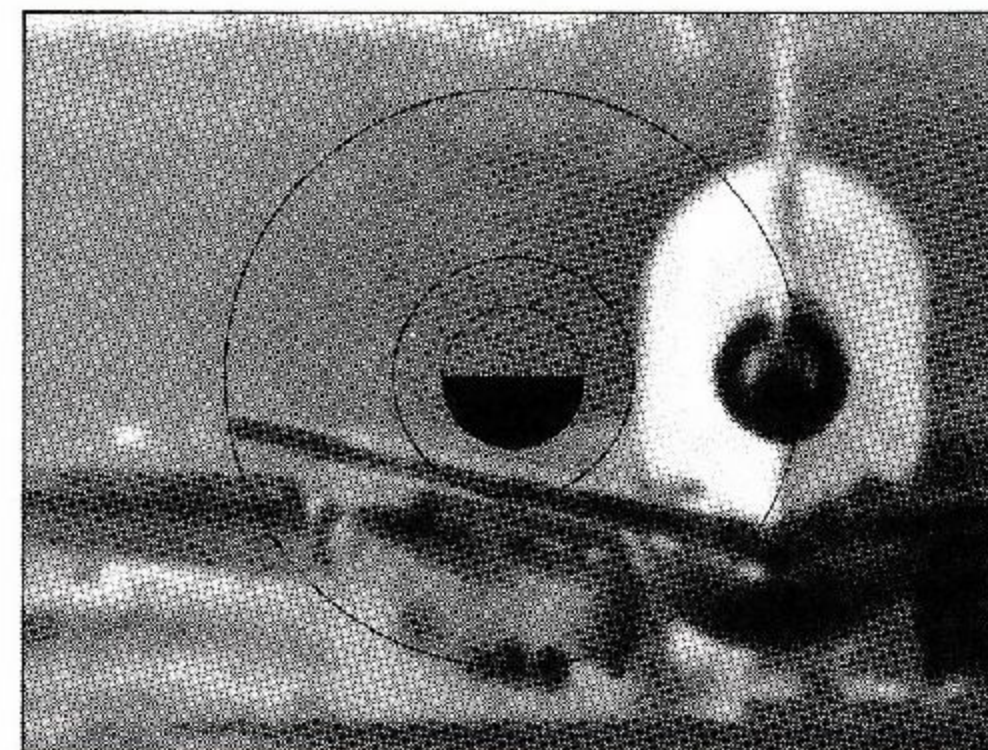


ピントが合っていない

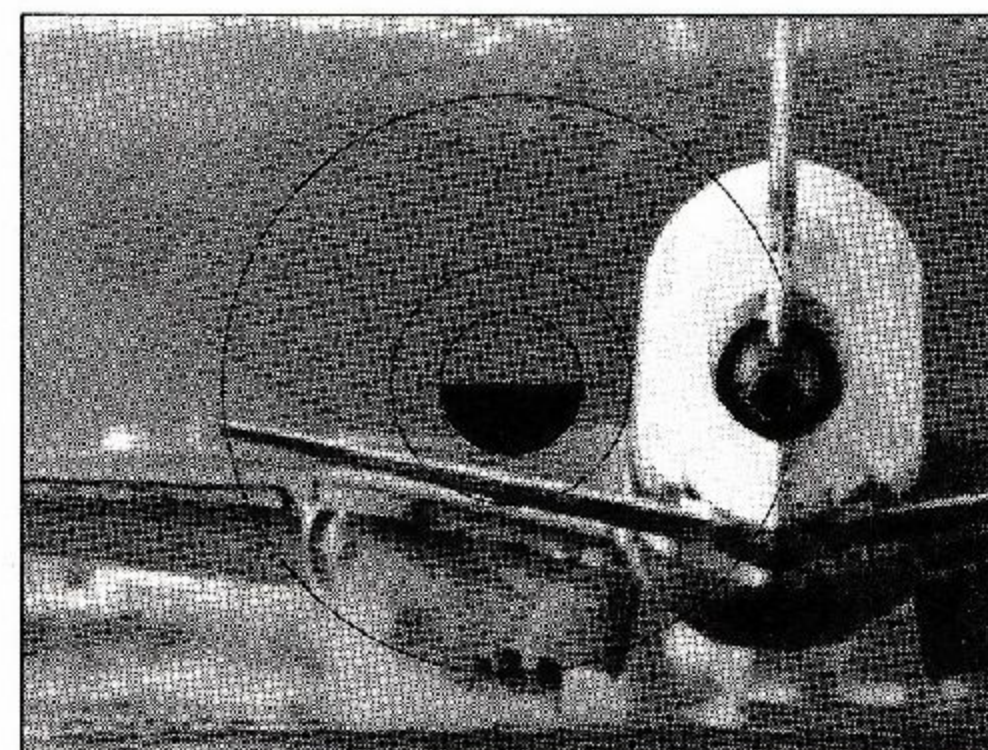


ピントが合っている

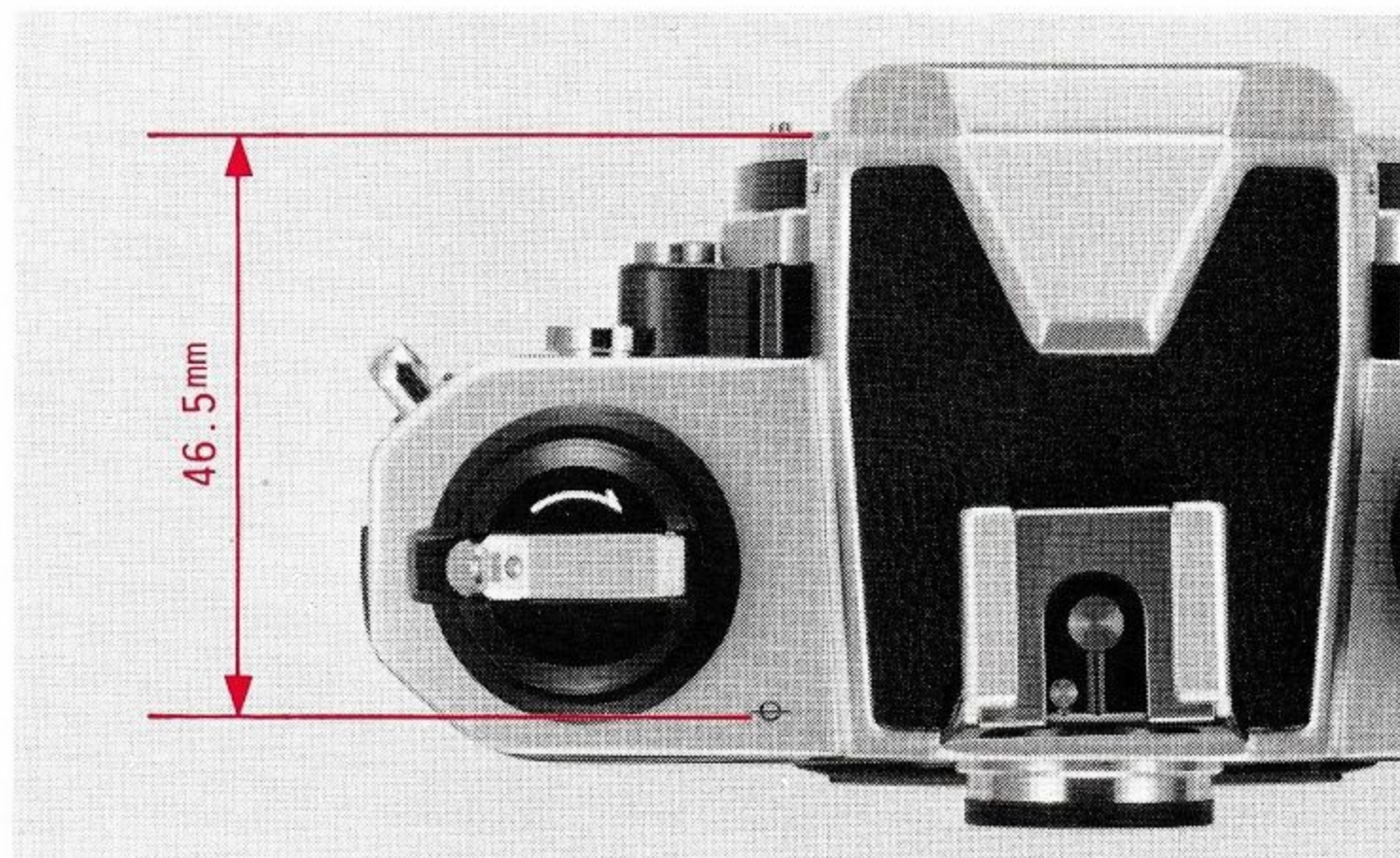
マット面が便利な場合



ピントが合っていない

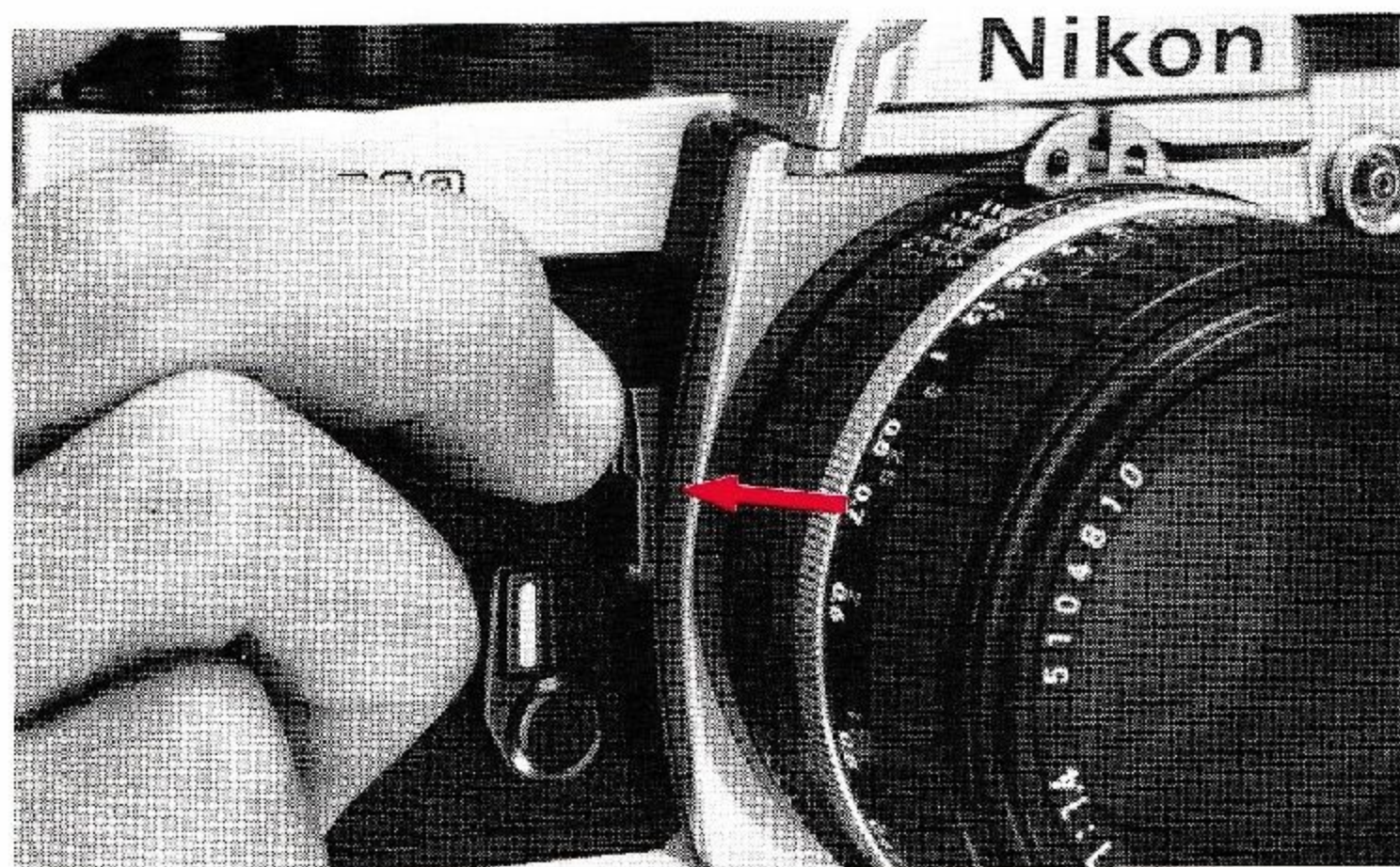


ピントが合っている



被写体までの距離を知り、これを距離リングにセットしても同じです。この場合は、レンズ先端からではなく、カメラボディ上面の距離基準マーク⊖③④(フィルム面の位置)から被写体までの距離を測ってください。レンズ取り付け面からフィルム面までの寸法は46.5mmです。

- F4.5より暗いレンズおよび自動絞りでないレンズ(PCニッコールなど)をf/4.5より絞り込んで使うとき、あるいは接写のときなどは、スクリーンの中央部(スプリットマイクロ部内)ではピントが合わせにくくなりますので周囲のマット面でピント合わせをしてください。
- FM2のファインダー視野率は実際に撮影される画面の約93%です。撮影時にファインダーをのぞいて見た視野よりも実際の画面は広く撮影されます。
- リバーサルフィルムをマウントしたり、ネガフィルムをサービスサイズでプリントしますと、実際の撮影画面よりも画面の周辺がカットされることがありますのでご注意ください。
- ニコンFM2はファインダースクリーンの交換ができます。ファインダースクリーンの交換については、P.42をご覧ください。



絞り込みレバー③

自動絞りのレンズは、ファインダーはつねに開放絞りで像が見えていますが、このレバーをボディ側に押すとレンズはセットした絞り値まで絞られ、ファインダーをのぞいてそのときの被写界深度が見られます。絞り込みレバーを押すと、絞りに応じてファインダー視野は暗くなります。

- 絞り込みレバーは十分押してください。
- シャッターをきるときは、絞り込みレバーを離してください。また開放測光をする場合もレバーを離して行ってください。

被写界深度とは

ある絞りで被写体にピントを合わせた場合、その被写体の前後の一定距離の範囲が鮮明で、それ以外は被写体から離れるにしたがってだんだんボケが大きくなります。この鮮明な範囲が被写界深度で、範囲が広いときに深度が深いといい、狭いときは深度が浅いといいます。

被写界深度は、同じ焦点距離のレンズでは、

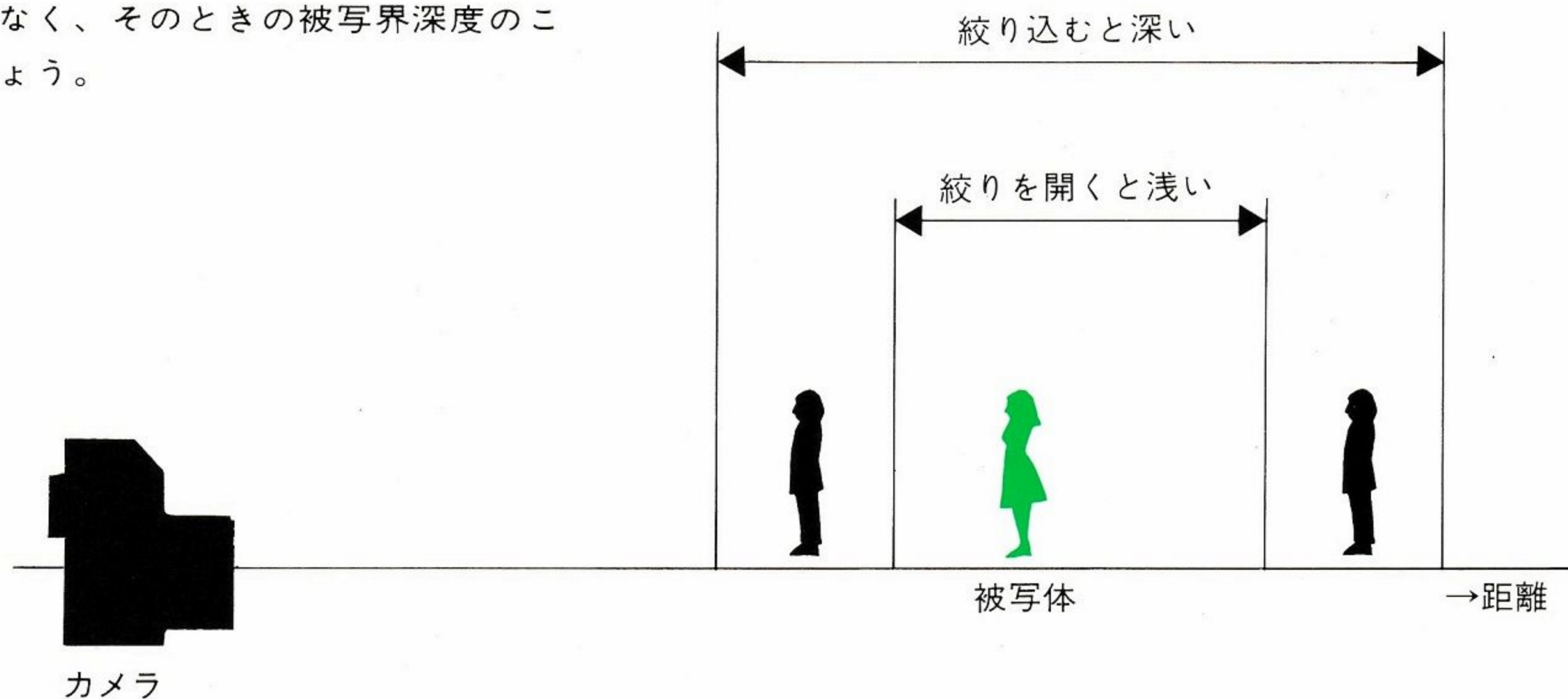
1. 絞り込むほど深く、絞りを開くほど浅くなります。
2. 被写体距離が遠いほど深く、近いほど浅くなります。
3. ピントを合わせたところより後方に深く、前方に浅くなります。

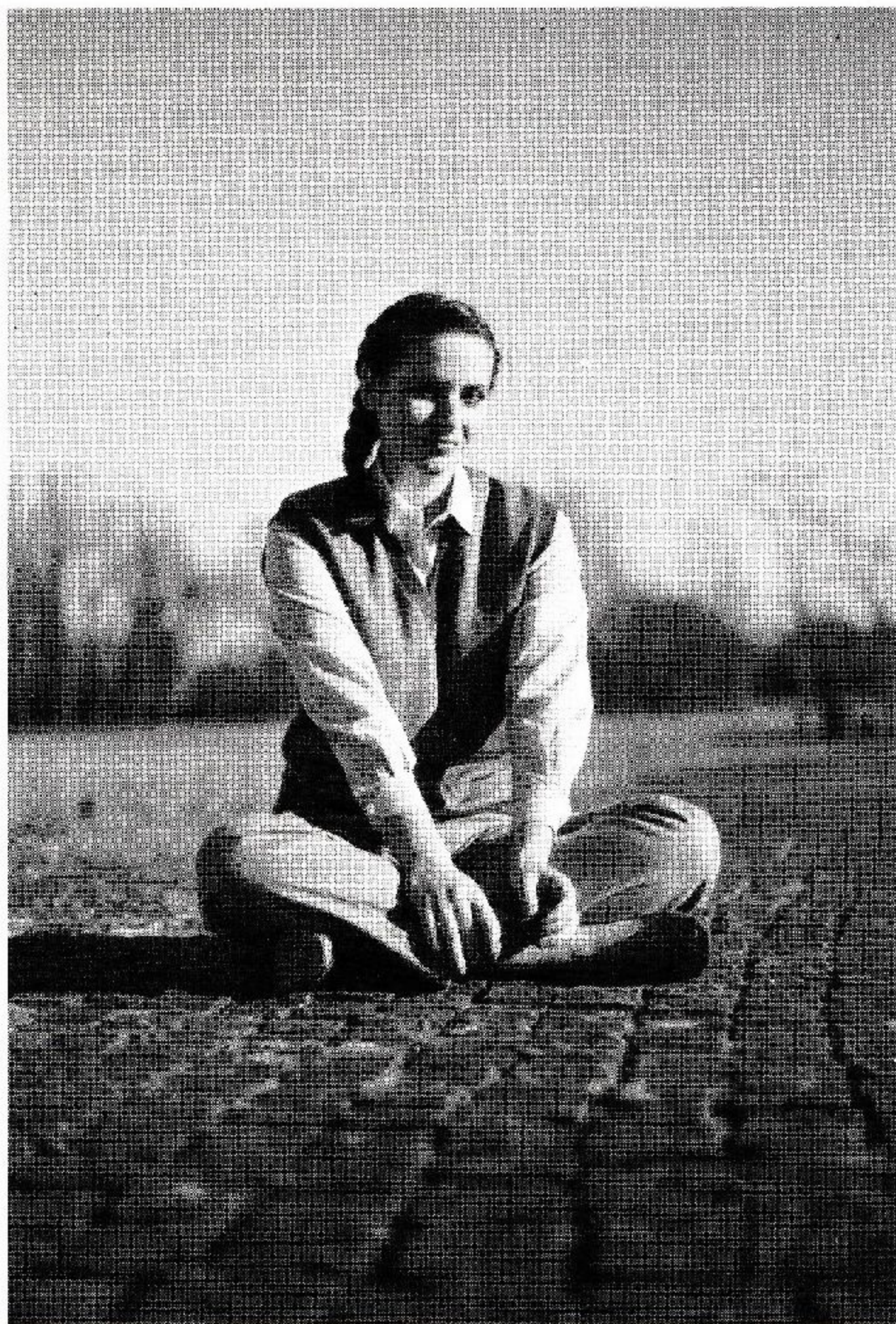
異なるレンズまたはズームレンズでは(同一絞りで)レンズの焦点距離が短いほど深く、長いほど浅くなります。

ニッコールレンズおよびニコンレンズシリーズEでは、被写界深度が距離指標の両側に絞り目盛と同色の線で示されています。範囲はその線が示す距離目盛で読むことができます。

ここに示す例では、50mmF1.4レンズで5 mの距離にピントを合わせたときの絞りの違いによる被写界深度を示します。

この被写界深度を上手に利用することによって背景をボカして主要被写体を浮きだたせたり、奥行きのある被写体の全体にピントの合うように撮影するなど写真に味わいをつけることができます。単に被写体にピントを合わせるだけでなく、そのときの被写界深度のことも考えて写しましょう。





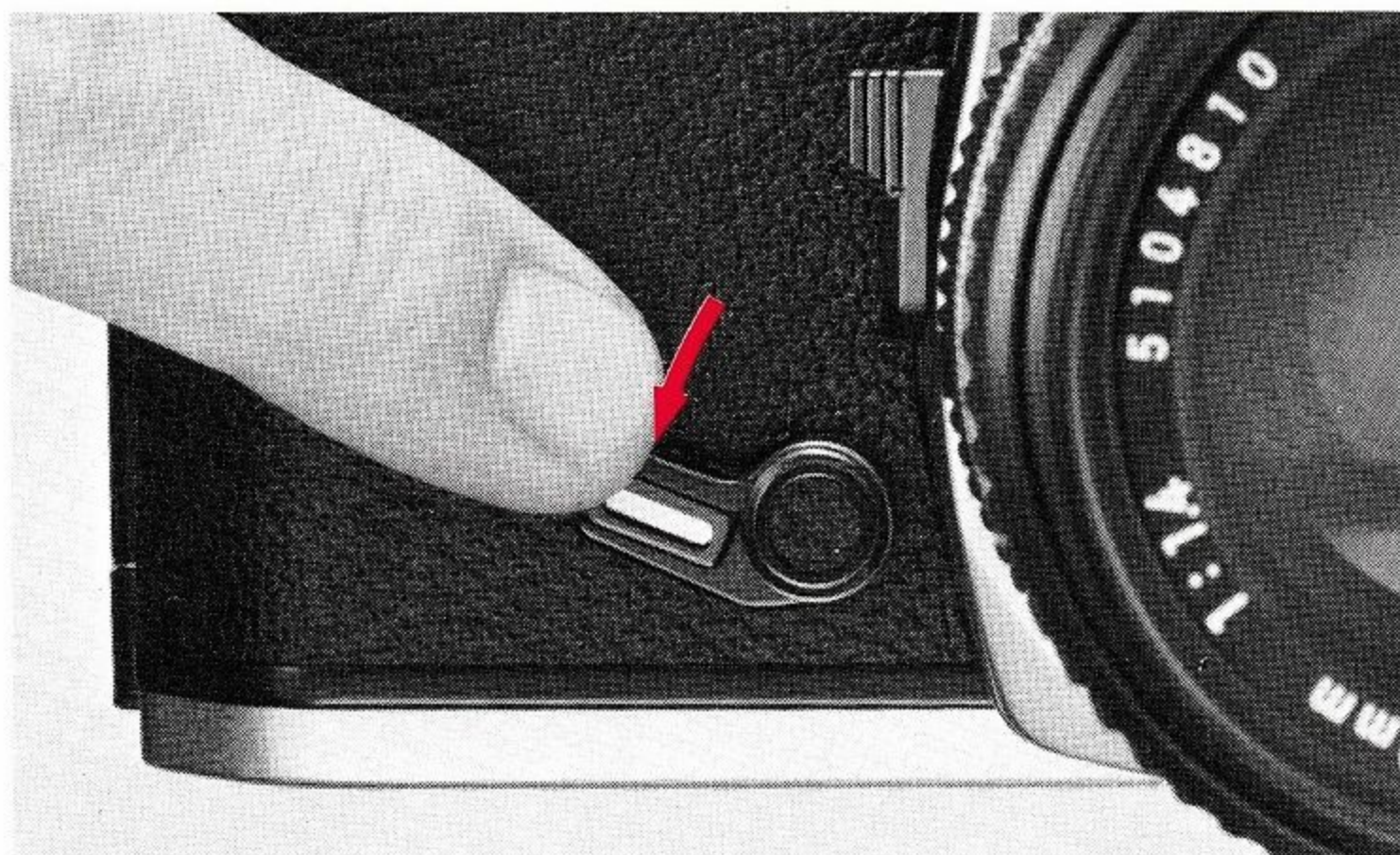
f/4の場合

主要被写体のところだけが鮮明です。



f/16の場合

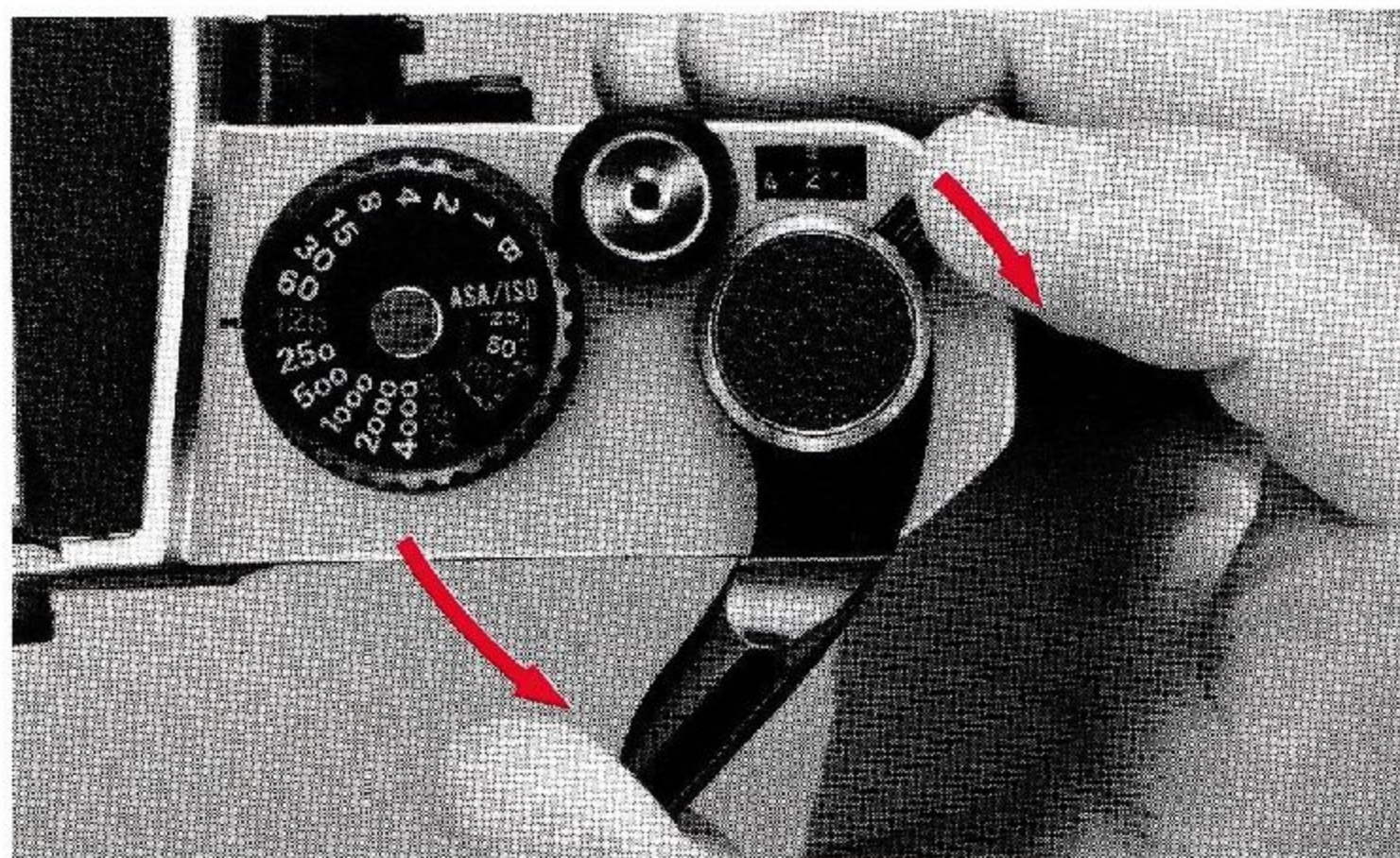
近景から遠景まで鮮明です。



セルフタイマー ④

記念写真やグループ写真を撮るときにお使いください。写真のようにレバーを矢印の方向へ回すとセルフタイマーがセットされます。このセットは巻き上げの前後どちらで行ってもさしつかえありません。シャッターボタンを押すとミラーが上がりセルフタイマーが作動しはじめ、約10秒後にシャッターが切れます。セルフタイマーをセットした後、使用せずに解除する場合はセルフタイマーレバーを指でもとの位置に戻してください。

一度解除したあとは普通に撮影ができます。セルフタイマーが作動中にレバーを戻しますと、戻すと同時にシャッターが切れます。セルフタイマーはB(バルブ)を除くすべてのシャッタースピードで使用できます。三脚などにカメラを固定し、セルフタイマーを使用して撮影すれば手ぶれを防ぐことができます。



多重露出レバー ④⑧

同一画面に違った被写体や同じ被写体を何回も写し込むことを多重撮影といいます。ニコンFM2は、簡単に多重撮影を行えます。多重撮影を行うには

- ① 1回目の露光を行います。(シャッターをきる)
 - ② 多重露出レバーを手前(矢印方向)に引いたまま巻き上げレバーを巻き上げます。このときフィルムは送られずにシャッターだけがチャージされ、フィルムカウンターも進みません。
巻き上げ途中で自然に多重露出レバーから指が離れますが多重撮影は確実に行われます。
 - ③ 完全に巻き上げましたら2回目の露光を行います。
(シャッターをきる)
- ②、③の操作の繰り返しにより何回でも多重撮影ができます。





メモホルダー ③⑨

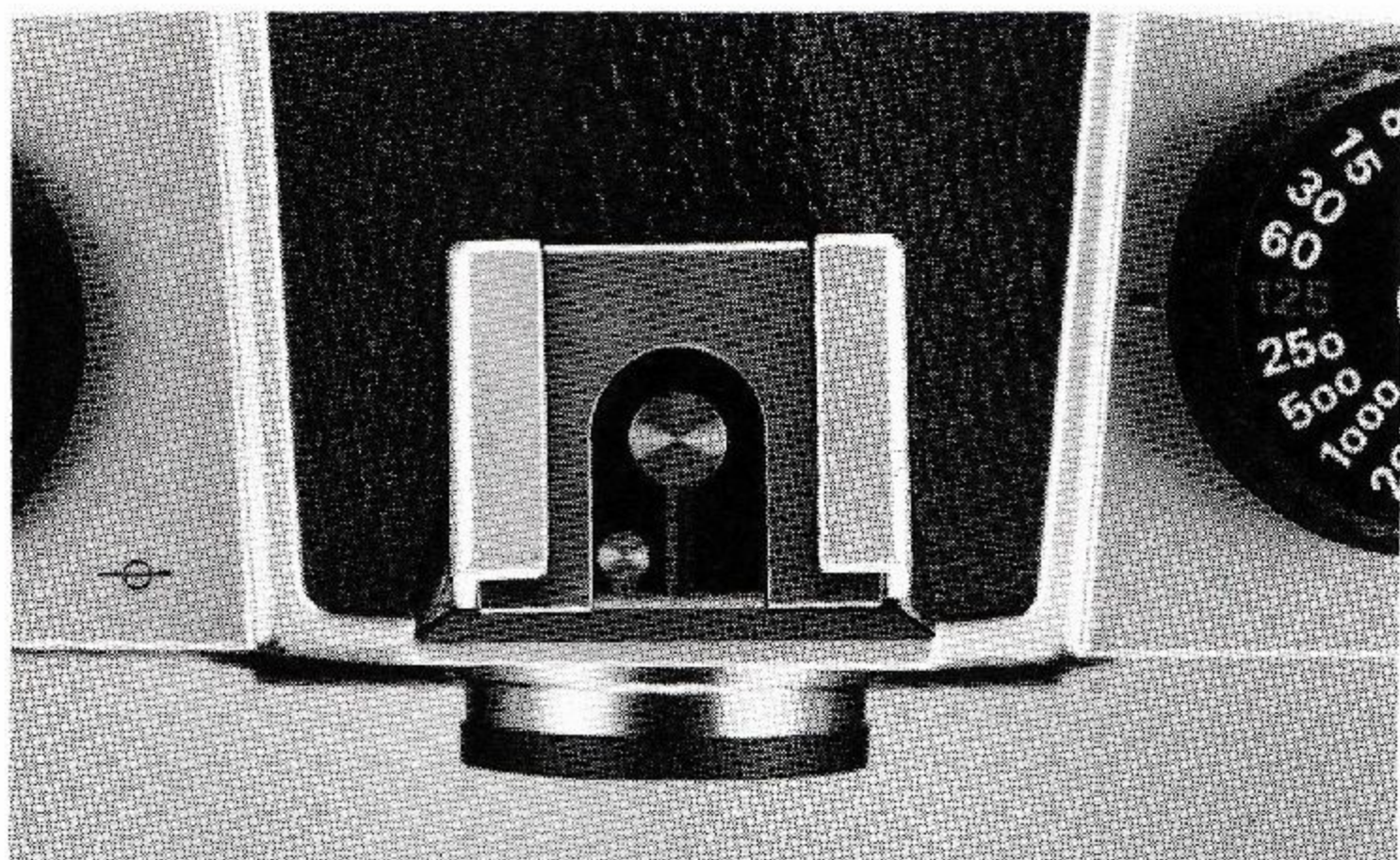
装填してあるフィルムの覚えとして、フィルム空箱の銘柄、種別、ASA/ISO感度値などのところを切り取ってメモホルダーにはさんでおくことを、おすすめします。またご自分のネームカードを入れておいても便利です。



赤外マーク ②③

赤外フィルムとR60フィルターを使って赤外写真を撮る場合は、眼でピントを合わせても赤外線でのピント面とは少しずれていますので、このずれ量だけ修正が必要です。ニッコールレンズ、ニコンレンズシリーズEには、このための赤外指標(赤点)または指標線(赤線)が距離指標近くに設けてあります。(レフレックスニッコールレンズなどのように修正の必要のないレンズもあります)

まずフィルターなしで普通に被写体にピントを合わせます。そのときの距離値を赤外マークに合わせ直しフィルターをかけて撮影します。(写真は被写体までの距離が無限遠の場合です)



フラッシュ撮影

暗い室内や夜間の撮影のほか、昼間でも補助光としてフラッシュを使うと便利です。

ニコンFM2のアクセサリシュー③⑩はフラッシュ接点付き(ホットシュー)ですのでニコンスピードライトSB-10やSB-Eなどはコード不要で、アクセサリシューに差し込むだけで接続できます。

フラッシュ撮影を行うときは、ご使用になるスピードライトやフラッシュバルブのガイドナンバーを確かめて、撮影距離に対するレンズの絞りを決めてください。



他のスピードライトでコードを必要とするものは、カメラ前面にあるシンクロソケット⑭(JIS-B型、はずれ防止ねじ止め付き)にシンクロコードを接続します。フラッシュ接点はフラッシュユニットを取り付けたときのみ導通しますので普通の状態では指を触れても安全です。

ホットシュー接点のないスピードライトやフラッシュユニットをアクセサリシューに取りつけてご使用になりますと、接点がショートし不用意に発光してしまうことがありますのでおすすりめできません。

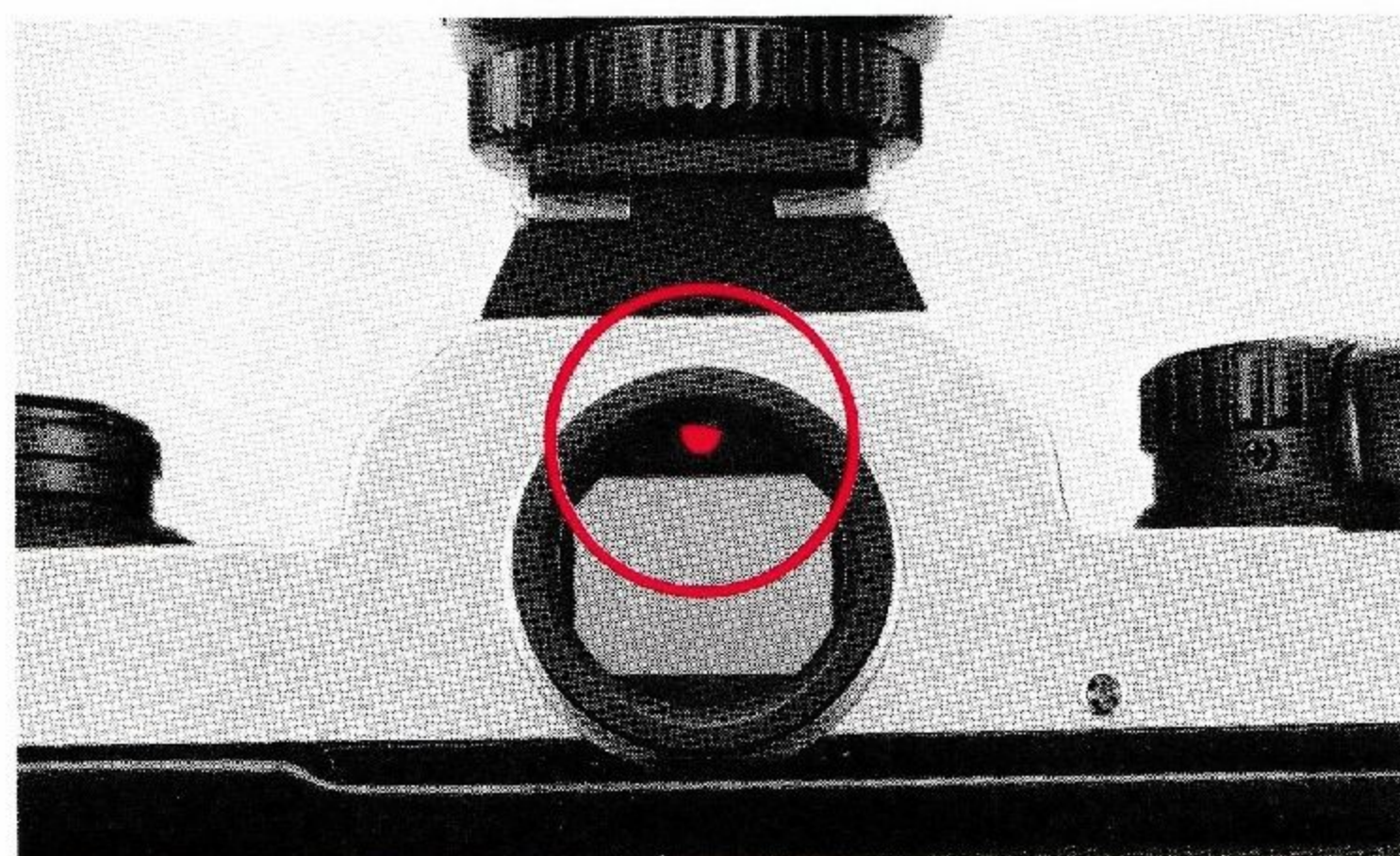
やむを得ずご使用になる場合は、カメラのアクセサリシューのフラッシュ接点にビニールテープなどを貼って絶縁してください。シンクロ接点はX接点のみで、シャッタースピードが1/125秒より低速のとき、および×200(1/200秒)の時に同調します。

- タイムラグのある特殊なスピードライトの場合はタイムラグに応じてシャッタースピードを1/60秒またはそれより遅くしてください。
またフラッシュバルブを使用する場合は1/30秒以下でご使用ください。

同調範囲

シャッター スピード(秒)		×200	1/4000	1/2000	1/1000	1/500	1/250	1/125	1/60	1/30	1/15	1/8	1/4	1/2	1	B
スピードライト																
バルブ	M															
	FP															
	MF															

同調 同調せず



ニコンFM2にスピードライトSB-10またはSB-Eをとりつけますとファインダー接眼部に内蔵されたレディライト⑦により充電の完了、同調範囲外のシャッタースピード警告指示がファインダーから目を離さずに確認できます。

撮影の際は、レディライトが点灯したことを確認してからシャッターをきります。

シャッターをきるとスピードライトは発光しレディライトは消えます。

尚シャッタースピードを1/250秒～1/4000秒にセットした場合は、充電が完了するとレディライトが点滅して同調範囲外であることを警告します。

シャッタースピードに対するレディライト機能表
(ニコンスピードライトSB-10、SB-E使用時)

シャッタースピード ダイヤル	スピードライト充 電完了(発光)	スピードライト充 電未完了
1/4000～1/250	レディライト点滅	レディライト消灯
1/125～1 B X200	レディライト点灯 (同調)	レディライト消灯

- SB-10、SB-E以外のニコンスピードライトとのレディライト機能についてはP.40をご覧ください。
- シャッタースピードダイヤルがどの位置にセットしてある時でもレディライト点灯後シャッターをきるとスピードライトは発光します。
- レディライトはカメラの露出計スイッチのON、OFFにかかわらず機能します。
- カメラの露出計スイッチがONの状態(露出指示ランプが点灯している)の時、ファインダー内の露出指示ランプの点灯は、その時の露出状態を指示します。
尚B(バルブ)およびX200(1/200秒)にセットした場合は露出指示ランプは消灯しますので日中シンクロなどでスピードライトと露出計を併用する場合は、B(バルブ)およびX200(1/200秒)以外のシャッタースピードで測光し、撮影はX200(1/200秒)または1/125秒以下のシャッタースピードで使用してください。

ニコンFM2とニコンスピードライト組み合わせ表

スピードライト名	カメラ側レディライト	接続方法	撮影
スピードライト SB-E	充電完了時点灯	コードレス	自動調光
リピーティング フラッシュ SB-6	———	シンクロコード SC-6	マニュアル
	———	ガンカプラー AS-2 + センサーリモートコード SC-9 (SU-1併用)	自動調光
スピードライト SB-7	———	ガンカプラー AS-2	自動調光
スピードライト SB-10	充電完了時点灯	コードレス	自動調光
スピードライト SB-11	———	シンクロコード SC-11 (SU-2併用)	自動調光
	充電完了時点灯	センサーリモートコード SC-13 (SU-2併用)	
スピードライト SB-12	充電完了時点灯	ガンカプラー AS-6	マニュアル
スピードライト SB-14	———	シンクロコード SC-11 (SU-2併用)	自動調光
	充電完了時点灯	センサーリモートコード SC-13 (SU-2併用)	

- FM2カメラボディのレディライト接点に触れる接点をもつ他社製スピードライト(SB-10、SB-Eなどと同じ方式のレディライト接点を持つ他社製スピードライトおよびホット接点が形状によりボディのレディライト接点に触れてしまうスピードライト)を取り付けて使用しますと、回路を破損する場合がありますのでご注意ください。

(例えばSB-12をFM2に使用するときは、ガンカプラーAS-6が必要となります。レディライトは、充電完了時点灯しますが撮影はマニュアル撮影になります)



接写

レンズに記入されている至近距離よりも近距離に写すために、次のようなアクセサリがあります。

①クローズアップレンズNo.0、No.1、No.2、No.3T、No.4T
これらはレンズの先端に取りつけて用いますので露出は開放測光で決められます。

②オート接写リングPK-11、PK-12、PK-13

③ペローズアタッチメントPB-6

②、③はレンズとカメラボディとの間に取りつけて用います。

②にAI方式のレンズを取りつけた場合は自動絞りお

よび露出計の連動ができますので開放測光で露出が決められます。③は連動ができませんので絞り込み測光で露出を決めます。ペローズアタッチメントは、蛇腹を伸縮して連続的に撮影倍率が変わります。

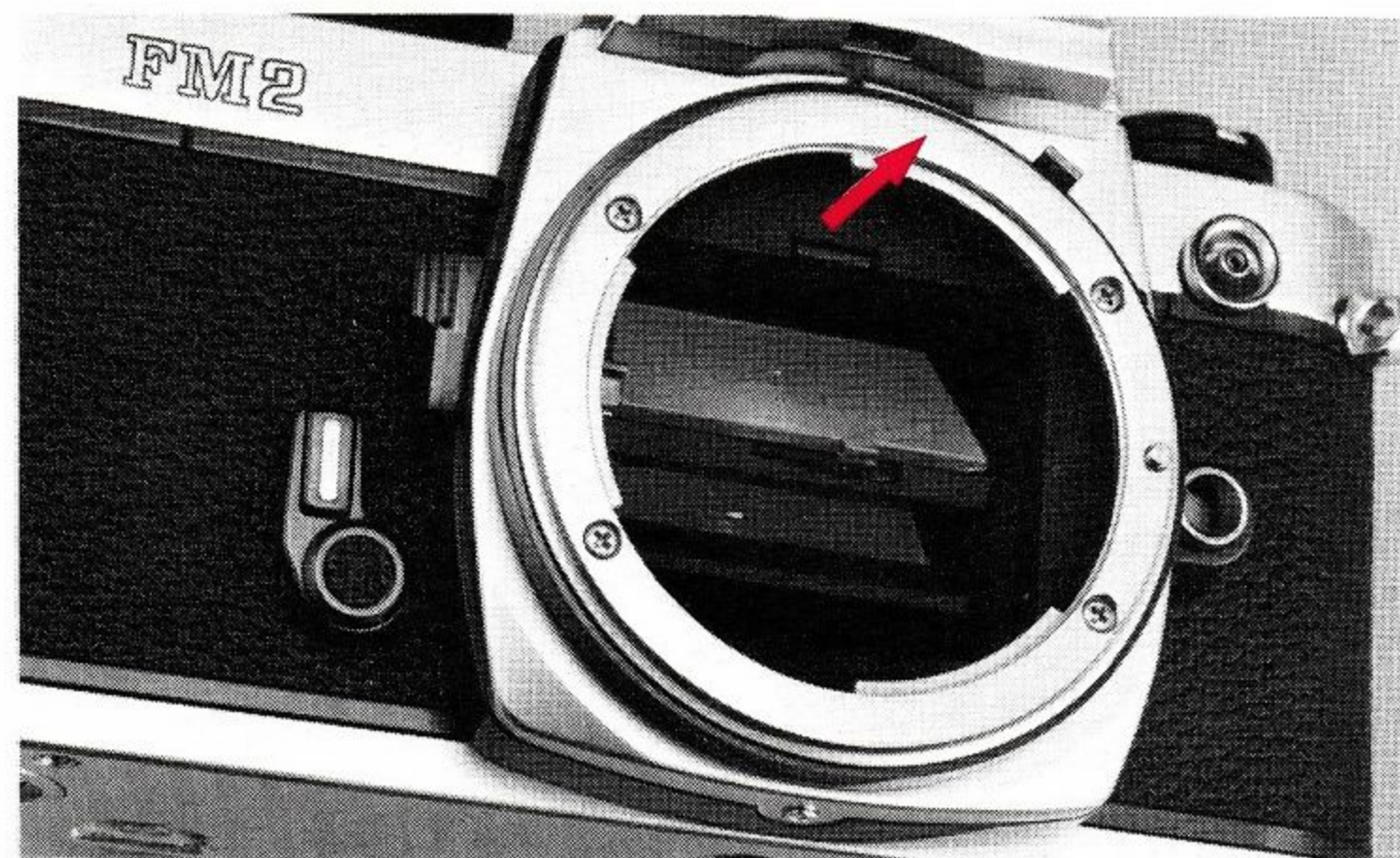
①～③を互いに併用することもできます。

④接写性能を特に考慮したマイクロニッコール55mmF2.8、105mmF4、200mmF4(IF)があります。

このAI方式マイクロレンズを使用して、1/2～1/1倍の撮影倍率を得るには、55mmF2.8にはPK-13リングを、105mmF4にはPN-11リングを用います。また、200mmF4(IF)の場合は、テレコンバーターTC-300を用いると無限遠から1/1倍までの撮影ができます。これらのアクセサリを使用しても、自動絞りおよび露出計の連動ができますので開放測光で露出が決められます。接写をすると一般に被写界深度が著しく浅くなります。そのため奥行のある被写体はできるだけ絞って撮影する必要があります。

ピント合わせは、スプリット部やマイクロプリズム部では見にくくなりますのでマット面で行なうか、または適したファインダースクリーンに交換してください。

●AI方式以外の接写リング(PK-1、2、3、PN-1等)はニコンFM2に使用することができません。



ファインダースクリーンおよび交換方法

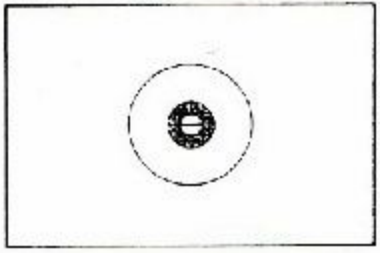
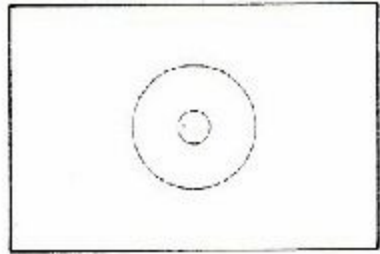
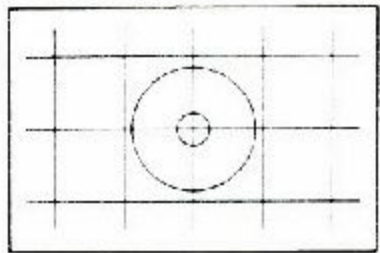
ニコンFM2は、ファインダースクリーンを交換することができます。標準のスクリーンとしてスプリットマイクロ式(K型)が内蔵されています。交換スクリーンとしてマット式(B型)、方眼マット式(E型)の2種類が用意されていますので目的に応じて交換してください。

交換方法

- ①カメラボディからレンズをはずします。(P.8をご覧ください)
- ②マウント内部上方にあるスクリーン交換レバー⑫(写真)を専用ピンセット(別売のファインダースクリーンに付属)の先端で手前に引きます。(写真矢印方向)
- ③ファインダースクリーンが下がりますので専用ピンセットでファインダースクリーンの突起部をはさんで取り出します。



- ④交換するファインダースクリーンの突起部をピンセットではさみ、スクリーンの枠にのせます。このときファインダースクリーンが確実に枠の上に乗っていることを確認してください。
 - ⑤専用ピンセットの先端で枠を押し上げるとファインダースクリーンは固定されます。
- ファインダースクリーンを交換の際、ミラーやファインダースクリーンの表面に触れないようにしてください。

型	名 称 様 式	特 徴
K	スプリットマイクロ式 	一般撮影に適します。中央スプリットプリズム部の外周にリング状にマイクロプリズムを設けたものです。
B	マ ッ ト 式 	一般撮影や接写、複写に適します。特にマット面でのピント合わせを好む人や、長焦点レンズなどスプリットプリズムが使用しにくい場合に好適です。
E	方 眼 マ ッ ト 式 	B型マット式に方眼を入れたもので、撮影の際の構図決定に役立ちます。特にPCニコールを使用するとき、このスクリーンを用いますと好都合です。

ファインダースクリーンとレンズの組み合わせ

◎：好適です。

●：スプリットプリズム部、マイクロプリズム部では、ピント合わせができませんので、周囲のマット面でピントを合わせます。

露出決定の目的には

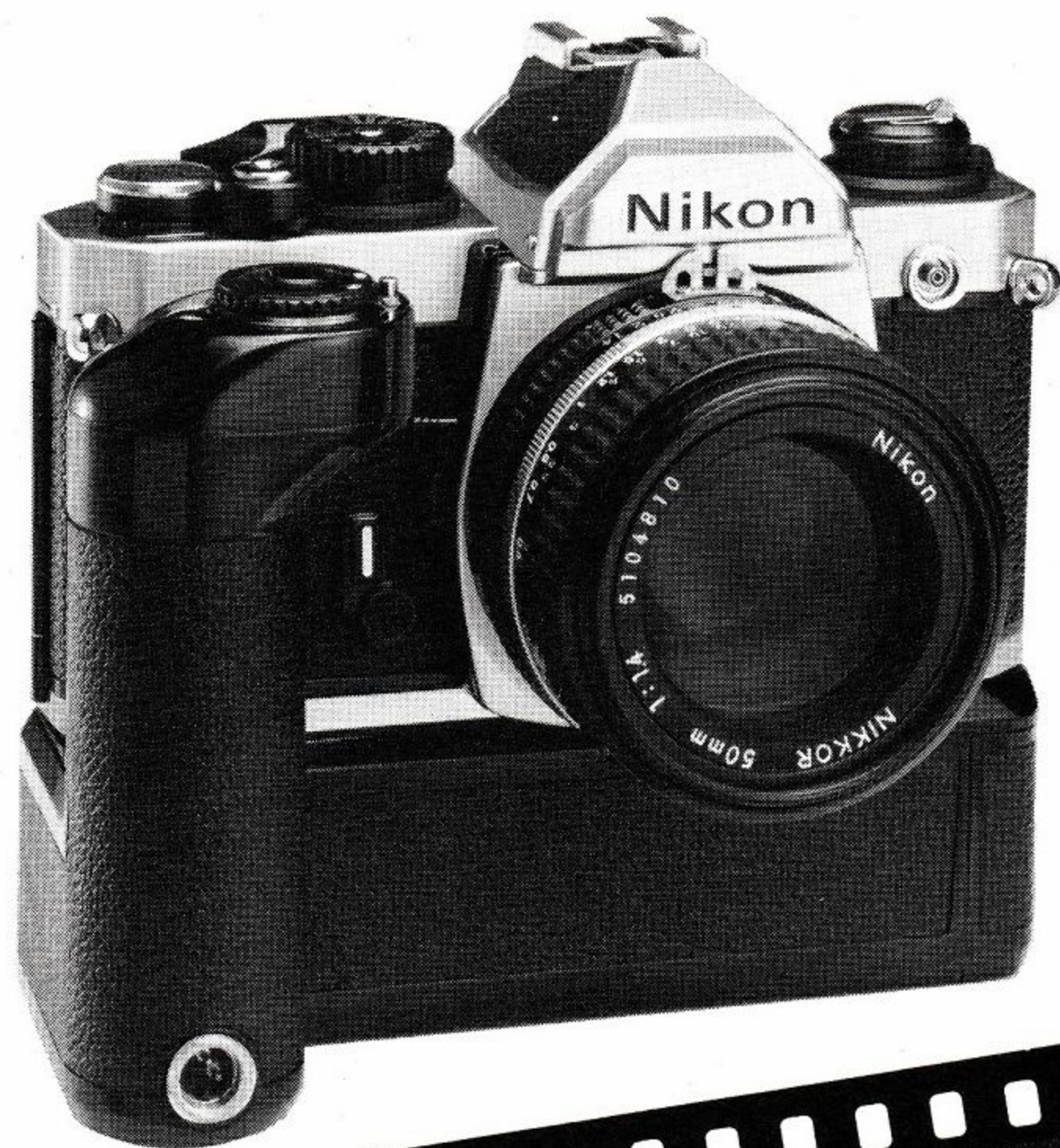
□ 開放測光で露出が決められることを示します。

■ 絞り込み測光でないと露出を決められないものを示します。

レンズ	スクリーン	K	B	E
魚 眼	6mmF2.8	◎	◎	◎
	8mmF2.8	◎	◎	◎
	16mmF2.8	◎	◎	◎
広 角	13mmF5.6	●	◎	◎
	15mmF3.5	◎	◎	◎
	18mmF3.5	◎	◎	◎
	18mmF4	◎	◎	◎
	20mmF3.5	◎	◎	◎
	24mmF2	◎	◎	◎
	24mmF2.8	◎	◎	◎
	28mmF2	◎	◎	◎
	28mmF2.8	◎	◎	◎
	28mmF3.5	◎	◎	◎
	35mmF1.4	◎	◎	◎
	35mmF2	◎	◎	◎
標 準	35mmF2.8	◎	◎	◎
	50mmF1.2	◎	◎	◎
	50mmF1.4	◎	◎	◎
望 遠	50mmF1.8	◎	◎	◎
	85mmF1.4	◎	◎	◎
	85mmF2	◎	◎	◎
	105mmF1.8	◎	◎	◎
	105mmF2.5	◎	◎	◎
	135mmF2	◎	◎	◎
	135mmF2.8	◎	◎	◎
	135mmF3.5	◎	◎	◎
	180mmF2.8	◎	◎	◎
	ED180mmF2.8	◎	◎	◎
	200mmF4	◎	◎	◎
	※ ED300mmF2.8	◎	◎	◎
	300mmF4.5	◎	◎	◎
	※ ED300mmF4.5	◎	◎	◎

レンズ	スクリーン	K	B	E
超 望 遠	※ ED400mmF3.5	◎	◎	◎
	※ ED400mmF5.6	●	◎	◎
	※ ED600mmF5.6	●	◎	◎
	※ ED800mmF8	●	◎	◎
	※ ED1200mmF11	●	◎	◎
ズ ー ム	25~50mmF4	◎	◎	◎
	35~70mmF3.5	◎	◎	◎
	43~86mmF3.5	◎	◎	◎
	ED50~300mmF4.5	◎	◎	◎
	80~200mmF4	◎	◎	◎
	ED180~600mmF8	●	◎	◎
	200~600mmF9.5	●	◎	◎
	ED360~1200mmF11	●	◎	◎
	28mmF3.5	●	◎	◎
	35mmF2.8	●	◎	◎
P C				
ノ ク ト	58mmF1.2	◎	◎	◎
マ イ ク ロ	55mmF2.8	◎	◎	◎
	105mmF4	●	◎	◎
	※ 200mmF4	◎	◎	◎
メ ディ カ ル	※ 120mmF4	◎	◎	◎
反 射	500mmF8	●	◎	◎
	1000mmF11	●	◎	◎
	2000mmF11	●	◎	◎
シ リ ー ズ E	E35mmF2.5	◎	◎	◎
	E100mmF2.8	◎	◎	◎
	E36~72mmF3.5	◎	◎	◎
	E75~150mmF3.5	◎	◎	◎

※印のレンズは内焦方式(IF)です。



モータードライブMD-12

モータードライブMD-12を、ニコンFM2に取りつけて使用しますと、モータードライブ側のシャッターレリーズボタンの操作により、フィルムの自動巻き上げができます。1コマ撮りのほか1秒間最高約3.2コマ(シャッタースピード1/125秒から1/4000秒の時)の連続撮影が可能です。動きのある被写体を撮影する場合、ファインダーから目を離さずに撮影出来ますので大変便利です。モータードライブMD-12は、ニコンFM2底部の三脚ねじ穴に取りつけねじで締めつけるだけで使用できます。





スピードライト

暗い場所での撮影や逆光でのポートレートなどに利用すると便利です。

ニコンのスピードライトは、手軽なものから、プロフェッショナルタイプまで各種あります。

ニコンスピードライトSB-E、SB-10をFM2に使用すれば、コードなしで接続出来また、ファインダー接眼部に内蔵されているレディライトによって、充電の完了、同調範囲外のシャッタースピードの警告指示がファインダーから目を離さずに確認できます。





データバックMF-12

ニコンFM2の裏ぶたをはずしてデータバックMF-12を取り付けますと、フィルム画面右下にデータを写し込むことができます。写し込みデータは、〈年・月・日〉または〈日・時・分〉あるいは任意の2桁の数字のどれか1つです。液晶表示のクォーツデジタルウォッチを内蔵しており、日時を一度セットしておけば西暦2100年までうるう年や月末を自動的に修正します。

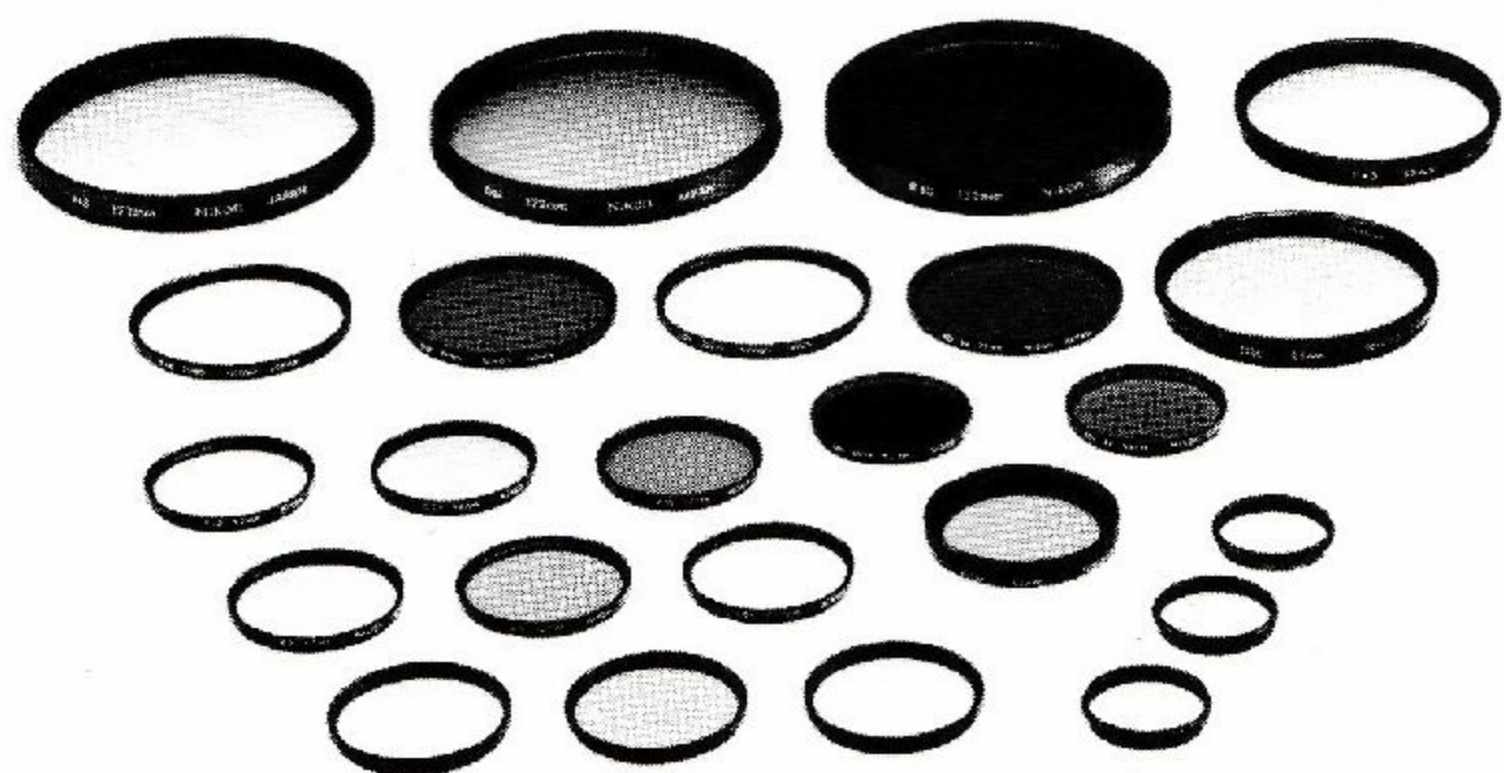


バッテリーホルダーDB-3

データバックMF-12は、銀電池を2個使用しますが、単4形乾電池2本を用いるバッテリーホルダーDB-3を装着することも可能です。DB-3を使用すれば、耐寒時の性能などが銀電池に比べて有利です。

データバックMF-12用底ケースCF-15D

データバックMF-12を取りつけたニコンFM2、FEカメラに使用する底ケースです。



フィルター

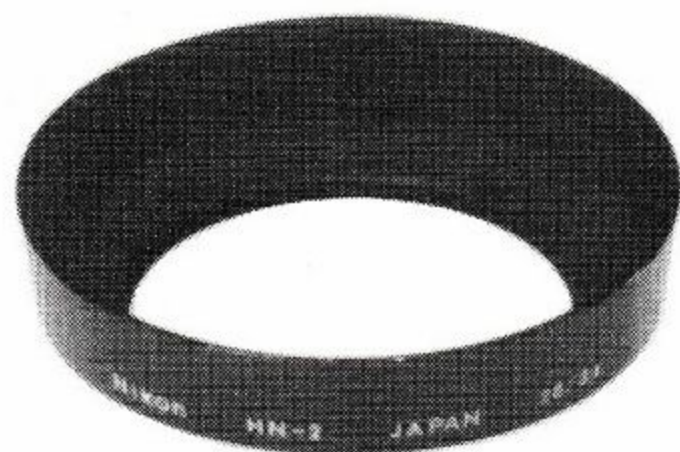
ニコンフィルターには表のような種類があり、大別してねじ込み式と平枠式の2つの形式があります。

ニコンFM2の場合は、R60を除いて実用上露出倍数を考慮する必要はありません。タングステン灯光下でR60を使用する場合にのみ、露出計の指示より露出を1段多く補正してください。

- フィルターをレンズ保護のために常用する場合は、L39あるいはL37Cの使用をおすすめします。
- 逆光撮影の際や輝度の高い光源が画面に入ったりするときは、場合によりフィルターによってゴーストが発生するおそれがありますので、フィルターをはずして撮影される方が良いでしょう。

種類	記号	露出倍数		ねじ込みサイズ(mm)						平枠 シリーズ IX
		昼光	タングステン灯光	39	52	62	72	95	122	
黒白・カラー用	スカイライト	L1BC	1	1	○	○	○	○		
	紫外線	L37C	1	1	○	○	○	○	○	
		L39	1	1		○	○	○	○	○
黒	黄	淡 Y 44	1.5($\frac{1}{2}$)	1		○				○
		中 Y 48	1.7($\frac{2}{3}$)	1.2($\frac{1}{3}$)		○	○	○	○	○
		濃 Y 52	2(1)	1.4($\frac{1}{2}$)	○	○				○
白	橙	O 56	3.5($1\frac{5}{6}$)	2(1)	○	○	○	○	○	○
	赤	R 60	8(3)	5($2\frac{1}{3}$)	○	○	○	○	○	○
用	黄 淡	X 0	2(1)	1.7($\frac{2}{3}$)		○				
	緑 濃	X 1	5($2\frac{1}{3}$)	3.5($1\frac{5}{6}$)		○				
黒白・カラー用	偏光	Polar	2~4(1~2)	2~4(1~2)		○	○	○		
	ソフト フィルター	No. 1	1	1		○				
		No. 2	1	1		○				
	ニュートラル デンシティ	ND 2X	2(1)	2(1)	○					
		ND 4X	4(2)	4(2)	○	○		○		
		ND 8X	8(3)	8(3)	○	○				
カラー用	アンバー	淡 A 2	1.2($\frac{1}{3}$)		○	○				
		濃 A 12	2(1)		○	○				
	ブルー	淡 B 2	1.2($\frac{1}{3}$)		○	○				
		中 B 8	1.6($\frac{2}{3}$)		○	○				
		濃 B 12	2.2($1\frac{1}{6}$)		○	○				

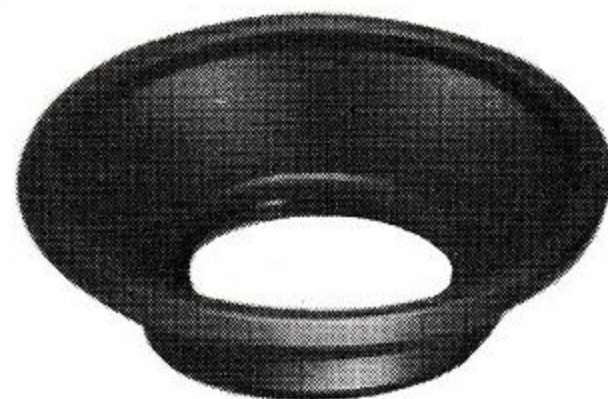
()内は絞りの段数を示す



レンズフード

レンズフードは、斜め前方または側方からの強い光が直接レンズ面に入るのを防ぐためのものです。ニコンレンズフードには、スプリング式、ねじ込み式、かぶせ式およびレンズに組み込まれていて引き出して使うものの4種類があります。

各種ニッコールレンズ、ニコンレンズシリーズEにそれぞれ専用のフードが用意されています。(レンズによっては共通に使うものもあります)



接眼目当て

接眼窓に取り付けて使用するゴム製の目当てで撮影にあたってファインダー視野がよりはっきり確認でき、目も疲れません。ファインダー接眼窓にとりつけます。



接眼補助レンズ

近視、遠視、老眼などの方のための補正レンズで接眼窓にとりつけます。

-5、-4、-3、-2、0、+0.5、+1、+2、+3ディオプターの9種類あります。

いずれもボディとの合成視度で、補助レンズ単体の視度ではありません。

視度補正は個人差が大きいので店頭で実際につけてみてお選びください。



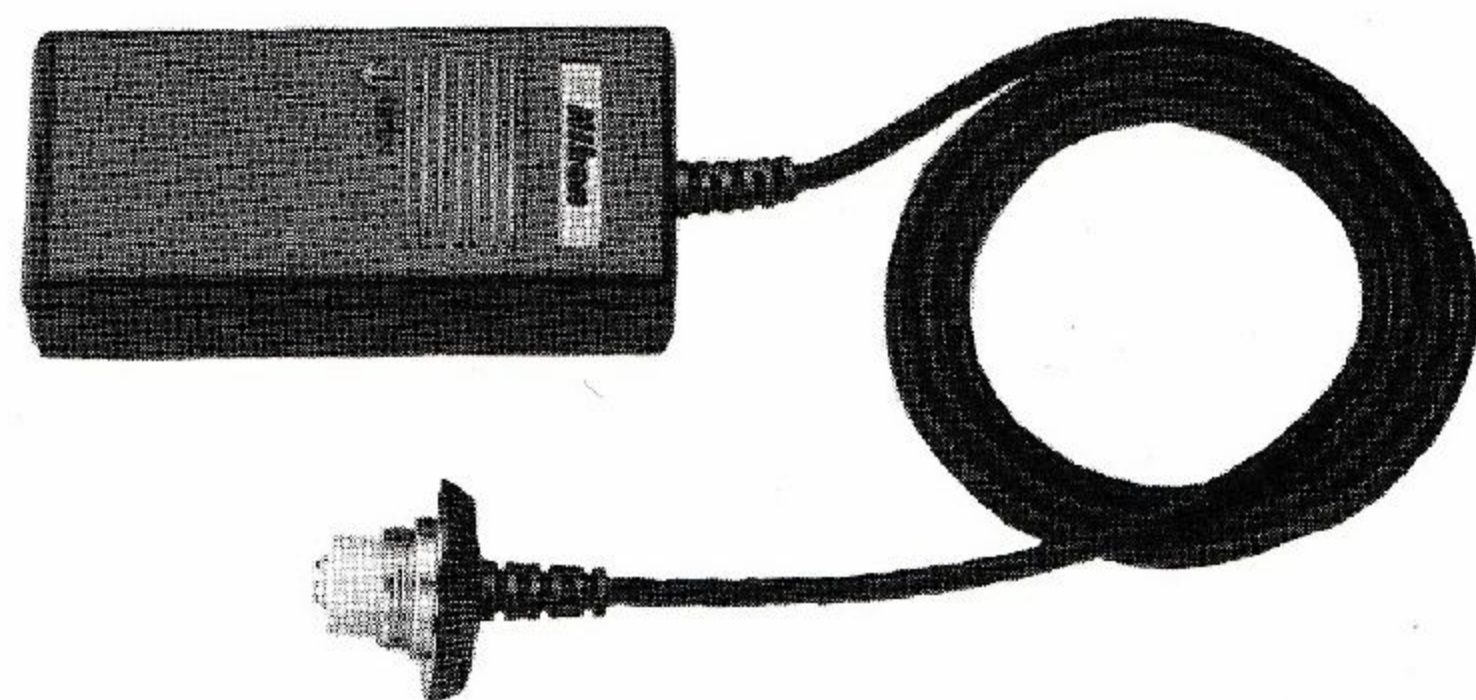
アングルフインダーDR-3

ファインダー接眼部に取りつけて、光軸と垂直の方向からファインダー像を見ることができるアクセサリです。接写や複写、顕微鏡写真などの撮影に便利です。



マグニファイヤーDG-2

ファインダー接眼部に取りつけて使用します。接写や複写をはじめ、超望遠レンズを使用した撮影において、より精密なピント合わせが必要なときにファインダー中央部の像を拡大して見るすることができます。



防寒バッテリーホルダーDB-2

カメラボディ用の外部電源で単3乾電池2本を使用します。カメラの電池を取り出してDB-2を接続し、DB-2本体をポケット等に入れておけば低温時でも安定した状態でカメラの電子回路を作動させることができます。



ケーブルリリースAR-3

シャッターリリースによって起こるカメラブレを防ぐ、ねじ込み式のリリースです。



カメラケース

ニコンFM2のカメラケースは、セミソフトCF-7、CF-8、CF-9があります。CF-7は50mmF1.4より小さいレンズ、CF-8は50mmF1.2から105mmF2.5および43~86mmF3.5の大きさのレンズ、CF-9はモータードライブをとりつけた時のケースです。この他にソフトケースCS-16もあります。



ネックストラップ

革製のAN-1(黒)とあみひも製のAN-4Y(黄色)、AN-4B(黒)および巾の広いあみひも製のAN-5Y(黄色)、AN-5W(茶色)があります。



ガゼットケース

コンパクトなケースから大型機材も収納出来るケースまで全部で6種類あります。
(FB-8、FB-11A、FB-14、FB-15、FB-16、FB-17)
用途に応じてご使用ください。

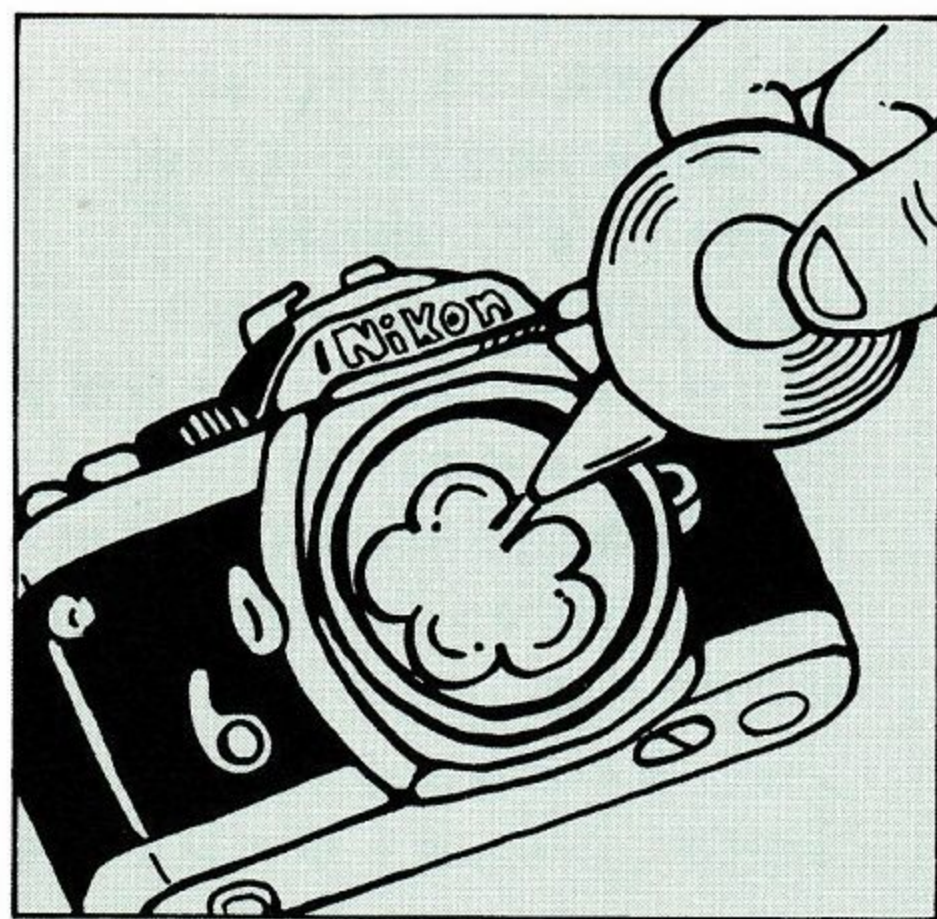
仕様

型式	35mm一眼レフレックスフォーカル プレーンシャッターカメラ
使用フィルム	パトローネ入り35mmフィルム各種
画面サイズ	24mm×36mm
レンズマウント	ニコンFマウント
レンズ絞り連動	瞬時復元式、被写界深度観測用絞 り込みレバー付き
シャッター	上下走行式・チタン幕メタルフォ ーカルプレーンシャッター
シャッタースピード	1〜1/4000秒 X200 (1/200秒) B (バルブ)
セルフタイマー	内蔵、セット解除装置付
ファインダー	アイレベル型、視野率約93%
ファインダー内表示	シャッタースピード、絞り値 (光 学直視式) +○- 露出過不足表示
ファインダースクリーン	スプリットマイクロ式(K型)標準 装備、他マット式(B型)、方眼マ ット式(E型)に交換可能
ミラー	クイックリターン式
巻き上げ	一作動レバー式、巻き上げ角135° 予備角30°
自動巻き上げ	モータードライブMD-12使用によ り可能(三脚ねじ穴に取り付け)
多重露出機構	多重露出レバーにより可能
フィルムカウンター	自動復元順算式(S・0〜36)
巻き戻し	クランク方式、巻き戻しボタン自 動復元

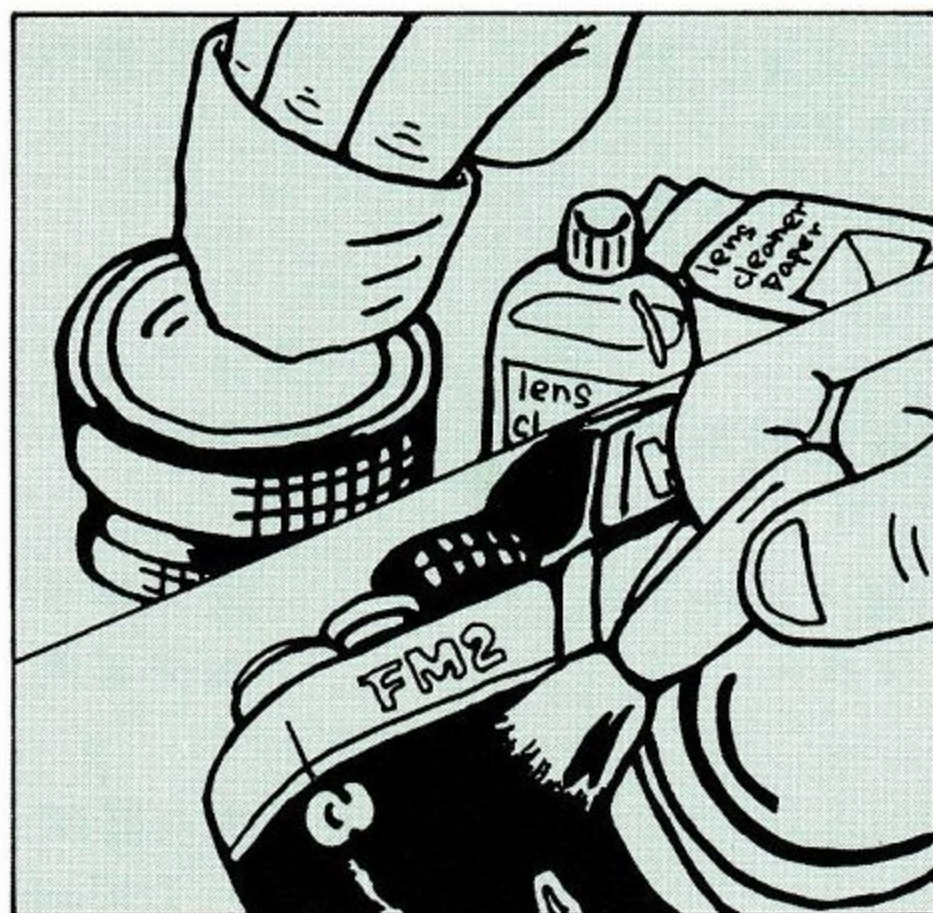
シンクロ接点	X接点のみ[1/125秒以下およびX200 (1/200秒)で同調]、ホットシュー およびJIS-B型ソケット、はずれ 防止ねじ止め付き
レディライト	内蔵
測光方式	TTL中央部重点開放測光 LED 3点5段階表示式
受光素子	SPD(シリコンフォトダイオード)
測光範囲	フィルム感度ASA/ISO100でF1.4 レンズ使用の場合EVI〜EVI8(f/1.4 で1秒〜f/8で1/4000秒)
フィルム感度	(ASA/ISO)セット範囲…ASA/ISO12〜6400
電源	3Vリチウム二酸化マンガン電池 (CR-1/3Nタイプ) 1個 1.55V銀電池(SR44タイプ) 2個 1.5Vアルカリマンガン乾電池(LR44 タイプ) 2個
露出計電源スイッチ	シャッターボタンを半押しでスイ ッチON、シャッターボタンより指 を離してから約30秒間スイッチON の状態を持続
電池チェック	露出計スイッチONにてLEDが点灯 すれば使用可
裏ぶた	巻き戻しノブ引き上げにて開く(安 全ロック付)、着脱可能、メモホル ダー付
大きさ	約142.5mm(幅)×90mm(高さ)× 60mm(奥行)(ボディのみ)
重量	約540g(ボディのみ)

カメラの手入れと保存

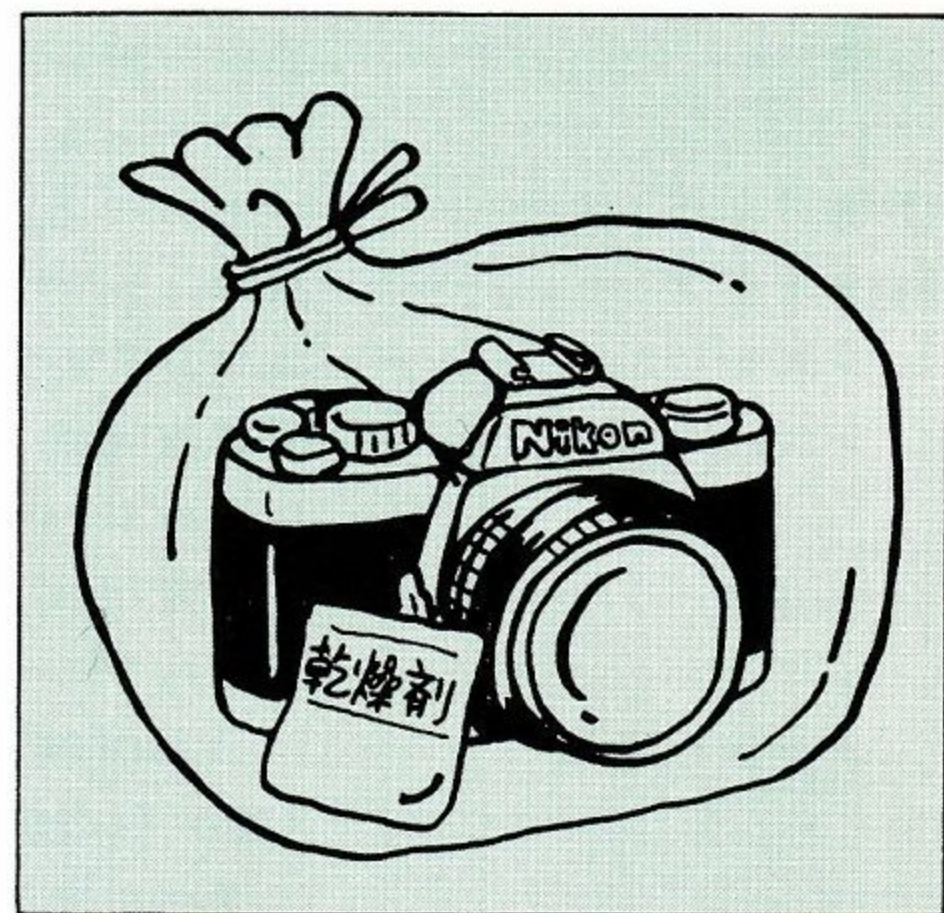
どんなよいカメラでも、適切な手入れと整備をしなければ、十分な性能は発揮できません。あなたのカメラを長持ちさせるために、ふだんの手入れをお忘れなく。



- ミラーとファインダースクリーンはキズがつきやすいので、ブロワーでホコリを吹き払う程度にしてさわらないでください。また、シャッター幕に直接手をふれたりしますと、変形や破損するおそれがありますのでご注意ください。



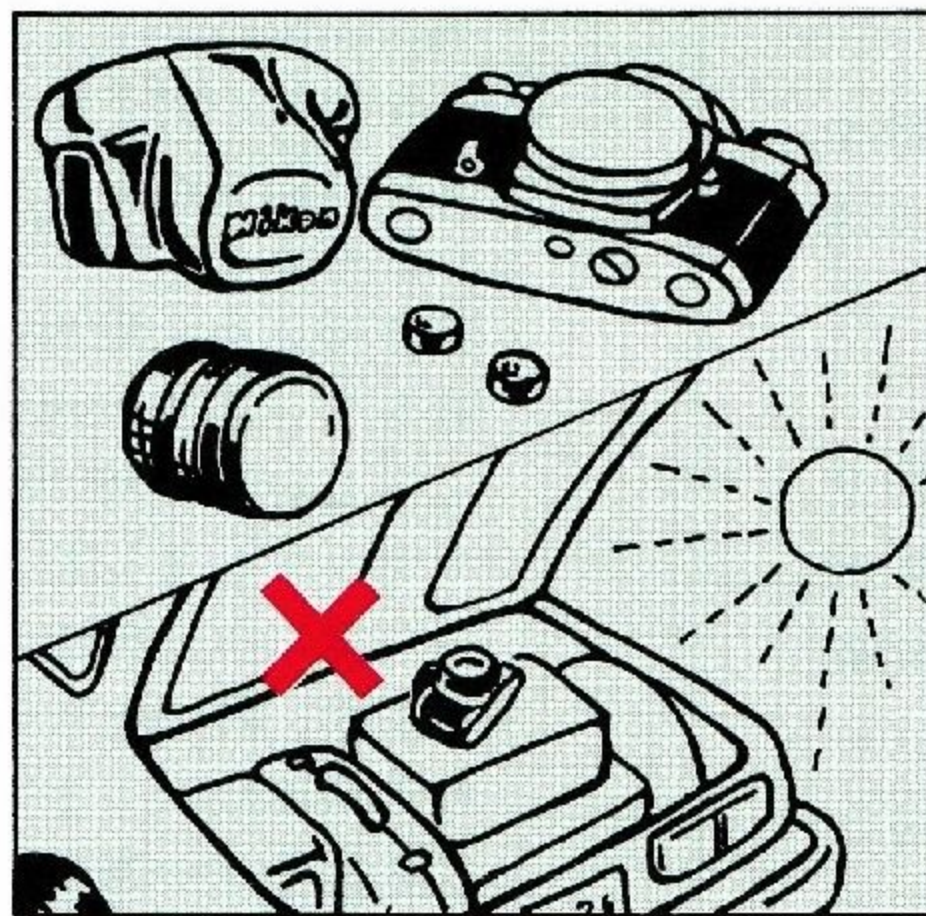
- レンズやファインダー接眼窓などのガラス面はむやみに拭かないで、ホコリを払う程度にしてください。万一指紋や汗がついた場合は、柔らかい清潔な木綿に少量の無水アルコール（エタノール）を湿して、中心から外側へ渦巻状に、拭きムラ、拭き残りのないように注意しながら軽く拭きます。
- 金属の部分は、ブロワーやレンズバケでゴミやホコリをよく払い乾いた柔らかい布でよく拭きます。



- カメラもレンズもホコリ、湿気、塩分をきらいます。湿気の多い時期は、カメラを革ケースから出してポリエチレン袋などに乾燥剤といっしょに入れておくようにしてください。
- 革ケースをビニール製の袋に入れておくと革ケースが変質することがありますのでご注意ください。



- 雨や霧の中を持ち歩いた後は、よく拭いて乾かしてください。特に海辺などで使った後は、真水を浸した布で塩分を拭き取ってから手入れしてください。
- カメラを水中に落したり、内部に水滴が入ったりすると、内部の手の届かないところまで水分が回ってしまい、部品がサビついてしまうことがあります。こうなると修理不能となるか、修理ができていても修理費用が多くかかることになりますのでくれぐれもご注意ください。



- 長期間カメラをお使いにならないときは電池を取り出して高温多湿の所やナフタリンや樟脳のある所は避けて保存してください。
- 高温・高湿下での長期間の保存は避けてください。



- カメラを使用するときには、必ず前もって整備、点検をするよう心掛けてください。
- 通常給油の必要はありません。

アフターサービスについて

お買い上げいただきましたニコンFM2を安心してご愛用いただけるよう、次の通りの修理、アフターサービスを行っております。

- ニコンFM2の修理部品は製造打ち切り後も10年間を目安に保有しております。したがって、修理可能期間は部品保有期間内とさせていただきます。
- なお、部品保有期間を過ぎました後におきましても、故障箇所によりましては修理可能な場合もありますので、お買い上げ店か当社サービス機関へお問い合わせください。

付記

水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。

なお、この故障または破損の程度の判定は当社サービス機関にお任せください。

電池の取扱いについて

- 電池は寿命がくると急激に性能が低下しますので、撮影前にはバッテリーのチェックをするよう心がけてください。また電池は早めに交換して大切なフィルムを無駄にしないよう注意してください。
- 酷寒時には、電池の性能が低下しますので、測光回路が正常に働かないおそれがあります。酷寒時に撮影する場合は、なるべく新しい電池をご使用になり、同時にカメラ本体も低温から守るようにしてください。なお、低温のために一時的に性能の落ちた電池は、常温に戻れば回復します。
- 長期間、電池室に入れたままでおきますと漏液などのために接触不良を起こしやすいので、電池および電池室の接触部をときどき柔らかい布でよく拭いてください。万一、漏液が付着したときには、電池室内をきれいに清掃して新しい電池と交換してください。
- 電池は使わなくても自己放電します。新しい電池を選ぶときの目安はパッケージに表示してある製造年月を調べることです。最初の2ケタが西暦を示し、後の2ケタが製造年月を示します。
(例) 82…1982年 01…1月
- 電池の交換は2個同時に。古い物をまぜて使用しないでください。
- カメラを長期間使わないときは、電池を取り出しておいてください。
- 電池は分解したり、ショートさせたり、火の中に入れたりしないでください。
- 電池は同メーカーのものをご使用ください。
- 電池の自己放電は、高温になるほど多くなります。保存する時は、低温(20℃以下)で、なおかつ電流が外表面を伝わり放電するのを防ぐため、湿度の低い所に保存してください。

お知らせ

ニコンFM2に使用できるレンズはAI方式ニッコールレンズ、ニコンレンズシリーズE、その他レフレックスニッコール、メディカルニッコールなどとなっています。これらのレンズ以外のレンズはニコンFM2に使用することはできません。これはレンズとFM2の露出計が連動しないことと、レンズによってはFM2に取りつけることができないためです。(無理にレンズを取りつけますと、ボディを破損したりレンズの着脱ができなくなることがあります。)

なお従来方式のレンズは、AI方式への改造によりニコンFM2にも使用可能となります。詳しくは、同封の「ニコンからのお知らせ」をご参照ください。

・AI方式以外のニッコールレンズでレフレックスニッコール500mmF8およびPCニッコール28mmF3.5、メディカルニッコール120mmF4は全てFM2に使用できますがそのほかのレンズは次のレンズのみFM2に使用可能です。

レフレックスニッコール1000mmF11は、製品No.14300以降のもの。

レフレックスニッコール2000mmF11は、製品No.20031以降のもの。

PCニッコール28mmF4は製品No.18090以降のもの。

PCニッコール35mmF2.8は製品No.90620以降のもの。

ズームニッコールED180~600mmF8は製品No.174167以降のもの。

ズームニッコール200~600mmF9.5は製品No.30049以降のもの。

ズームニッコールED360~1200mmF11は製品No.174088以降のもの。

なお上記No.以前のレンズおよびフォーカシングユニットAU-1につきましては改造修理により使用可能となりますが、改造修理につきましては当社サービス機関へ御相談ください。

85mmF1.8および105mmF2.5をAI方式に改造した場合、最小絞り以外の絞り値にセットしてカメラボディに取りつけてください。

50mmF1.8Sレンズは、従来方式のカメラボディへ取りつけた場合でも開放測光で使えるように絞り環の改造をお引き受けいたしております。

・ニコンレンズシリーズEの絞り環の改造は構造上改造が不可能のためお引き受けいたしておりません。

・ご旅行の時などに、予備の新しい電池を携帯することをおすすめします。

とくに海外では地域により電池の入手が難しい場合がございます。

Nikon 日本光学工業株式会社

本 社	●100・東京都千代田区丸の内3-2-3・富士ビル	☎東京(03)214-5311(大代表)
大 阪 営 業 所	●542・大阪市南区南船場2-11-20・興国ビル	☎大阪(06)251-7021(代表)
名 古 屋 営 業 所	●460・名古屋市中区栄2-5-1・宝第一ビル8階	☎名古屋(052)203-1871(代表)
札 幌 営 業 所	●060・札幌市中央区大通西1-13・大通ビル	☎札幌(011)231-7896(代表)
仙 台 営 業 所	●980・仙台市中央3-2-1・仙台清水ビル	☎仙台(0222)27-1237(代表)
新 潟 営 業 所	●951・新潟市西堀通5番町855・コーリンビル	☎新潟(0252)22-1461(代表)
横 浜 営 業 所	●220・横浜市西区北幸1-1-13・横浜駅前ビル	☎横浜(045)312-1101(代表)
広 島 営 業 所	●730・広島市中区袋町3-19・広島東邦生命ビル	☎広島(082)248-1216(代表)
福 岡 営 業 所	●810・福岡市中央区天神2-12-1・天神ビル	☎福岡(092)721-3561(代表)
東京・サービス部	●143・東京都大田区大森北6-19-22	☎東京(03)764-2601(代表)
東京サービスセンター ショールーム	●100・東京都千代田区丸の内2-5-2・三菱ビル	☎東京(03)215-0561・0562
東京サービスセンター修理部	●100・東京都千代田区丸の内1-2-1・東京海上ビル	☎東京(03)212-1608・1609
新宿サービスセンター	●160・東京都新宿区西新宿1-25-1・新宿センタービル地下1階	☎東京(03)349-0701(代表)
銀座サービスステーション	●104・東京都中央区銀座3-5-6・松島眼鏡店2階	☎東京(03)563-1308・1309
東京・大井サービスステーション	●140・東京都品川区大井1-2-15	☎東京(03)771-6963
青森サービスステーション	●030・青森市堤町1-2-21・青森県食糧会館3階	☎青森(0177)73-6691(代表)
大宮サービスステーション	●330・大宮市仲町2丁目75番・富国生命ビル4階	☎大宮(0486)44-8011(代表)
静岡サービスステーション	●420・静岡市南安倍1-3-10・山善静岡ビル8階	☎静岡(0542)52-5853・5854
名古屋サービスステーション	●450・名古屋市中村区名駅3-28-12・名古屋ビル4階	☎名古屋(052)563-2881(代表)
大阪・梅田サービスステーション	●530・大阪市北区芝田1-4-17・梅田エステートビル	☎大阪(06)372-3385・3602
高松サービスステーション	●760・香川県高松市古新町6-8・第3ミタケビル	☎高松(0878)21-1321(代表)
金沢サービスステーション	●920・金沢市尾山町3-18・金沢東京海上ビル	☎金沢(0762)22-1201(代表)
鹿児島サービスステーション	●892・鹿児島市山之口町2-1・安田火災海上鹿児島ビル9階	☎鹿児島(0992)24-1051(代表)